

講義コード	U350100101	科目ナンバリング	035A101
講義名	コミュニケーション演習(初級)1A		
副題	Das Leben (A1)		
英文科目名	German Communication (Basic Class) 1		
担当者名	BAUER, Lars		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 水曜日 1時限 西1-102		

授業概要

テーマごとに基本的な語彙や表現を身につけ、文法知識を使えるものにします。ドイツ語の入門と基礎固めをしながら「話す」「聞く」「書く」「読む」能力をバランスよく習得することを目標とします。

到達目標

様々な場面(挨拶、喫茶店、街や家族の紹介など)やテーマ(職業、休暇、飲食、洋服、天気など)におけるドイツ語の表現をマスターします。

授業内容

実施回	内容
第1回	挨拶表現;アルファベート
第2回	Lektion 1: 自己紹介の表現;疑問詞(wo, woher)と前置詞(in, aus)
第3回	Lektion 2: 住所と電話番号;数字
第4回	Lektion 2+3: 喫茶店での会話;動詞の人称変化
第5回	Lektion 3: 喫茶店での会話;定冠詞と不定冠詞
第6回	Lektion 4: レストラン表現;疑問文と前置詞(mit, ohne)
第7回	Lektion 4+5: 時間の表現;曜日や時間
第8回	Lektion 5: 時間の表現;分離動詞
第9回	Lektion 6: 街を散策する;名詞の複数形
第10回	Lektion 6+7: 場所の表現;3・4格支配の前置詞
第11回	Lektion 7: 場所の表現;建物の中の案内
第12回	Lektion 8: 趣味や休暇について語り合う;war と haben の過去形;話法の助動詞(können)
第13回	学期末試験
第14回	Lektion 9: 住居を紹介する;様々な形容詞表現
第15回	Lektion 9+10: 家族を紹介する;所有冠詞
第16回	Lektion 10: 家族を紹介する;現在完了形
第17回	Lektion 11: 体験談を語る;様々な職業に関する表現
第18回	Lektion 11+12: 料理;料理に関する表現
第19回	Lektion 12: 料理;話法の助動詞(müssen)
第20回	Lektion 13: スポーツ;命令形
第21回	Lektion 13+14: 衣服;衣服と色に関する表現
第22回	Lektion 14: 衣服;冠詞の代名詞化
第23回	Lektion 14+15: 季節と天気;天気予報、非人称表現(es)
第24回	Lektion 15: 季節と天気;形容詞の比較表現
第25回	Lektion 16: 旅行;休暇の計画を話す;話法の助動詞(wollen);
第26回	学年末試験

授業計画コメント

ドイツ語圏文化学科(1年次)のみを対象とした科目で、コミュニケーション演習(初級)1、2を同時履修することになっています。共通の教科書を用い、担当者間で内容や進度の確認をしながら進めていきます。

授業方法

授業は基本的に対面で行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

単語帳に挙がっている単語は毎回事前に目を通しておくこと。授業時に出た宿題を必ずやること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	
学年末試験(第2学期)	45 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

教科書の2～3つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分は、あくまで目安です。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

テスト返却時にコメントします。

教科書

Das Leben (A1.1): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

Das Leben (A1.2): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

教科書コメント

以上のテキストはすべてそろえて必ず購入すること。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

その他

原則として1年次に履修すること。

講義コード	U350100102	科目ナンバリング	035A101
講義名	コミュニケーション演習(初級)1B		
副題	Das Leben (A1)		
英文科目名	German Communication (Basic Class) 1		
担当者名	BAUER, Lars		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 水曜日 2時限 西1-102		

授業概要

テーマごとに基本的な語彙や表現を身につけ、文法知識を使えるものにします。ドイツ語の入門と基礎固めをしながら「話す」「聞く」「書く」「読む」能力をバランスよく習得することを目標とします。

到達目標

様々な場面(挨拶、喫茶店、街や家族の紹介など)やテーマ(職業、休暇、飲食、洋服、天気など)におけるドイツ語の表現をマスターします。

授業内容

実施回	内容
第1回	挨拶表現;アルファベート
第2回	Lektion 1: 自己紹介の表現;疑問詞(wo, woher)と前置詞(in, aus)
第3回	Lektion 2: 住所と電話番号;数字
第4回	Lektion 2+3: 喫茶店での会話;動詞の人称変化
第5回	Lektion 3: 喫茶店での会話;定冠詞と不定冠詞
第6回	Lektion 4: レストラン表現;疑問文と前置詞(mit, ohne)
第7回	Lektion 4+5: 時間の表現;曜日や時間
第8回	Lektion 5: 時間の表現;分離動詞
第9回	Lektion 6: 街を散策する;名詞の複数形
第10回	Lektion 6+7: 場所の表現;3・4格支配の前置詞
第11回	Lektion 7: 場所の表現;建物の中の案内
第12回	Lektion 8: 趣味や休暇について語り合う;war と haben の過去形;話法の助動詞(können)
第13回	学期末試験
第14回	Lektion 9: 住居を紹介する;様々な形容詞表現
第15回	Lektion 9+10: 家族を紹介する;所有冠詞
第16回	Lektion 10: 家族を紹介する;現在完了形
第17回	Lektion 11: 体験談を語る;様々な職業に関する表現
第18回	Lektion 11+12: 料理;料理に関する表現
第19回	Lektion 12: 料理;話法の助動詞(müssen)
第20回	Lektion 13: スポーツ;命令形
第21回	Lektion 13+14: 衣服;衣服と色に関する表現
第22回	Lektion 14: 衣服;冠詞の代名詞化
第23回	Lektion 14+15: 季節と天気;天気予報、非人称表現(es)
第24回	Lektion 15: 季節と天気;形容詞の比較表現
第25回	Lektion 16: 旅行;休暇の計画を話す;話法の助動詞(wollen);
第26回	学年末試験

授業計画コメント

ドイツ語圏文化学科(1年次)のみを対象とした科目で、コミュニケーション演習(初級)1、2を同時履修することになっています。共通の教科書を用い、担当者間で内容や進度の確認をしながら進めていきます。

授業方法

授業は基本的に対面で行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

単語帳に挙がっている単語は毎回事前に目を通しておくこと。授業時に出た宿題を必ずやること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	
学年末試験(第2学期)	45 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

教科書の2～3つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分は、あくまで目安です。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

テスト返却時にコメントします。

教科書

Das Leben (A1.1): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

Das Leben (A1.2): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

教科書コメント

以上のテキストはすべてそろえて必ず購入すること。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

その他

原則として1年次に履修すること。

講義コード	U350101101	科目ナンバリング	035A102
講義名	コミュニケーション演習(初級)2A		
副題	Das Leben (A1)		
英文科目名	German Communication (Basic Class) 2		
担当者名	KERN, Daniel		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 金曜日 2時限 西2-305		

授業概要

テーマごとに基本的な語彙や表現を身につけ、文法知識を使えるものにします。ドイツ語の入門と基礎固めをしながら「話す」「聞く」「書く」「読む」能力をバランスよく習得することを目標とします。

到達目標

様々な場面(挨拶、喫茶店、街や家族の紹介など)やテーマ(職業、休暇、飲食、洋服、天気など)におけるドイツ語の表現をマスターします。

授業内容

実施回	内容
第1回	挨拶表現;アルファベート
第2回	Lektion 1: 自己紹介の表現;疑問詞(wo, woher)と前置詞(in, aus)
第3回	Lektion 2: 住所と電話番号;数字
第4回	Lektion 2+3: 喫茶店での会話;動詞の人称変化
第5回	Lektion 3: 喫茶店での会話;定冠詞と不定冠詞
第6回	Lektion 4: レストラン表現;疑問文と前置詞(mit, ohne)
第7回	Lektion 4+5: 時間の表現;曜日や時間
第8回	Lektion 5: 時間の表現;分離動詞
第9回	Lektion 6: 街を散策する;名詞の複数形
第10回	Lektion 6+7: 場所の表現;3・4格支配の前置詞
第11回	Lektion 7: 場所の表現;建物の中の案内
第12回	Lektion 8: 趣味や休暇について語り合う;war と haben の過去形;話法の助動詞(können)
第13回	学期末試験
第14回	Lektion 9: 住居を紹介する;様々な形容詞表現
第15回	Lektion 9+10: 家族を紹介する;所有冠詞
第16回	Lektion 10: 家族を紹介する;現在完了形
第17回	Lektion 11: 体験談を語る;様々な職業に関する表現
第18回	Lektion 11+12: 料理;料理に関する表現
第19回	Lektion 12: 料理;話法の助動詞(müssen)
第20回	Lektion 13: スポーツ;命令形
第21回	Lektion 13+14: 衣服;衣服と色に関する表現
第22回	Lektion 14: 衣服;冠詞の代名詞化
第23回	Lektion 14+15: 季節と天気;天気予報、非人称表現(es)
第24回	Lektion 15: 季節と天気;形容詞の比較表現
第25回	Lektion 16: 旅行;休暇の計画を話す;話法の助動詞(wollen);
第26回	学年末試験

授業計画コメント

ドイツ語圏文化学科(1年次)のみを対象とした科目で、コミュニケーション演習(初級)1、2を同時履修することになっています。共通の教科書を用い、担当者間で内容や進度の確認をしながら進めていきます。

授業方法

授業は基本的に対面で行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

単語帳に挙がっている単語は毎回事前に目を通しておくこと。授業時に出た宿題を必ずやること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	
学年末試験(第2学期)	45 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

教科書の2~3つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分は、あくまで目安です。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

テスト返却時にコメントします。

教科書

Das Leben (A1.1): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

Das Leben (A1.2): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

教科書コメント

以上のテキストはすべてそろえて必ず購入すること。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

その他

原則として1年次に履修すること。

講義コード	U350101102	科目ナンバリング	035A102
講義名	コミュニケーション演習(初級)2B		
副題	Das Leben (A1)		
英文科目名	German Communication (Basic Class) 2		
担当者名	KERN, Daniel		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 金曜日 1時限 西2-305		

授業概要

テーマごとに基本的な語彙や表現を身につけ、文法知識を使えるものにします。ドイツ語の入門と基礎固めをしながら「話す」「聞く」「書く」「読む」能力をバランスよく習得することを目標とします。

到達目標

様々な場面(挨拶、喫茶店、街や家族の紹介など)やテーマ(職業、休暇、飲食、洋服、天気など)におけるドイツ語の表現をマスターします。

授業内容

実施回	内容
第1回	挨拶表現;アルファベート
第2回	Lektion 1: 自己紹介の表現;疑問詞(wo, woher)と前置詞(in, aus)
第3回	Lektion 2: 住所と電話番号;数字
第4回	Lektion 2+3: 喫茶店での会話;動詞の人称変化
第5回	Lektion 3: 喫茶店での会話;定冠詞と不定冠詞
第6回	Lektion 4: レストラン表現;疑問文と前置詞(mit, ohne)
第7回	Lektion 4+5: 時間の表現;曜日や時間
第8回	Lektion 5: 時間の表現;分離動詞
第9回	Lektion 6: 街を散策する;名詞の複数形
第10回	Lektion 6+7: 場所の表現;3・4格支配の前置詞
第11回	Lektion 7: 場所の表現;建物の中の案内
第12回	Lektion 8: 趣味や休暇について語り合う;war と haben の過去形;話法の助動詞(können)
第13回	学期末試験
第14回	Lektion 9: 住居を紹介する;様々な形容詞表現
第15回	Lektion 9+10: 家族を紹介する;所有冠詞
第16回	Lektion 10: 家族を紹介する;現在完了形
第17回	Lektion 11: 体験談を語る;様々な職業に関する表現
第18回	Lektion 11+12: 料理;料理に関する表現
第19回	Lektion 12: 料理;話法の助動詞(müssen)
第20回	Lektion 13: スポーツ;命令形
第21回	Lektion 13+14: 衣服;衣服と色に関する表現
第22回	Lektion 14: 衣服;冠詞の代名詞化
第23回	Lektion 14+15: 季節と天気;天気予報、非人称表現(es)
第24回	Lektion 15: 季節と天気;形容詞の比較表現
第25回	Lektion 16: 旅行;休暇の計画を話す;話法の助動詞(wollen);
第26回	学年末試験

授業計画コメント

ドイツ語圏文化学科(1年次)のみを対象とした科目で、コミュニケーション演習(初級)1、2を同時履修することになっています。共通の教科書を用い、担当者間で内容や進度の確認をしながら進めていきます。

授業方法

授業は基本的に対面で行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

単語帳に挙がっている単語は毎回事前に目を通しておくこと。授業時に出た宿題を必ずやること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	
学年末試験(第2学期)	45 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

教科書の2~3つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分は、あくまで目安です。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

テスト返却時にコメントします。

教科書

Das Leben (A1.1): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

Das Leben (A1.2): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

教科書コメント

以上のテキストはすべてそろえて必ず購入すること。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

その他

原則として1年次に履修すること。

講義コード	U350102101	科目ナンバリング	035A201
講義名	コミュニケーション演習(中級)1A		
副題	Das Leben (A2)		
英文科目名	German Communication (Intermediate Class) 1		
担当者名	WOELBLING, Eva		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 水曜日 1時限 西1-105		

授業概要

より総合的なドイツ語運用能力を身につけ、ヨーロッパ言語共通参照枠におけるA2レベルのドイツ語力の習得を目指します。コミュニケーション演習中級の1・2・3は、AとBのどのクラスにおいても、それぞれすべて履修することになっています。

到達目標

様々な場面(イベント、家探し、仕事探し等)での様々なテーマ(メディア、環境、地域、文化等)に関してドイツ語で自らの意見を述べるができるようになります。

授業内容

実施回	内容
第1回	Lektion1 同窓会;招待状を書く
第2回	Lektion1+2 学校時代;再帰代名詞、従属接続詞dass
第3回	Lektion2 交通と移動;従属接続詞weil
第4回	Lektion3 ドイツで家を探す
第5回	Lektion3+4 住居について語る;動詞の名詞化
第6回	Lektion4 インターネットとメディア;間接疑問文ob
第7回	Lektion5 働き方
第8回	Lektion5+6 履歴書を書く;形容詞変化(1格・4格)
第9回	Lektion6 読書;規則動詞の過去形
第10回	Lektion7 動物と暮らす;形容詞変化(3格)
第11回	Lektion7+8 都市を紹介する
第12回	Lektion8 地域の料理と特産品;関係文
第13回	学期末試験
第14回	Lektion9 日常生活を語る
第15回	Lektion9+10 家事;話法の助動詞過去
第16回	Lektion10 フェスティバルと音楽
第17回	Lektion11 自然と環境
第18回	Lektion11+12 環境保護について語る;従属接続詞wenn
第19回	Lektion12 修理とDIY;受動態(現在形)
第20回	Lektion13 山を歩く;感情を表現する
第21回	Lektion13+14 友情を語る
第22回	Lektion14 統計の表現;2格
第23回	Lektion15 田舎の生活
第24回	Lektion15+16 過去と現在を比較する;受動態(過去形)
第25回	Lektion16 幸福と人生の夢;理由の表現(denn)
第26回	学年末試験

授業計画コメント

コミュニケーション演習中級の1・2・3ともに、同じ教科書を使用し、担当教員間で内容や進度の確認をしつつ、連動して授業をすすめていきます。

授業方法

授業は基本的に対面で行います。遠隔授業に切り替える必要が生じたら、Zoomを利用した同時配信型の授業を行います。

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

事前に教科書と単語帳の該当箇所を目を通して頂くこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分はあくまで目安です。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

返却時にコメントします。

教科書

Das Leben (A2.1): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

Das Leben (A2.2): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

教科書コメント

以上のテキストはすべてそろえて必ず購入すること。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。
ドイツ語既修者で1年次にDas Leben (A2)の履修を希望する学生は、かならず学科教務委員に事前に相談し、履修が決定した後で教科書を購入してください。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U350102102	科目ナンバリング	035A201
講義名	コミュニケーション演習(中級)1B		
副題	Das Leben (A2)		
英文科目名	German Communication (Intermediate Class) 1		
担当者名	WOELBLING, Eva		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 水曜日 2時限 西1-105		

授業概要

より総合的なドイツ語運用能力を身につけ、ヨーロッパ言語共通参照枠におけるA2レベルのドイツ語力の習得を目指します。コミュニケーション演習中級の1・2・3は、AとBのどのクラスにおいても、それぞれすべて履修することになっています。

到達目標

様々な場面(イベント、家探し、仕事探し等)での様々なテーマ(メディア、環境、地域、文化等)に関してドイツ語で自らの意見を述べるができるようになります。

授業内容

実施回	内容
第1回	Lektion1 同窓会;招待状を書く
第2回	Lektion1+2 学校時代;再帰代名詞、従属接続詞dass
第3回	Lektion2 交通と移動;従属接続詞weil
第4回	Lektion3 ドイツで家を探す
第5回	Lektion3+4 住居について語る;動詞の名詞化
第6回	Lektion4 インターネットとメディア;間接疑問文ob
第7回	Lektion5 働き方
第8回	Lektion5+6 履歴書を書く;形容詞変化(1格・4格)
第9回	Lektion6 読書;規則動詞の過去形
第10回	Lektion7 動物と暮らす;形容詞変化(3格)
第11回	Lektion7+8 都市を紹介する
第12回	Lektion8 地域の料理と特産品;関係文
第13回	学期末試験
第14回	Lektion9 日常生活を語る
第15回	Lektion9+10 家事;話法の助動詞過去
第16回	Lektion10 フェスティバルと音楽
第17回	Lektion11 自然と環境
第18回	Lektion11+12 環境保護について語る;従属接続詞wenn
第19回	Lektion12 修理とDIY;受動態(現在形)
第20回	Lektion13 山を歩く;感情を表現する
第21回	Lektion13+14 友情を語る
第22回	Lektion14 統計の表現;2格
第23回	Lektion15 田舎の生活
第24回	Lektion15+16 過去と現在を比較する;受動態(過去形)
第25回	Lektion16 幸福と人生の夢;理由の表現(denn)
第26回	学年末試験

授業計画コメント

コミュニケーション演習中級の1・2・3ともに、同じ教科書を使用し、担当教員間で内容や進度の確認をしつつ、連動して授業をすすめていきます。

授業方法

授業は基本的に対面で行います。遠隔授業に切り替える必要が生じたら、Zoomを利用した同時配信型の授業を行います。

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

事前に教科書と単語帳の該当箇所を目を通して頂くこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分はあくまで目安です。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

返却時にコメントします。

教科書

Das Leben (A2.1): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

Das Leben (A2.2): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

教科書コメント

以上のテキストはすべてそろえて必ず購入すること。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。
ドイツ語既修者で1年次にDas Leben (A2)の履修を希望する学生は、かならず学科教務委員に事前に相談し、履修が決定した後で教科書を購入してください。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U350103101	科目ナンバリング	035A202
講義名	コミュニケーション演習(中級)2A		
副題	Das Leben (A2)		
英文科目名	German Communication (Intermediate Class) 2		
担当者名	KERN, Daniel		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 月曜日 1時限 西5-301		

授業概要

より総合的なドイツ語運用能力を身につけ、ヨーロッパ言語共通参照枠におけるA2レベルのドイツ語力の習得を目指します。コミュニケーション演習中級の1・2・3は、AとBのどのクラスにおいても、それぞれすべて履修することになっています。

到達目標

様々な場面(イベント、家探し、仕事探し等)での様々なテーマ(メディア、環境、地域、文化等)に関してドイツ語で自らの意見を述べるができるようになります。

授業内容

実施回	内容
第1回	Lektion1 同窓会;招待状を書く
第2回	Lektion1+2 学校時代;再帰代名詞、従属接続詞dass
第3回	Lektion2 交通と移動;従属接続詞weil
第4回	Lektion3 ドイツで家を探す
第5回	Lektion3+4 住居について語る;動詞の名詞化
第6回	Lektion4 インターネットとメディア;間接疑問文ob
第7回	Lektion5 働き方
第8回	Lektion5+6 履歴書を書く;形容詞変化(1格・4格)
第9回	Lektion6 読書;規則動詞の過去形
第10回	Lektion7 動物と暮らす;形容詞変化(3格)
第11回	Lektion7+8 都市を紹介する
第12回	Lektion8 地域の料理と特産品;関係文
第13回	学期末試験
第14回	Lektion9 日常生活を語る
第15回	Lektion9+10 家事;話法の助動詞過去
第16回	Lektion10 フェスティバルと音楽
第17回	Lektion11 自然と環境
第18回	Lektion11+12 環境保護について語る;従属接続詞wenn
第19回	Lektion12 修理とDIY;受動態(現在形)
第20回	Lektion13 山を歩く;感情を表現する
第21回	Lektion13+14 友情を語る
第22回	Lektion14 統計の表現;2格
第23回	Lektion15 田舎の生活
第24回	Lektion15+16 過去と現在を比較する;受動態(過去形)
第25回	Lektion16 幸福と人生の夢;理由の表現(denn)
第26回	学年末試験

授業計画コメント

コミュニケーション演習中級の1・2・3ともに、同じ教科書を使用し、担当教員間で内容や進度の確認をしつつ、連動して授業をすすめていきます。

授業方法

授業は基本的に対面で行います。遠隔授業に切り替える必要が生じたら、Zoomを利用した同時配信型の授業を行います。

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

事前に教科書と単語帳の該当箇所を目を通して頂くこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分はあくまで目安です。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

返却時にコメントします。

教科書

Das Leben (A2.1): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

Das Leben (A2.2): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

教科書コメント

以上のテキストはすべてそろえて必ず購入すること。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。ドイツ語既修者で1年次にDas Leben (A2)の履修を希望する学生は、かならず学科教務委員に事前に相談し、履修が決定した後で教科書を購入してください。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U350103102	科目ナンバリング	035A202
講義名	コミュニケーション演習(中級)2B		
副題	Das Leben (A2)		
英文科目名	German Communication (Intermediate Class) 2		
担当者名	KERN, Daniel		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 月曜日 2時限 西5-301		

授業概要

より総合的なドイツ語運用能力を身につけ、ヨーロッパ言語共通参照枠におけるA2レベルのドイツ語力の習得を目指します。コミュニケーション演習中級の1・2・3は、AとBのどのクラスにおいても、それぞれすべて履修することになっています。

到達目標

様々な場面(イベント、家探し、仕事探し等)での様々なテーマ(メディア、環境、地域、文化等)に関してドイツ語で自らの意見を述べるができるようになります。

授業内容

実施回	内容
第1回	Lektion1 同窓会;招待状を書く
第2回	Lektion1+2 学校時代;再帰代名詞、従属接続詞dass
第3回	Lektion2 交通と移動;従属接続詞weil
第4回	Lektion3 ドイツで家を探す
第5回	Lektion3+4 住居について語る;動詞の名詞化
第6回	Lektion4 インターネットとメディア;間接疑問文ob
第7回	Lektion5 働き方
第8回	Lektion5+6 履歴書を書く;形容詞変化(1格・4格)
第9回	Lektion6 読書;規則動詞の過去形
第10回	Lektion7 動物と暮らす;形容詞変化(3格)
第11回	Lektion7+8 都市を紹介する
第12回	Lektion8 地域の料理と特産品;関係文
第13回	学期末試験
第14回	Lektion9 日常生活を語る
第15回	Lektion9+10 家事;話法の助動詞過去
第16回	Lektion10 フェスティバルと音楽
第17回	Lektion11 自然と環境
第18回	Lektion11+12 環境保護について語る;従属接続詞wenn
第19回	Lektion12 修理とDIY;受動態(現在形)
第20回	Lektion13 山を歩く;感情を表現する
第21回	Lektion13+14 友情を語る
第22回	Lektion14 統計の表現;2格
第23回	Lektion15 田舎の生活
第24回	Lektion15+16 過去と現在を比較する;受動態(過去形)
第25回	Lektion16 幸福と人生の夢;理由の表現(denn)
第26回	学年末試験

授業計画コメント

コミュニケーション演習中級の1・2・3ともに、同じ教科書を使用し、担当教員間で内容や進度の確認をしつつ、連動して授業をすすめていきます。

授業方法

授業は基本的に対面で行います。遠隔授業に切り替える必要が生じたら、Zoomを利用した同時配信型の授業を行います。

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

事前に教科書と単語帳の該当箇所を目を通して頂くこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分はあくまで目安です。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

返却時にコメントします。

教科書

Das Leben (A2.1): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

Das Leben (A2.2): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

教科書コメント

以上のテキストはすべてそろえて必ず購入すること。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。ドイツ語既修者で1年次にDas Leben (A2)の履修を希望する学生は、かならず学科教務委員に事前に相談し、履修が決定した後で教科書を購入してください。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U350104101	科目ナンバリング	035A203
講義名	コミュニケーション演習(中級)3A		
副題	Das Leben (A2)		
英文科目名	German Communication (Intermediate Class) 3		
担当者名	BEIER-TAGUCHI Diana		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 火曜日 3時限 西5-301		

授業概要

より総合的なドイツ語運用能力を身につけ、ヨーロッパ言語共通参照枠におけるA2レベルのドイツ語力の習得を目指します。コミュニケーション演習中級の1・2・3は、AとBのどのクラスにおいても、それぞれすべて履修することになっています。

到達目標

様々な場面(イベント、家探し、仕事探し等)での様々なテーマ(メディア、環境、地域、文化等)に関してドイツ語で自らの意見を述べるができるようになります。

授業内容

実施回	内容
第1回	Lektion1 同窓会;招待状を書く
第2回	Lektion1+2 学校時代;再帰代名詞、従属接続詞dass
第3回	Lektion2 交通と移動;従属接続詞weil
第4回	Lektion3 ドイツで家を探す
第5回	Lektion3+4 住居について語る;動詞の名詞化
第6回	Lektion4 インターネットとメディア;間接疑問文ob
第7回	Lektion5 働き方
第8回	Lektion5+6 履歴書を書く;形容詞変化(1格・4格)
第9回	Lektion6 読書;規則動詞の過去形
第10回	Lektion7 動物と暮らす;形容詞変化(3格)
第11回	Lektion7+8 都市を紹介する
第12回	Lektion8 地域の料理と特産品;関係文
第13回	学期末試験
第14回	Lektion9 日常生活を語る
第15回	Lektion9+10 家事;話法の助動詞過去
第16回	Lektion10 フェスティバルと音楽
第17回	Lektion11 自然と環境
第18回	Lektion11+12 環境保護について語る;従属接続詞wenn
第19回	Lektion12 修理とDIY;受動態(現在形)
第20回	Lektion13 山を歩く;感情を表現する
第21回	Lektion13+14 友情を語る
第22回	Lektion14 統計の表現;2格
第23回	Lektion15 田舎の生活
第24回	Lektion15+16 過去と現在を比較する;受動態(過去形)
第25回	Lektion16 幸福と人生の夢;理由の表現(denn)
第26回	学年末試験

授業計画コメント

コミュニケーション演習中級の1・2・3ともに、同じ教科書を使用し、担当教員間で内容や進度の確認をしつつ、連動して授業をすすめていきます。

授業方法

授業は基本的に対面で行います。遠隔授業に切り替える必要が生じたら、Zoomを利用した同時配信型の授業を行います。

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

事前に教科書と単語帳の該当箇所を目を通して頂くこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分はあくまで目安です。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

返却時にコメントします。

教科書

Das Leben (A2.1): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

Das Leben (A2.2): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

教科書コメント

以上のテキストはすべてそろえて必ず購入すること。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。ドイツ語既修者で1年次にDas Leben (A2)の履修を希望する学生は、かならず学科教務委員に事前に相談し、履修が決定した後で教科書を購入してください。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U350104102	科目ナンバリング	035A203
講義名	コミュニケーション演習(中級)3B		
副題	Das Leben (A2)		
英文科目名	German Communication (Intermediate Class) 3		
担当者名	BEIER-TAGUCHI Diana		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 火曜日 4時限 西5-301		

授業概要

より総合的なドイツ語運用能力を身につけ、ヨーロッパ言語共通参照枠におけるA2レベルのドイツ語力の習得を目指します。コミュニケーション演習中級の1・2・3は、AとBのどのクラスにおいても、それぞれすべて履修することになっています。

到達目標

様々な場面(イベント、家探し、仕事探し等)での様々なテーマ(メディア、環境、地域、文化等)に関してドイツ語で自らの意見を述べるができるようになります。

授業内容

実施回	内容
第1回	Lektion1 同窓会;招待状を書く
第2回	Lektion1+2 学校時代;再帰代名詞、従属接続詞dass
第3回	Lektion2 交通と移動;従属接続詞weil
第4回	Lektion3 ドイツで家を探す
第5回	Lektion3+4 住居について語る;動詞の名詞化
第6回	Lektion4 インターネットとメディア;間接疑問文ob
第7回	Lektion5 働き方
第8回	Lektion5+6 履歴書を書く;形容詞変化(1格・4格)
第9回	Lektion6 読書;規則動詞の過去形
第10回	Lektion7 動物と暮らす;形容詞変化(3格)
第11回	Lektion7+8 都市を紹介する
第12回	Lektion8 地域の料理と特産品;関係文
第13回	学期末試験
第14回	Lektion9 日常生活を語る
第15回	Lektion9+10 家事;話法の助動詞過去
第16回	Lektion10 フェスティバルと音楽
第17回	Lektion11 自然と環境
第18回	Lektion11+12 環境保護について語る;従属接続詞wenn
第19回	Lektion12 修理とDIY;受動態(現在形)
第20回	Lektion13 山を歩く;感情を表現する
第21回	Lektion13+14 友情を語る
第22回	Lektion14 統計の表現;2格
第23回	Lektion15 田舎の生活
第24回	Lektion15+16 過去と現在を比較する;受動態(過去形)
第25回	Lektion16 幸福と人生の夢;理由の表現(denn)
第26回	学年末試験

授業計画コメント

コミュニケーション演習中級の1・2・3ともに、同じ教科書を使用し、担当教員間で内容や進度の確認をしつつ、連動して授業をすすめていきます。

授業方法

授業は基本的に対面で行います。遠隔授業に切り替える必要が生じたら、Zoomを利用した同時配信型の授業を行います。

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

事前に教科書と単語帳の該当箇所を目を通して頂くこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分はあくまで目安です。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

返却時にコメントします。

教科書

Das Leben (A2.1): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

Das Leben (A2.2): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

教科書コメント

以上のテキストはすべてそろえて必ず購入すること。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。
ドイツ語既修者で1年次にDas Leben (A2)の履修を希望する学生は、かならず学科教務委員に事前に相談し、履修が決定した後で教科書を購入してください。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U350105201	科目ナンバリング	035A133
講義名	アカデミック・スキルズ入門A		
英文科目名	Introduction to Academic Skills		
担当者名	伊藤 白		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 木曜日 2時限 中央-507		

授業概要

アカデミック・スキルズ (academic skills) とは、学ぶためのさまざまな技法のことです。典型的には、情報を整理して取り込んだり、保持したり、評価する技法を指し、ほとんどすべての学問分野に応用がきき、比較的短時間に習得できるものとされています。本授業では、大学で学ぶための基礎となるアカデミック・スキルズを身につけることをめざします。具体的には、自分で疑問に思ったことを問題として取りあげ、関連した過去の研究を探して読み、自らの視点から新たな資料を見つけて分析するという一連の標準的な研究スタイルを理解し、実践できるようになることです。現代の大学生に求められるのは、コンピュータを使った情報収集と情報整理を効率的に行うことです。それに基づいて、プレゼンテーションを行い、レポートを書くことを学びます。

到達目標

- ・問題提起・過去の関連研究の検索と読解・新たな資料の発見と分析という標準的研究スタイルを理解し実践できるようになる。
- ・コンピュータを利用して情報収集・情報整理・情報評価ができるようになる。
- ・コンピュータを利用して、レポートを書いたり、プレゼンテーションを効果的にできるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入(授業の進め方、授業で使うツールの説明など)
第2回	標準的な研究スタイルの理解、発言の仕方、PCでドイツ語を使う方法
第3回	大学図書館ガイダンス(図書検索と情報入手のためのテクニック)
第4回	引用と参照、研究倫理
第5回	文献資料の検索と入手(1) 新聞記事データベース
第6回	文献資料の検索と入手(2) 論文検索データベース
第7回	クリティカルリーディング(健全な疑いを持つこと)
第8回	ディスカッション(1)(自分の意見をまとめる、反対意見を述べる)
第9回	ディスカッション(2)(他人の意見に同意する、議論を発展させる)
第10回	Excelの使い方:基本操作とグラフの作成
第11回	資料の入手と利用(テキストデータ、統計資料、音声資料、動画資料)
第12回	プレゼンテーションの仕方(PowerPoint の利用、ハンドアウトの作成)
第13回	レポートの作成(目標設定、構成作成、パラグラフ・ライティング、参考文献リスト作成)

授業方法

基本的には対面授業です。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・毎回、必ず課題を出します(1時間程度)。次の授業はその課題を基に進めていきます。
- ・復習は、各自自分のペースで集中して行ってください。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	学期末レポート
小テスト	25 %	毎回の課題の提出
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	25 %	授業中の積極的な発言を評価します。
その他(備考欄を参照)	20 %	口頭発表

成績評価コメント

- ・レポートは、1. テーマへの理解度、2. 文章の論理的展開、3. 日本語力、4. 引用・参照ルールの順守、5. 形式を採点基準とします。
- ・研究倫理の遵守は、成績評価の際の規準として前提としています。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題は主にmoodleによって回収し、コメントします。

教科書

知って欲しい国ドイツ,新野守弘、飯田道子、梅田紅子,高文研,2017,978-4-87498-633-2

教科書コメント

教科書は、第2学期の『現代地域事情入門ゼミナール A/B』と共通で、一年間を通じて使用します。必ず購入し、第一回目の授業に持参してください。この授業では、前半のⅠ章とⅡ章を主に使用します。

参考文献コメント

必要に応じて、授業中にその都度指示します。

履修上の注意

ドイツ語圏文化学科の1年生の必修科目で、当学科の1年生は必ず履修しなければなりません。他学部・他学科の学生は履修できません。

その他

・授業に関する連絡は、G-Portおよびmoodleを通じて行います。

講義コード	U350105202	科目ナンバリング	035A133
講義名	アカデミック・スキルズ入門B		
英文科目名	Introduction to Academic Skills		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 木曜日 2時限 西2-203		

授業概要

アカデミック・スキルズ (academic skills) とは、学ぶためのさまざまな技法のことです。典型的には、情報を整理して取り込んだり、保持したり、評価する技法を指し、ほとんどすべての学問分野に応用がきき、比較的短時間に習得できるものとされています。本授業では、大学で学ぶための基礎となるアカデミック・スキルズを身につけることをめざします。具体的には、自分で疑問に思ったことを問題として取りあげ、関連した過去の研究を探して読み、自らの視点から新たな資料を見つけて分析するという一連の標準的な研究スタイルを理解し、実践できるようになることです。現代の大学生に求められるのは、コンピュータを使った情報収集と情報整理を効率的に行うことです。それに基づいて、プレゼンテーションを行い、レポートを書くことを学びます。

到達目標

- ・問題提起・過去の関連研究の検索と読解・新たな資料の発見と分析という標準的研究スタイルを理解し実践できるようになる。
- ・コンピュータを利用して情報収集・情報整理・情報評価ができるようになる。
- ・コンピュータを利用して、レポートを書いたり、プレゼンテーションを効果的にできるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入(授業の進め方、授業で使うツールの説明など)
第2回	標準的な研究スタイルの理解、発言の仕方、PCでドイツ語を使う方法
第3回	大学図書館ガイダンス(図書検索と情報入手のためのテクニック)
第4回	引用と参照、研究倫理
第5回	文献資料の検索と入手(1) 新聞記事データベース
第6回	文献資料の検索と入手(2) 論文検索データベース
第7回	クリティカルリーディング(健全な疑いを持つこと)
第8回	ディスカッション(1)(自分の意見をまとめる、反対意見を述べる)
第9回	ディスカッション(2)(他人の意見に同意する、議論を発展させる)
第10回	Excelの使い方:基本操作とグラフの作成
第11回	資料の入手と利用(テキストデータ、統計資料、音声資料、動画資料)
第12回	プレゼンテーションの仕方(PowerPoint の利用、ハンドアウトの作成)
第13回	レポートの作成(目標設定、構成作成、パラグラフ・ライティング、参考文献リスト作成)

授業方法

基本的には対面授業です。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・毎回、必ず課題を出します(1時間程度)。次の授業はその課題を基に進めていきます。
- ・復習は、各自自分のペースで集中して行ってください。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	学期末レポート
小テスト	25 %	毎回の課題の提出
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	25 %	授業中の積極的な発言を評価します。
その他(備考欄を参照)	20 %	口頭発表

成績評価コメント

- ・レポートは、1. テーマへの理解度、2. 文章の論理的展開、3. 日本語力、4. 引用・参照ルールの順守、5. 形式を採点基準とします。
- ・研究倫理の遵守は、成績評価の際の規準として前提としています。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題は主にmoodleによって回収し、コメントします。

教科書

知って欲しい国ドイツ,新野守弘、飯田道子、梅田紅子,高文研,2017,978-4-87498-633-2

教科書コメント

教科書は、第2学期の『現代地域事情入門ゼミナール A/B』と共通で、一年間を通じて使用します。必ず購入し、第一回目の授業に持参してください。この授業では、前半の I 章と II 章を主に使用します。

参考文献コメント

必要に応じて、授業中にその都度指示します。

履修上の注意

ドイツ語圏文化学科の1年生の必修科目で、当学科の1年生は必ず履修しなければなりません。他学部・他学科の学生は履修できません。

その他

・授業に関する連絡は、G-Portおよびmoodleを通じて行います。

講義コード	U350106201	科目ナンバリング	035A134
講義名	現代地域事情 入門ゼミナールA		
英文科目名	Introduction to Contemporary Area Studies		
担当者名	伊藤 白		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 木曜日 2時限 中央-507		

授業概要

ドイツ語圏文化学科1年生の必修科目です。1学期のアカデミック・スキルズ入門で学んだ調査方法やプレゼンテーションの仕方・レポートの書き方等についての基礎的な理解を前提に、主にグループワークで戦後～現代ドイツの重要テーマを学びます。授業の最後には、それらのテーマをさらに深めて発表を行います。またその内容をまとめてレポートとして提出します。

到達目標

現代ドイツの地域事情について、基礎的な知識を身に着けること。
自らテーマを選び、それについて調べてまとめ、表現する能力を身に着けること。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション / ナチスの概要
第2回	ナチス / ナチスの概要(続き)・内容説明と意見形成
第3回	ナチス / 戦争責任と「謝罪」
第4回	東ドイツ / 東ドイツの概要
第5回	東ドイツ / 東ドイツの概要(続き)
第6回	移民・難民 / ドイツの移民・難民受け入れの歴史
第7回	移民・難民 / 日独比較・論点
第8回	環境・エネルギー / 歴史
第9回	環境・エネルギー / 論点
第10回	発表①
第11回	発表②
第12回	発表③
第13回	総括

授業方法

演習形式で、グループワークを重視します。授業は基本的に対面で行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回、必ず課題をだします。次の授業はその課題を基に進めていきますので、必ずやってきてください。(2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	学期末レポート
小テスト	25 %	毎回の課題の提出
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	25 %	授業中の積極的な発言を重視します。
その他(備考欄を参照)	20 %	口頭発表

成績評価コメント

・口頭発表やレポートでは、研究倫理の遵守を評価の際の1つの規準とします。
・レポートは、1. テーマへの理解度、2. 文章の論理的展開、3. 日本語力、4. 引用・参照ルールの順守、5. 形式を採点基準とします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題は適宜、授業時にコメントします。
レポートはコメントを付けて返却します。

教科書

知ってほしい国ドイツ,新野守広、飯田道子、梅田紅子,高文研,2017,9784874986332

教科書コメント

1学期のアカデミック・スキルズ入門で使用した教科書をこの授業でも使用します。

参考文献コメント

授業時に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

G-PortあるいはLMS (moodle)を通じて連絡します。

講義コード	U350106202	科目ナンバリング	035A134
講義名	現代地域事情 入門ゼミナールB		
英文科目名	Introduction to Contemporary Area Studies		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 木曜日 2時限 西2-203		

授業概要

ドイツ語圏文化学科1年生の必修科目です。1学期のアカデミック・スキルズ入門で学んだ調査方法やプレゼンテーションの仕方・レポートの書き方等についての基礎的な理解を前提に、主にグループワークで戦後～現代ドイツの重要テーマを学びます。授業の最後には、それらのテーマをさらに深めて発表を行います。またその内容をまとめてレポートとして提出します。

到達目標

現代ドイツの地域事情について、基礎的な知識を身に着けること。
自らテーマを選び、それについて調べてまとめ、表現する能力を身に着けること。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション / ナチスの概要
第2回	ナチス / ナチスの概要(続き)・内容説明と意見形成
第3回	ナチス / 戦争責任と「謝罪」
第4回	東ドイツ / 東ドイツの概要
第5回	東ドイツ / 東ドイツの概要(続き)
第6回	移民・難民 / ドイツの移民・難民受け入れの歴史
第7回	移民・難民 / 日独比較・論点
第8回	環境・エネルギー / 歴史
第9回	環境・エネルギー / 論点
第10回	発表①
第11回	発表②
第12回	発表③
第13回	総括

授業方法

演習形式で、グループワークを重視します。授業は基本的に対面で行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回、必ず課題をだします。次の授業はその課題を基に進めていきますので、必ずやってきてください。(2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	学期末レポート
小テスト	25 %	毎回の課題の提出
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	25 %	授業中の積極的な発言を重視します。
その他(備考欄を参照)	20 %	口頭発表

成績評価コメント

・口頭発表やレポートでは、研究倫理の遵守を評価の際の1つの規準とします。
・レポートは、1. テーマへの理解度、2. 文章の論理的展開、3. 日本語力、4. 引用・参照ルールの順守、5. 形式を採点基準とします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題は適宜、授業時にコメントします。
レポートはコメントを付けて返却します。

教科書

知ってほしい国ドイツ,新野守広、飯田道子、梅田紅子,高文研,2017,9784874986332

教科書コメント

1学期のアカデミック・スキルズ入門で使用した教科書をこの授業でも使用します。

参考文献コメント

授業時に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

G-PortあるいはLMS (moodle)を通じて連絡します。

講義コード	U350107101	科目ナンバリング	035A211
講義名	言語・情報 入門ゼミナールA		
副題	科学的な言語分析入門		
英文科目名	Introduction to Linguistics and Information Studies		
担当者名	岡本 順治		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 金曜日 2時限 西2-303		

授業概要

この入門ゼミでは、(1) 人間の言語をどのように科学の対象として研究するかを学び、(2) ドイツ語がどのような言語なのかを概観します。また、(3) コンピュータを使った言語情報処理の基礎も学びます。

到達目標

言語研究とは何かを理解し言語情報処理に必要な基礎知識を習得することで、自分の問題として言語研究を捉え、それをドイツ語の分析に応用することができるようになる。

ゼミ発表の仕方を学び、口頭発表やレポートの作成を研究倫理(引用の仕方、引用文献の表記の仕方)に即してできるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(授業の進め方、一般的注意、参考文献の指示など)
第2回	言語と情報(概論)、発表者の割り振り
第3回	言語とは何か？[ソシュールの言語観、ビューラーの言語観、チョムスキーの言語観]
第4回	ドイツ語とはどんな言語か？[音声・音韻上の特徴、文法上の特徴、歴史的変化]
第5回	ドイツ語の正書法(どう書くか？)[正書法の成立、旧正書法、新正書法]
第6回	音声(人間の作る音とは？)[音声学、音韻論、プロソディー]
第7回	文法(文はどのようにできているか？)[統語論、ヴァレンツ理論、生成文法]
第8回	語(語の構造とは？)[形態論、造語論、語場の理論]
第9回	意味論(言葉の意味とは？)[語彙意味論、意味役割、アスペクト]
第10回	語用論(言葉を使うとは？)[発話行為論、発話の含意、メタファーとメトニミー]
第11回	言語と文化(言葉が文化に影響する？)[言語相対論、罵り言葉、言葉とジェンダー]
第12回	ディスカッション
第13回	到達度確認

授業計画コメント

情報関連のトピックとして扱う予定のもの：情報の単位と文字コード、テキストファイル、引用符などの記号の意味と用法、文字列の操作(コピー、検索、置換)、音声、画像のフォーマット

授業方法

演習方式で行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

(1) ゼミ発表のパワーポイント資料は、発表3日前までに、私宛に送付しチェックを受けること。(2) 受講者は、LMS (Moodle) に公表される発表資料にあらかじめ目を通しておくこと(60分程度)。(3) 内容の理解度を確認する小テストを次回のゼミ前までに受験すること(30分程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト	10 %	LMS (Moodle) 上で行います。
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	出席、ディスカッションへの積極的関与
その他(備考欄を参照)	30 %	プレゼンテーション

成績評価コメント

レポートの採点基準 (1) 構成、(2) 参考文献の内容、(3) 引用の適切さ、(4) 議論の正確さ、(5) 独自性
 プレゼンテーションの採点基準 (1) 構成、(2) 参考文献の内容、(3) 引用の適切さ、(4) 議論の正確さ、(5) 独自性、(6) プレゼンテーションの技術

最終的には、レポート、平常点(出席、ディスカッションへの積極的関与)、プレゼンテーションの内容、小テストの結果を総合的に判断して決定します。グループワークでは、準備状況と積極的な参加の姿勢、またレポートやプレゼンテーションでは、研究倫理の遵守を重視します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは、(1) 構成、(2) 参考文献の内容、(3) 引用の適切さ、(4) 議論の正確さ、(5) 独自性の基準で採点した後に返却されます。

教科書コメント

教科書はありません。

参考文献コメント

参考文献は、その都度指示します。

履修上の注意

第1回目の授業には必ず出席してください。

その他

質問は随時大歓迎(分からないことをそのままに放置しないこと)。
積極的に発言することがゼミでは重要です。

講義コード	U350107102	科目ナンバリング	035A211
講義名	言語・情報 入門ゼミナールB		
副題	科学的な言語分析入門		
英文科目名	Introduction to Linguistics and Information Studies		
担当者名	岡本 順治		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 金曜日 2時限 西2-303		

授業概要

この入門ゼミでは、(1) 人間の言語をどのように科学の対象として研究するかを学び、(2) ドイツ語がどのような言語なのかを概観します。また、(3) コンピュータを使った言語情報処理の基礎も学びます。

到達目標

言語研究とは何かを理解し言語情報処理に必要な基礎知識を習得することで、自分の問題として言語研究を捉え、それをドイツ語の分析に応用することができるようになる。

ゼミ発表の仕方を学び、口頭発表やレポートの作成を研究倫理(引用の仕方、引用文献の表記の仕方)に即してできるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(授業の進め方、一般的注意、参考文献の指示など)
第2回	言語と情報(概論)、発表者の割り振り
第3回	言語とは何か？[ソシュールの言語観、ビューラーの言語観、チョムスキーの言語観]
第4回	ドイツ語とはどんな言語か？[音声・音韻上の特徴、文法上の特徴、歴史的変化]
第5回	ドイツ語の正書法(どう書くか？)[正書法の成立、旧正書法、新正書法]
第6回	音声(人間の作る音とは？)[音声学、音韻論、プロソディー]
第7回	文法(文はどのようにできているか？)[統語論、ヴァレンツ理論、生成文法]
第8回	語(語の構造とは？)[形態論、造語論、語場の理論]
第9回	意味論(言葉の意味とは？)[語彙意味論、意味役割、アスペクト]
第10回	語用論(言葉を使うとは？)[発話行為論、発話の含意、メタファーとメトニミー]
第11回	言語と文化(言葉が文化に影響する？)[言語相対論、罵り言葉、言葉とジェンダー]
第12回	ディスカッション
第13回	到達度確認

授業計画コメント

情報関連のトピックとして扱う予定のもの：情報の単位と文字コード、テキストファイル、引用符などの記号の意味と用法、文字列の操作(コピー、検索、置換)、音声、画像のフォーマット

授業方法

演習方式で行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

(1) ゼミ発表のパワーポイント資料は、発表3日前までに、私宛に送付しチェックを受けること。(2) 受講者は、LMS (Moodle) に公表される発表資料にあらかじめ目を通しておくこと(60分程度)。(3) 内容の理解度を確認する小テストを次回のゼミ前までに受験すること(30分程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト	10 %	LMS (Moodle) 上で行います。
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	出席、ディスカッションへの積極的関与
その他(備考欄を参照)	30 %	プレゼンテーション

成績評価コメント

レポートの採点基準 (1) 構成、(2) 参照文献の内容、(3) 引用の適切さ、(4) 議論の正確さ、(5) 独自性
 プレゼンテーションの採点基準 (1) 構成、(2) 参照文献の内容、(3) 引用の適切さ、(4) 議論の正確さ、(5) 独自性、(6) プレゼンテーションの技術

最終的には、レポート、平常点(出席、ディスカッションへの積極的関与)、プレゼンテーションの内容、小テストの結果を総合的に判断して決定します。グループワークでは、準備状況と積極的な参加の姿勢、またレポートやプレゼンテーションでは、研究倫理の遵守を重視します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは、(1) 構成、(2) 参考文献の内容、(3) 引用の適切さ、(4) 議論の正確さ、(5) 独自性の基準で採点した後に返却されます。

教科書コメント

教科書はありません。

参考文献コメント

参考文献は、その都度指示します。

履修上の注意

第1回目の授業には必ず出席してください。

その他

質問は随時大歓迎(分からないことをそのままに放置しないこと)。
積極的に発言することがゼミでは重要です。

講義コード	U350108101	科目ナンバリング	035A221
講義名	文学・文化 入門ゼミナールA		
副題	ドイツ文化史入門		
英文科目名	Introduction to Literature and Cultural Studies		
担当者名	田丸 理砂		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 金曜日 2時限 南1-302		

授業概要

この授業では、まずドイツ語圏の地域の歴史的背景を学びます。そのうえで、それぞれの時代に特徴的な芸術作品(文学、絵画、音楽等)に触れ、ドイツ語圏の文化史の全体像をつかむことを目標とします。学生発表を中心に授業を進めますので、その過程で、文献検索の仕方や発表の仕方、レポート作成の基礎等、アカデミック・スキルの基本も学びます。

到達目標

- ・ドイツ語圏の(特に近代以降の)歴史の大きな流れをつかむ。
- ・問題を発見するための考え方を身につける。
- ・資料検索、資料作成、レポート作成等の、学習技術も身につける。
- ・他の人の発表にコメントできるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション、発表テーマ希望調査
第2回	教科書「中世から初期近代へ」、希望調査票の提出
第3回	教科書「ナポレオンの衝撃」、発表テーマおよび日程の決定
第4回	教科書「自由と統一をめざして」、文献リストの提出
第5回	教科書「ドイツ帝国」
第6回	教科書「第一次世界大戦」
第7回	教科書「ヴァイマル共和国」
第8回	教科書「ナチ・ドイツ」「ホロコースト」
第9回	教科書「冷戦と分断」、学生発表①
第10回	教科書「二つのドイツ」、学生発表②
第11回	教科書「東西ドイツの統一」、学生発表③
第12回	教科書「過去の克服」、学生発表④
第13回	教科書「統一ドイツとEU」／まとめ

授業計画コメント

一人1回、10分程度の口頭発表をしてもらいます。

授業方法

グループワークを中心に授業を進めます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・毎回、教科書の指定箇所を事前に読んで、それについてまとめてください(1～2時間程度)。
- ・適宜、発表のための準備を進めてください(1時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	

成績評価コメント

成績には授業への参加態度(出席、積極的発言、課題提出等)も含まれます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- ・発表は皆でコメントしあいます。
- ・レポートはコメントをつけて返却します。

教科書

『図説 ドイツの歴史』,石田勇治,河出書房新社 ,2007,9784309761053

参考文献コメント

授業時に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

欠席する場合は、当日10時までに担当者にメールで連絡してください。翌週課題を提出してください

講義コード	U350108102	科目ナンバリング	035A221
講義名	文学・文化 入門ゼミナールB		
副題	ドイツ文化史入門		
英文科目名	Introduction to Literature and Cultural Studies		
担当者名	田丸 理砂		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 金曜日 2時限 南1-302		

授業概要

この授業では、まずドイツ語圏の地域の歴史的背景を学びます。そのうえで、それぞれの時代に特徴的な芸術作品(文学、絵画、音楽等)に触れ、ドイツ語圏の文化史の全体像をつかむことを目標とします。学生発表を中心に授業を進めますので、その過程で、文献検索の仕方や発表の仕方、レポート作成の基礎等、アカデミック・スキルの基本も学びます。

到達目標

- ・ドイツ語圏の(特に近代以降の)歴史の大きな流れをつかむ。
- ・問題を発見するための考え方を身につける。
- ・資料検索、資料作成、レポート作成等の、学習技術も身につける。
- ・他の人の発表にコメントできるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション、発表テーマ希望調査
第2回	教科書「中世から初期近代へ」、希望調査票の提出
第3回	教科書「ナポレオンの衝撃」、発表テーマおよび日程の決定
第4回	教科書「自由と統一をめざして」、文献リストの提出
第5回	教科書「ドイツ帝国」
第6回	教科書「第一次世界大戦」
第7回	教科書「ヴァイマル共和国」
第8回	教科書「ナチ・ドイツ」「ホロコースト」
第9回	教科書「冷戦と分断」、学生発表①
第10回	教科書「二つのドイツ」、学生発表②
第11回	教科書「東西ドイツの統一」、学生発表③
第12回	教科書「過去の克服」、学生発表④
第13回	教科書「統一ドイツとEU」／まとめ

授業計画コメント

一人1回、10分程度の口頭発表をしてもらいます。

授業方法

グループワークを中心に授業を進めます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・毎回、教科書の指定箇所を事前に読んで、それについてまとめてください(1～2時間程度)。
- ・適宜、発表のための準備を進めてください(1時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	

成績評価コメント

成績には授業への参加態度(出席、積極的発言、課題提出等)も含まれます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- ・発表は皆でコメントしあいます。
- ・レポートはコメントをつけて返却します。

教科書

『図説 ドイツの歴史』,石田勇治,河出書房新社 ,2007,9784309761053

参考文献コメント

授業時に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

欠席する場合は、当日10時までに担当者にメールで連絡してください。翌週課題を提出してください。

講義コード	U350109101	科目ナンバリング	035A311
講義名	言語・情報コース ゼミナール(1)		
副題	語られていない状況を復元する		
英文科目名	Seminar in Linguistics and Information Studies		
担当者名	岡本 順治		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 木曜日 4時限 西2-304		

授業概要

言葉で表現する時には、あまり意識していませんが、話し手を通じるとして説明しても聞き手に必ずしも伝わらないケースというのはよくあるものです。その中の一つが、話題とする状況から得られる情報です。以下の会話を見てください。

P-1: »Also, was können Sie mir über Ihre Freundin sagen?« (それで、あなたの友人について何か私に語っていただけますか?)
M-1: »Sie schreiben mit einem Kuli in ein Notizbuch?« (あなたは、ボールペンでノートに書くんですか?) Neuhaus (2019)

Pは、ある警察官で、Mに呼び出されてMの友人の家に行ってきました。Mの友人から、この数日、連絡がないのです。そこで、その警察官は、連絡のないMの友人についてP-1のように尋ねています。それに対して、Mは、M-1のように答えます。

さて、P-1とM-1の会話の背景には何が起きているのでしょうか? P-1は、自分のバッグの中からノートとボールペンを取り出して、道にあるゴミ箱のふたの上でメモをとりはじめたのです。Mは、なんでこんなことを言ったのか、というその場面を見ていておそらく驚いたからです。

このように「語られていない状況を復元する」ことで、会話の背景を知るヒントが得られます。

到達目標

- ・ドイツ語の文章の中で述べられていることから、その文章の背景となる状況を読み解くことができるようになる。
- ・ドイツ語の文章の中で、名詞や代名詞が指示するものの関係を正確に捉えることができるようになる。
- ・ドイツ語と日本語の文章中における指示物の関係性の違いを意識できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(授業の進め方、一般的注意、参考文献の指示など)
第2回	言語表現と状況の関係を理解する?(概論)
第3回	発表の仕方と担当箇所の割り振り
第4回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第5回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第6回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第7回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第8回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第9回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第10回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第11回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第12回	授業の総括
第13回	到達度確認

授業計画コメント

ゼミ発表の原稿は、発表の2、3日前までに、メールで私のところへ送付すること。

授業方法

授業は演習方式で対面で行います。授業で使用する配布資料は LMS (Moodle) を用いてあらかじめ配布します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ゼミで用いる資料は、LMS であらかじめ配布しますので、各自資料を読み、不明な箇所をまとめておくことが求められます(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	問題設定、論理性、実証性、形式、独自性を基準として総合判断します。

小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	ゼミでの口頭発表、ディスカッションへの積極的関与、出席
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

口頭発表やレポートでは、研究倫理の遵守を評価の際の1つの規準とします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは、問題設定、論理性、実証性、形式、独自性の基準で採点した後、LMS (Moodle) を使って返却されます。

教科書コメント

教科書はありません。資料は、LMSで配布します。

参考文献コメント

第1回目の授業の際に指示する。

履修上の注意

- ・第1回目の授業には必ず参加してください。
- ・言語・情報コースゼミナール(2)をあわせて履修すること。

その他

- ・さまざまな言語に興味を持ち、知的好奇心にあふれた積極的学生の参加を希望します。
- ・ドイツ語が好きな人を大歓迎します。

講義コード	U350109102	科目ナンバリング	035A311
講義名	言語・情報コース ゼミナール(2)		
副題	話し手の心の中を覗いてみる		
英文科目名	Seminar in Linguistics and Information Studies		
担当者名	岡本 順治		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 木曜日 4時限 西2-304		

授業概要

「語られていない情報を復元する」という大きなテーマの中で、1学期は「語られていない状況を復元する」というテーマを扱いました。2学期は、そこからさらに一歩進んで、「語られていない話し手の心の中を覗く」というテーマを追求します。一学期のシラバスに書かれている例文の先の2つの会話文に注目してください。

P-1: »Also, was können Sie mir über Ihre Freundin sagen?« (それで、あなたの友人について何か私に語ってくれますか?)

M-1: »Sie schreiben mit einem Kuli in ein Notizbuch?« (あなたは、ボールペンでノートに書くんですか?)

P-2: »Ich bin halt altmodisch« (私はとにかく古臭いのよ。)

M-2: »Sehr sympathisch.« (とても好感がもてるわ。) Neuhaus (2019)

Pは、ある警察官で、Mに呼び出されてMの友人の家にやってきました。Mの友人から、この数日、連絡がないのです。そこで、その警察官は、連絡のないMの友人についてP-1のように尋ねています。それに対して、Mは、M-1のように答えます。さて、P-1とM-1の会話の背景には何が起きているのでしょうか? P-1は、自分のバッグの中からノートとボールペンを取り出して、道にあるゴミ箱のふたの上でメモをとりはじめたのです。Mは、なんでこんなことを言ったのか、というその場面を見ていておそらく驚いたからです。M-1の質問の後に、P-2はhaltという言葉を使って「この状況は変えられない」ことを伝えています。それを聞いたMは、M-2のように「好感が持てる」と肯定的な評価をしています。なぜでしょう? この2人に心の中を覗いてみるのが、2学期の課題です。

到達目標

- ・ドイツ語の文の背後で、話し手が何を考えているのかを、分析できるようになる。
- ・ドイツ語の文章の中で、副詞、話法の助動詞、心態詞の役割を理解できるようになる。
- ・ドイツ語と日本語の文章中における話し手の視点を再構築できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(授業の進め方、一般的注意、参考文献の指示など)
第2回	ドイツ語における心的態度を表す表現の概略
第3回	発表の仕方と担当箇所の割り振り
第4回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第5回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第6回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第7回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第8回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第9回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第10回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第11回	ゼミ参加者による発表とディスカッション
第12回	授業の総括
第13回	到達度確認

授業計画コメント

ゼミ発表の原稿は、発表の2、3日前までに、メールで私のところへ送付すること。

授業方法

授業は演習方式で対面で行います。授業で使用する配布資料はLMS (Moodle) を用いてあらかじめ配布します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ゼミで用いる資料は、LMS であらかじめ配布しますので、各自資料を読み、不明な箇所をまとめておくことが求められます(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		

中間テスト

レポート	50 %	問題設定、論理性、実証性、形式、独自性を基準として総合判断します。
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	ゼミでの口頭発表、ディスカッションへの積極的関与、出席
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

口頭発表やレポートでは、研究倫理の遵守を評価の際の1つの規準とします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは、問題設定、論理性、実証性、形式、独自性の基準で採点した後、LMS (Moodle) を使って返却されます。

教科書コメント

教科書はありません。資料は、LMSで配布します。

参考文献コメント

第1回目の授業の際に指示する。

履修上の注意

- ・第1回目の授業には必ず参加してください。
- ・言語・情報コースゼミナール(2)をあわせて履修すること。

その他

- ・さまざまな言語に興味を持ち、知的好奇心にあふれた積極的学生の参加を希望します。
- ・ドイツ語が好きな人を大歓迎します。

講義コード	U350109103	科目ナンバリング	035A311
講義名	言語・情報コース ゼミナール(3)		
副題	言語から見たドイツ現代史(1)		
英文科目名	Seminar in Linguistics and Information Studies		
担当者名	高田 博行		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 水曜日 3時限 西2-203		

授業概要

この授業(第1学期)では、《ナチスドイツ》と《東西ドイツ》の時代(1933～1990年)を取り上げます。新聞や雑誌、政治家の発言などに用いられた言語を分析することで、政治と日常生活の関係を掘り起こします。例えば、「第三帝国」の中学生用テキスト(教科書)にどのように「ナチ語彙」が忍び込んでいたのか、第2次世界大戦開始(ポーランド侵攻)の前後で大衆雑誌に書かれたドイツ語にどのような変化が認められるのか、日常的に用いられる単語について西ドイツと東ドイツとで辞書での定義や説明がどのように異なっていたのかなどがテーマになります。政治的な主張は、言語表現をめぐる戦いであると言えます。したがって、言語表現を分析することで発言者の本質が見えてきます。ある特定の民族や集団を「癌」や「ペスト」というメタファー表現で呼ぶとき、その発言者は忌むべき病気を治す医者であるというステータスを自らに与え、恐怖からの解放者という印象を与えます。このような理解のもと、本授業では「批判的談話分析」(レトリック分析を含む)とコーパス分析の手法により、ドイツ現代史に関して言語面(語彙・表現面)の特徴や経年変化を捉えます。言語に付随する写真やイラストなどの図像については、R. パルトの記号論に依拠しながら図像作者の世界観(狙い)について考察します。受講生によるリサーチのテーマを、下の「授業内容」欄にいくつか例示しておきます。

到達目標

ドイツ現代史に関して言語(および図像)の面から実証的に分析することによって、ドイツ現代史に関する認識を深めること、さらには「ことばの力」とはなにかについて洞察を深めることを目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の概要と目的について(導入)
第2回	【方法論の学習】① 批判的談話分析
第3回	批判的談話分析の実習: ★ヴァイツゼッカー大統領の演説「荒れ野の40年」(1985年5月8日)★
第4回	【方法論の学習】② コーパス分析(KH Coder と AntConc)
第5回	コーパス分析の実習: ★ナチ党機関紙 Voelkischer Beobachter(1940年と1944年の語彙比較)★
第6回	【方法論の学習】③ 図像分析
第7回	受講生によるリサーチ(1)[例示] ★ ナチドイツ時代の歴史教科書(1942年)におけるナチ語彙★
第8回	受講生によるリサーチ(2)[例示] ★ ポーランド侵攻前後の大衆週刊雑誌 Die Woche(1939年)の語彙比較★
第9回	受講生によるリサーチ(3)[例示] ★アデナウアー西ドイツ初代首相の(西ドイツの国際的信用を回復した)連邦議会演説(1951年9月27日)★
第10回	受講生によるリサーチ(4)[例示] ★西ドイツの新聞は東ドイツをどう形容して報道したか★
第11回	受講生によるリサーチ(5)[例示] ★Stasi(東ドイツ時代の秘密警察)のことば★
第12回	受講生によるリサーチ(6)[例示] ★西ドイツと東ドイツの辞書記述の比較(1970年代)★
第13回	受講生によるリサーチ(7)[例示] ★選挙ポスター(ナチスドイツ、東西ドイツ)★

授業方法

受講生による発表と議論を中心とする演習形式。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各受講生は分析の実習をするに際しては毎回少なくとも1時間は時間をかけて、またリサーチして発表をするに際しては数週間前から教員と個別に面談を行い、準備学習をする必要があります。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		

小テスト

平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	コメントペーパーを含む
その他(備考欄を参照)	40 %	分析実習とリサーチ

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

受講生の分析実習と分析発表に関して、内容理解、分析の適切性、表現の正確さ、論理構成、独自性等の観点から授業中および個別に評価と改善点を伝えます。

参考文献コメント

授業時および個別面談時に指示します。

履修上の注意

第1回目の授業には必ず参加してください。
第2学期の言語・情報コース ゼミナール(4)と合わせて履修すること。

講義コード	U350109104	科目ナンバリング	035A311
講義名	言語・情報コース ゼミナール(4)		
副題	言語から見たドイツ現代史(2)		
英文科目名	Seminar in Linguistics and Information Studies		
担当者名	高田 博行		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 水曜日 3時限 西2-203		

授業概要

この授業(第2学期)では、《ドイツ再統一》、《首相メルケルの誕生》、《移民難民の受け入れ》、《右翼政党AfD「ドイツのための選択肢」の抬頭》(1990～2024年)を取り上げます。新聞や雑誌、政治家の発言、インターネットとSNSなどに用いられた言語データを分析することで、政治と日常生活の関係を掘り起こします。言語表現を分析することで発言者の本質が見えてきます。例えば、「再統一という列車」というメタファーはドイツ再統一推進派が好んで用いた言語表現であり、一端走り出した再統一の機運を停車(停止)させてはいけないというメッセージが打ち出されています。また、「難民の洪水」というメタファーは難民流入反対論者の言語表現ですが、難民が入ってくると人を呑み込むような恐ろしい災害につながるという主張が背後にあります。このような理解のもと、本授業では「批判的談話分析」(レトリック分析を含む)とコーパス分析の手法、そしてR. バルトの記号論に依拠しながら、ドイツ現代史に関して言語面(語彙・表現面)および言語に付随する写真やイラストなどの図像について考察します。受講生によるリサーチのテーマを、下の「授業内容」欄にいくつか例示しておきます。

到達目標

ドイツ現代史に関して言語(および図像)の面から実証的に分析することによって、ドイツ現代史に関する認識を深めること、さらには「ことばの力」とはなにかについて洞察を深めることを目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の概要と目的について(導入)
第2回	【テーマ分析の練習】 ① ドイツ再統一にともなう語彙の変容(1990年～)
第3回	【テーマ分析の練習】 ② 首相候補TV 討論会(TV-Duell)におけることばとジェスチャー:メルケル VS シュレーダー(2005年)
第4回	【テーマ分析の練習】 ③ 難民問題を扱った週刊誌 Der Spiegel の記事
第5回	【テーマ分析の練習】 ④ AfD によるコロナワクチン反対論(陰謀論)
第6回	学生によるリサーチ(1)[例示] ★Wir sind das Volk! というスローガンの意味変遷
第7回	学生によるリサーチ(2)[例示] ★メルケル前首相の新型コロナTVスピーチ(2020年3月18日)★
第8回	学生によるリサーチ(3)[例示] ★難民受け入れをめぐるFacebook上の論戦★
第9回	学生によるリサーチ(4)[例示] ★新型コロナ感染症対策をめぐるメタファー表現★
第10回	学生によるリサーチ(5)[例示] ★その年の「粗悪語」大賞に選ばれた単語(1991～)★
第11回	学生によるリサーチ(6)[例示] ★AfD政治家によるナチ語彙の復活★
第12回	学生によるリサーチ(7)[例示] ★AfD幹部 Bjoern Hoecke の「恥辱の記念碑」演説(2017年1月17日)★
第13回	総括

授業方法

受講生による発表と議論を中心とする演習形式。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各受講生は分析の実習をするに際しては毎回少なくとも1時間は時間をかけて、また発表をするに際しては数週間前から教員と個別に面談を行い、準備学習をする必要があります。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		

学期末試験(第1学期)

学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	コメントペーパーを含む
その他(備考欄を参照)	40 %	分析実習と発表

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

受講生の分析実習と分析発表に関して、内容理解、分析の適切性、表現の正確さ、論理構成、独自性等の観点から授業中および個別に評価と改善点を伝えます。

参考文献コメント

授業時および個別面談時に指示します。

履修上の注意

第1回目の授業には必ず参加してください。
第2学期の言語・情報コース ゼミナール(4)と合わせて履修すること。

講義コード	U350109105	科目ナンバリング	035A311
講義名	言語・情報コース ゼミナール(5)		
副題	ドイツ語認知言語学(1)		
英文科目名	Seminar in Linguistics and Information Studies		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 木曜日 5時限 西2-202		

授業概要

言語能力を人間の他の認知能力との関連で捉える認知言語学の立場にたち、ドイツ語の語彙や文法現象を検討していく。特に、構文のもとになる格表示に現れる事態の捉え方を扱うことにより、意味と統語のインターフェースを明らかにしていく。この授業では、範疇化、プロトタイプ、スキーマ、メタファー、事態認知とプロフィールなど認知言語学の基本的な概念をドイツ語の例を中心に、英語やフランス語、また日本語の例をも参照しつつ、明らかにしていく。

到達目標

- ・認知言語学の基本的な考え方と方法論を理解する。
- ・認知言語学の枠組みでドイツ語を分析する方法を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入(1) 授業の進め方や一般的注意、認知言語学の考え方(1);基本的な認知能力
第2回	導入(2) 認知言語学の考え方(2):経験の重視
第3回	カテゴリー化とプロトタイプ(1) 理解
第4回	カテゴリー化とプロトタイプ(2) 独自研究発表
第5回	同じ物事に対する異なる捉え方(1) 理解
第6回	同じ物事に対する異なる捉え方(2) 独自研究発表
第7回	メタファー(1) 理解
第8回	メタファー(2) 独自研究発表
第9回	メトニミー(1) 理解
第10回	メトニミー(2) 独自研究発表
第11回	主体化(1) 理解
第12回	主体化(2) 独自研究発表
第13回	到達度確認と授業の総括

授業方法

演習形式で行う。教科書の各章(第3講以降)を2回に分けて扱う。1回目は教科書の内容を論じ、参加者の練習問題の答えを討議しながら、理解を深める。2回目は、その内容に即したドイツ語の現象に関してグループまたは個人で発表を行い、全体で議論をする。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

教科書の当該の章を読み理解するために60分程度の予習をする必要があり、担当者になった場合は6時間程度の準備が必要である。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

毎回の内容を確実に理解し、ドイツ語を独自に分析できるかが評価のポイントになります。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートに関してはmoodle上で集めフィードバックします。

教科書

認知言語学入門, 靄山洋介, 研究社, 2010, 978-4-327-37819-6

教科書コメント

教科書は毎回使用するので必ず事前に購入し、初回の授業から持参してください。発表の担当を決めるときに必要です。

参考文献コメント

参考文献は授業中に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席すること。

言語・情報コースゼミナール(6)もあわせて履修すること。

講義コード	U350109106	科目ナンバリング	035A311
講義名	言語・情報コース ゼミナール(6)		
副題	ドイツ語認知言語学(2)		
英文科目名	Seminar in Linguistics and Information Studies		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 木曜日 5時限 西2-202		

授業概要

言語能力を人間の他の認知能力との関連で捉える認知言語学の立場にたち、ドイツ語の語彙や文法現象を検討していく。特に、構文のもとになる格表示に現れる事態の捉え方を扱うことにより、意味と統語のインターフェースを明らかにしていく。この授業では、範疇化、プロトタイプ、スキーマ、メタファー、事態認知とプロフィールなど認知言語学の基本的な概念をドイツ語の例を中心に、英語やフランス語、また日本語の例をも参照しつつ、明らかにしていく。

到達目標

- ・認知言語学の基本的な考え方と方法論を理解する。
- ・認知言語学の枠組みでドイツ語を分析する方法を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	経験基板主義:身体性(1) 理解
第2回	経験基板主義:身体性(2) 独自研究発表
第3回	意味と認知領域(1) 理解
第4回	意味と認知領域(2) 独自研究発表
第5回	イメージとスキーマ(1) 理解
第6回	イメージとスキーマ(2) 独自研究発表
第7回	フレーム(1) 理解
第8回	フレーム(2) 独自研究発表
第9回	百科事典的意味(1) 理解
第10回	百科事典的意味(2) 独自研究発表
第11回	使用依拠モデル(1) 理解
第12回	使用依拠モデル(2) 独自研究発表
第13回	認知言語学の位置づけ、到達度確認と授業の総括

授業方法

演習形式で行う。第1学期に引き続き、教科書の各章(第8講以降)を2回に分けて扱う。1回目は教科書の内容を論じ、参加者の練習問題の答えを討議しながら、理解を深める。2回目は、その内容に即したドイツ語の現象に関してグループまたは個人で発表を行い、全体で議論をする。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

教科書の当該の章を読み理解するために60分程度の予習をする必要があり、担当者になった場合は6時間程度の準備が必要である。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

毎回の内容を確実に理解し、ドイツ語を独自に分析できるかが評価のポイントになります。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートに関してはmoodle上で集めフィードバックします。

教科書

認知言語学入門, 靱山洋介, 研究社, 2010, 978-4-327-37819-6

教科書コメント

教科書は毎回使用するので必ず事前に購入し、初回の授業から持参してください。発表の担当を決めるときに必要です。

参考文献コメント

参考文献は授業中に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席すること。

言語・情報コースゼミナール(5)もあわせて履修すること。

講義コード	U350110101	科目ナンバリング	035A321
講義名	文学・文化コース ゼミナール(1)		
副題	家族の描き方		
英文科目名	Seminar in Literature and Cultural Studies		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 金曜日 3時限 西5-301		

授業概要

私たちにあって身近な存在である家族。あまりにも身近であるために、実は家族がジェンダー規範をはじめとする、社会で支配的な様々な規範の価値観を再生産している一種の装置であることは、普段、それほど意識されないかもしれませんが。この授業では、家族を題材とする作品を手掛かりにして、家族と社会の関係を紐解いていきます。なお、共通文献には文学作品のみ挙がっていますが、可能な限り絵画(一家の肖像画など)や音楽(家庭の中での実践など)も取り上げます。1学期に注目するのは、18世紀末～19世紀末の作品です。

到達目標

- ・近代的家族について、成り立ちや概要を理解したうえで、批判的視座を得る。
- ・読んだテキストについて、自らの意見が言えるようになる。また、他の人の意見へのコメントができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	レッシング(1772)『エミーリア・ガロッチィ』①
第3回	レッシング(1772)『エミーリア・ガロッチィ』②
第4回	レッシング(1772)『エミーリア・ガロッチィ』③
第5回	グリム兄弟(1812～1857)『グリム童話』①
第6回	グリム兄弟(1812～1857)『グリム童話』②
第7回	グリム兄弟(1812～1857)『グリム童話』③
第8回	グリム兄弟(1812～1857)『グリム童話』④
第9回	フォンターネ(1894/95)『エフィ・ブリスト』①
第10回	フォンターネ(1894/95)『エフィ・ブリスト』②
第11回	フォンターネ(1894/95)『エフィ・ブリスト』③
第12回	フォンターネ(1894/95)『エフィ・ブリスト』④
第13回	総括

授業計画コメント

- ・ひとり1回、口頭発表をしてもらう予定です。
- ・受講者の関心により、扱う作品や作家を変えることがあります。
- ・授業を通して、口頭発表・レポート執筆の際に知っておくべき研究倫理を学びます。

授業方法

対面で授業を行います。グループワークを主に取り入れます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・毎回、事前に読んでくる共通テキスト(30頁程度)があります。それを読んで、要約をしてもらいます。(1時間半程度)
- ・適宜、発表準備を進めていただきます(1時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	35 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	35 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	口頭発表

成績評価コメント

- ・口頭発表では、準備過程も評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- ・口頭発表は、受講者同士でコメントを交わします。
- ・レポートは、コメントをして返却します。

教科書コメント

適宜、授業時に配布します。

履修上の注意

- ・第一回目の授業に出席すること
- ・文学・文化コース ゼミナール(2)もあわせて履修すること

講義コード	U350110102	科目ナンバリング	035A321
講義名	文学・文化コース ゼミナール(2)		
副題	家族の描き方		
英文科目名	Seminar in Literature and Cultural Studies		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 金曜日 3時限 西5-301		

授業概要

1学期に続き、家族を題材とする作品を手掛かりにして、家族と社会の関係を考えていきます。2学期は主に20世紀～21世紀の作品を取り上げます。現代ドイツには、血縁関係だけに規定されない様々な家族が存在しますが、時代が下るにつれて、家族の形やありかたも多様になる様子がうかがえるはずです。ときに「牢獄」になりかねない家という空間を生き生きとしたものにしていくためには、どんな観点が必要でしょうか？ 皆で自由に議論したいと思います。

到達目標

- ・近代的家族について、成り立ちや概要を理解したうえで、批判的視座を得る。
- ・現代の家族を取り巻く状況が多様化していることを知り、その意義を理解する。
- ・読んだテキストについて、自らの意見が言えるようになる。また、他の人の意見へのコメントができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	カフカ(1915)『変身』①
第3回	カフカ(1915)『変身』②
第4回	カフカ(1915)『変身』③
第5回	E. ケストナー(1949)『ふたりのロッテ』①
第6回	E. ケストナー(1949)『ふたりのロッテ』②
第7回	E. ケストナー(1949)『ふたりのロッテ』③
第8回	E. ケストナー(1949)『ふたりのロッテ』④
第9回	Y. サムデレリ監督映画(2011)『おじいちゃんの里帰り』①
第10回	Y. サムデレリ監督映画(2011)『おじいちゃんの里帰り』②
第11回	S. ファーフーフエン監督映画(2016)『はじめてのおもてなし』①
第12回	S. ファーフーフエン監督映画(2016)『はじめてのおもてなし』②
第13回	総括

授業計画コメント

- ・ひとり1回、口頭発表をしてもらう予定です。
- ・受講者の関心により、扱う作品や作家を変えることがあります。
- ・授業を通して、口頭発表・レポート執筆の際に知っておくべき研究倫理を学びます。

授業方法

対面で授業を行います。グループワークを主に取り入れます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・毎回、事前に読んでくる共通テキスト(30頁程度)があります。それを読んで、要約をしてもらいます。(1時間半程度)
- ・適宜、発表準備を進めていただきます(1時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	35 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	35 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	口頭発表

成績評価コメント

- ・口頭発表では、準備過程も評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- ・口頭発表は、受講者同士でコメントを交わします。
- ・レポートは、コメントをして返却します。

教科書コメント

適宜、授業時に配布します。

履修上の注意

- ・第一回目の授業に出席すること
- ・文学・文化コース ゼミナール(1)もあわせて履修すること

講義コード	U350110103	科目ナンバリング	035A321
講義名	文学・文化コース ゼミナール(3)		
副題	「水の女」のイメージを考察する		
英文科目名	Seminar in Literature and Cultural Studies		
担当者名	田丸 理砂		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 水曜日 5時限 南1-106		

授業概要

ヨーロッパではギリシャ神話におけるセイレーンからアンデルセンの『人魚姫』に至るまで、水はしばしば女性のイメージで語られてきました。ヨーロッパにおける「水の女」のイメージをドイツ語圏の文化を中心に考察していきます。

到達目標

「水の女」に限らず、ヨーロッパの文化に古くから浸透しているイメージをジェンダーの視点から分析することができるようになることを目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	ギリシャ神話のセイレーンについて／カフカのセイレーン
第3回	ローレライについて
第4回	フケー『ウンディーネ』①
第5回	フケー『ウンディーネ』②
第6回	フケー『ウンディーネ』③
第7回	アンデルセン『人魚姫』
第8回	現代の「水の女」たち①
第9回	現代の「水の女」たち②
第10回	個人発表①
第11回	個人発表②
第12回	個人発表③
第13回	個人発表④／まとめ

授業計画コメント

論文やレポート作成の際に知っておくべき研究倫理も学びます。

授業方法

グループ学習と学生による研究発表が中心の演習形式の授業です。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予め与えられた課題にそってテキストの内容をまとめ、各グループ内で発表できるように準備しておくこと(90分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	各自選んだテーマについての発表

成績評価コメント

毎回の授業ではグループワークで積極的に発言していること、またレポートでは授業内容を理解し、自分なりに資料を収集し分析することができること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

各回の課題については、授業中のグループワークで確認します。学期末レポートはコメントを付して返却します。

教科書

水の精(ウンディーネ),フケー (著), 識名 章喜 (翻訳),光文社,2016,978-4334753344

教科書コメント

フケー『水の精(ウンディーネ)』(光文社文庫)は各自、必ず購入してください。それ以外のテキストは著作権に留意して配布します。

参考文献コメント

参考文献は授業中に適宜指示します。

履修上の注意

第一回目の授業に出席すること。
文学・文化コースゼミナール(4)もあわせて履修すること。

その他

欠席する場合には、連絡をしてください。また欠席した場合には、翌週課題を提出してください。

講義コード	U350110104	科目ナンバリング	035A321
講義名	文学・文化コース ゼミナール(4)		
副題	友情と表現		
英文科目名	Seminar in Literature and Cultural Studies		
担当者名	田丸 理砂		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 水曜日 5時限 南1-106		

授業概要

「友情」(主に同性同士の関係)を中心に、ドイツ語圏の文学および映像作品を取り上げます。その際、「友情」と「恋愛」は必ずしも別個のものとは限りません。そういった微妙な関係性がどのように描かれているかについても注目していきたいと思えます。

到達目標

ジェンダー的視点から同性間の関係性および友情についてとらえる手法を学び、他の作品解釈にも応用できるようになることを目指します。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	ラーエル・ファルンハーゲンの手紙
第3回	ローザ・ルクセンブルクの手紙
第4回	トーマス・マン『トニオ・クレエゲル』①
第5回	トーマス・マン『トニオ・クレエゲル』②
第6回	映画『制服の処女』
第7回	1945年以降のドイツ語圏文学および映像作品における友情の描かれ方①
第8回	1945年以降のドイツ語圏文学および映像作品における友情の描かれ方②
第9回	1945年以降のドイツ語圏文学および映像作品における友情の描かれ方③
第10回	個人発表①
第11回	個人発表②
第12回	個人発表③
第13回	個人発表④／まとめ

授業計画コメント

論文やレポート作成の際に知っておくべき研究倫理も学びます。

授業方法

グループ学習と学生による研究発表が中心の演習形式の授業です。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予め与えられた課題にそってテキストの内容をまとめ、各グループ内で発表できるように準備しておくこと(90分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	各自選んだテーマについての発表

成績評価コメント

毎回の授業ではグループワークで積極的に発言していること、またレポートでは授業内容を理解し、自分なりに資料を収集し分析することができること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

各回の課題については、授業中のグループワークで確認します。学期末レポートはコメントを付して返却します。

教科書

トニオ・クレエゲル,トーマス・マン,岩波書店,2003,9784003243404

教科書コメント

トーマス・マン『トニオ・クレエゲル』(岩波文庫)は各自、必ず購入してください。それ以外のテキストは著作権に留意して配布します。

参考文献コメント

参考文献は授業中に適宜指示します。

履修上の注意

第一回目の授業に出席すること。

その他

欠席する場合には、連絡をしてください。また欠席した場合には、翌週に「課題を提出してください。

講義コード	U350110105	科目ナンバリング	035A321
講義名	文学・文化コース ゼミナール(5)		
副題	想起の文化としての文学・文化(1)		
英文科目名	Seminar in Literature and Cultural Studies		
担当者名	伊藤 白		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 水曜日 2時限 北1-304		

授業概要

「アウシュヴィッツ以降、詩を書くことは野蛮である」という哲学者テオドーア・アドルノのあまりに有名な命題にもかかわらず、戦後世界中で数多くのホロコーストを扱った作品が生み出されてきました。ホロコースト表象は可能なのか、また、許されるのか。許されるとしたら、どのような配慮が求められるのか。ホロコーストという人類未曾有の出来事を想起する文学・文化活動とそれをめぐる議論を、作品に即して学びます。扱う対象にはドイツ語圏以外の作品も含まれますが、主にドイツ語圏での議論に焦点を当てます。

到達目標

- ・想起の文化とそれをめぐる議論について一定の理解を得ること。
- ・研究の方法および倫理を学ぶこと。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション:文学・文化の研究って何?
第2回	ホロコーストと「想起の文化」
第3回	ヴィクトール・フランクル『夜と霧』(1946)
第4回	ハンス・ペーター・リヒター『あのころはフリードリヒがいた』(1961)
第5回	ペーター・ヴァイス『追究』(1964)
第6回	テレビ映画『ホロコースト』(1978)
第7回	映画『シオア』(1985)
第8回	漫画『マウス』(1986・92)
第9回	ルート・クリューガー『生き続ける』(1992)
第10回	映画『シンドラーのリスト』(1993)
第11回	ベルンハルト・シュリング『朗読者』(1995)
第12回	テレビ映画『ジェネレーション・ウォー』(2013)
第13回	総括

授業方法

グループワークを中心とした演習形式で行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回課題を出します(2時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	授業中の積極的な発言を評価します。
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートにはコメントを付けて返却します。

参考文献コメント

授業中に指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。
文学・文化コース ゼミナール(6)と併せて履修すること。

講義コード	U350110106	科目ナンバリング	035A321
講義名	文学・文化コース ゼミナール(6)		
副題	想起の文化としての文学文化(2)		
英文科目名	Seminar in Literature and Cultural Studies		
担当者名	伊藤 白		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 水曜日 2時限 北1-304		

授業概要

1学期に得た「想起の文化としての文学文化」に関する知識を前提に、発表とディスカッションを行います。提示されたテーマのもとグループワークで議論をし、学期の最後にグループ発表を行います。

到達目標

- ・「想起の文化としての文学文化」についての基礎的知識を前提に、自ら問いを立て、それに論理的に答えることができるようになること。
- ・このテーマについて自分の意見を適切に表現できるようになること。
- ・論文作成等を行う上で知っておくべき方法と研究倫理を学ぶこと。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	1学期の復習
第3回	学生発表①英語圏の映画作品
第4回	学生発表②ドイツ語圏の映画作品
第5回	学生発表③英・独以外の映画作品
第6回	学生発表④モニュメント
第7回	学生発表⑤絵画芸術
第8回	学生発表⑥英語圏の文学作品
第9回	学生発表⑦英・独以外の文学作品
第10回	学生発表⑧ドイツ語圏の文学作品(20世紀)
第11回	学生発表⑨ドイツ語圏の文学作品(21世紀)
第12回	グループワーク発表会
第13回	総括

授業計画コメント

学生の関心により内容が変更になる可能性があります。

授業方法

発表を中心とした演習形式で行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

発表者には、事前に発表テーマに関する資料を指定してもらいます。それを発表しない受講者に要約してきてもらいます。(2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	授業中の積極的な発言を評価します。
その他(備考欄を参照)	20 %	口頭発表

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表の評価を返却します。それをベースに期末レポートを執筆してもらいます。

教科書コメント

授業中に指示します。

参考文献コメント

授業中に指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。
文学・文化コース ゼミナール(5)と併せて履修すること。

講義コード	U350111101	科目ナンバリング	035A331
講義名	現代地域事情コース ゼミナール(1)		
副題	エネルギー問題: 発電施設の現状と未来		
英文科目名	Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	岡本 順治		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 金曜日 3時限 西2-306		

授業概要

発電とは、文字通り「電気を発生させること」である。電気なしでは現代人の生活は成り立たないことは、停電を経験すればだれでも気がつくことである。発電する施設は発電所と呼ばれ、水力発電、火力発電、原子力発電、風力発電、太陽光発電、地熱発電などさまざまな形態で電力が作られている。しかし、それぞれの発電施設は、さまざまな問題を抱えている。

このゼミでは、さまざまな発電施設が抱える問題を明らかにすると同時に、その発電形態の未来を議論する。ドイツ語圏(主にドイツ、オーストリア、スイス)でのさまざまな種類の発電の歴史と現状を分析し、その発電の未来を考えて議論する。発電とは、エネルギー問題の一部であり、さまざまな汚染の可能性を秘めていることを理解し、必要に応じて日本を含めた他の国の状況と比較することが重要である。また、より多くのエネルギーを発生させてより多く消費することが、必ずしも良いことではないことも認識すべきである。

書かれていること、報道されていること、ネットにある情報をただ鵜呑みにするのではなく、批判的視点を持ち続けることが求められる。また、参加者にはドイツ語で一次文献にあたることを求める。

到達目標

(1) 発電が現代社会を維持し発展させるために必要不可欠なものであることを認識し、どんな発電にもさまざまな危険性があることを理解し、その解決策を考えて提示することができる。(2) ドイツ語で環境問題に関する報道を読めるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(授業の進め方、一般的注意、参考文献の指示など)
第2回	発電とは何か? どんな種類の発電があるか? (概論)、発表者の割り振り
第3回	石炭発電(発表)
第4回	石炭発電(ディスカッション)
第5回	水力発電(発表)
第6回	水力発電(ディスカッション)
第7回	原子力発電(発表)
第8回	原子力発電(ディスカッション)
第9回	風力発電(発表)
第10回	風力発電(ディスカッション)
第11回	太陽光発電(発表)
第12回	太陽光発電(ディスカッション)
第13回	問題点のまとめと総合ディスカッション

授業計画コメント

ゼミ発表の原稿は、発表の2、3日前までに、メールで私のところに送付すること。

授業方法

対面授業で、ゼミ形式で行います。資料配布や発表資料は、LMS(Moodle)を用います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ゼミで用いる資料は、LMS であらかじめ配布しますので、各自資料を読み、不明な箇所をまとめておくことが求められます(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	問題設定、論理性、実証性、形式、独自性を基準として総合判断します。
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	出席、口頭発表、ディスカッションへの積極的関与

その他(備考欄を参照)		
-------------	--	--

成績評価コメント

口頭発表やレポートでは、研究倫理の遵守を評価の際の1つの規準とします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは、問題設定、論理性、実証性、形式、独自性の基準で採点した後、LMSを通じて返却されます。

教科書コメント

教科書はありません。資料は、LMSで配布します。

参考文献コメント

第1回目の授業の際に指示する。

履修上の注意

第1回目の授業には、必ず出席してください。
現代地域事情コースゼミナール(2)をあわせて履修することが望ましい。

その他

環境問題の深刻さを認識し、本当に積極的に発言する気持ちのある人の参加を望みます。

講義コード	U350111102	科目ナンバリング	035A331
講義名	現代地域事情コース ゼミナール(2)		
副題	プラスチックゴミ削減へ向けて		
英文科目名	Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	岡本 順治		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 金曜日 3時限 西2-306		

授業概要

プラスチックは、現代人の生活のあらゆるところに存在する。それに伴い、プラスチックゴミは地域を問わず、地球全体に及んでいる。近年はプラスチックの海洋汚染が大きく取り上げられるようになった。海洋生物が人間の捨てたプラスチックゴミを大量に体内に取り込んで死んでいたり、生きるのが困難な状況に直面している。日常的に使われているプラスチックの多くは、残念ながらゴミとして自然環境の中に捨てられ、ほとんど分解されずに自然環境中に蓄積されている。さらにマイクロ・プラスチックとなって人間を含む多くの生物の体内にも蓄積されつつある。もはや、プラスチックゴミによる地球環境の汚染は自明であり、その削減は急務なのだが、そのゴミの削減は困難を極める状況にある。

このゼミでは、プラスチックとは何か、プラスチックはどのように作られ、どのような種類があり、どのような特徴があり、どのように使われているのかをまず認識するところから始める。次にプラスチックの廃棄がどのように行われているのかという現状を、日本とドイツ語圏で比較する。最終的には、プラスチックゴミの削減に向けて何をすべきか、何ができるかを考える。

書かれていること、報道されていること、ネットにある情報をただ呑み込むのではなく、批判的視点を持ち続けることが求められる。また、参加者にはドイツ語で一次文献にあたることを求める。

到達目標

(1) プラスチックが現代社会でどのように製造され、利用されているのかを認識し、プラスチック汚染の現状と危険性を理解し、その解決策を考えて提示することができる。(2) ドイツ語で環境問題に関する報道を読めるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(授業の進め方、一般的注意、参考文献の指示など)
第2回	プラスチック汚染の問題点(概論)、発表者の割り振り
第3回	プラスチックの製造過程、種類、特徴(発表)
第4回	プラスチックの製造過程、種類、特徴(ディスカッション)
第5回	プラスチックの用途(発表)
第6回	プラスチックの用途(ディスカッション)
第7回	プラスチックの廃棄と汚染の現状(発表)
第8回	プラスチックの廃棄と汚染の現状(ディスカッション)
第9回	ペットボトル問題(発表)
第10回	ペットボトル問題(ディスカッション)
第11回	プラスチック汚染をどうやって除去するか?(発表)
第12回	プラスチック汚染をどうやって除去するか?(ディスカッション)
第13回	プラスチック代替物はあるのか?(ディスカッション)

授業計画コメント

ゼミ発表の原稿は、発表の2、3日前までに、メールで私のところへ送付すること。

授業方法

対面授業で、ゼミ形式で行います。資料配布や発表資料は、LMS(Moodle)を用います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ゼミで用いる資料は、LMS であらかじめ配布しますので、各自資料を読み、不明な箇所をまとめておくことが求められます(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	問題設定、論理性、実証性、形式、独自性を基準として総合判断します。
小テスト		

小テスト

平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	出席、口頭発表、ディスカッションへの積極的関与
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

口頭発表やレポートでは、研究倫理の遵守を評価の際の1つの規準とします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは、問題設定、論理性、実証性、形式、独自性の基準で採点した後、LMSを通じて返却されます。

教科書コメント

教科書はありません。資料は、LMSで配布します。

参考文献コメント

第1回目の授業の際に指示する。

履修上の注意

第1回目の授業には必ず参加してください。

その他

環境問題の深刻さを認識し、本当に積極的に発言する気持ちのある人の参加を望みます。

講義コード	U350111103	科目ナンバリング	035A331
講義名	現代地域事情コース ゼミナール(3)		
副題	日本におけるドイツ文化の受容		
英文科目名	Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	高田 博行		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 水曜日 2時限 中央-508		

授業概要

過去そして現在において、日本でドイツ文化がどのように受容され、どのように認識され評価されたのか・評価されているのかについて考察します。その際「ドイツ文化」という概念には、言語としてのドイツ語とドイツ製のモノ(製品・技術)も含めることにし、そのうえでドイツ文化受容の歴史と現状に関して具体的に調査します。現在の日本の日常生活のなかに見られるドイツ文化については、日本でそれが存在する場所に出向いたり取材したりするフィールドワーク的なアプローチも行います。扱うトピックは各受講生に自由に考えてもらいますが、下の「授業内容」欄にいくつか例示を挙げておきます。

到達目標

日本におけるドイツ文化受容の歴史と現状を調べることによって、異文化理解のあり方に関する洞察力を深めること。また、所定の時間内に適確にプレゼンテーションする能力を高めること。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	(例示)幕末期における「ドイツ学」者の登場、初めての独和辞典(1862年)
第3回	(例示)明治期におけるドイツ主義の採用(医学、憲法、独逸学協会学校)
第4回	(例示)1936～1945年:文化の枢軸(ヒトラーユージュントの来日、日独合作映画等)
第5回	(例示)音楽の受容(唱歌・童謡、バイエルピアノ教則本、テクノポップ)
第6回	(例示)日本におけるドイツ語学習の歴史
第7回	(例示)現在の日本の大学における独文科のカリキュラム内容の比較
第8回	例示)ドイツ文化センター(Goethe-Institut)、ドイツ学術交流会(DAAD)の活動
第9回	(例示)イベント「日本におけるドイツ年2005/2006」
第10回	(例示)文房具(ステッドラー、Stabilo)、ヘッドホン(Sennheiser, beyerdynamic, AKG)
第11回	(例示)スポーツ用品(adidas, Puma)
第12回	(例示)ドイツ化学企業(メルク、BASF、バイエル、ヘキスト)
第13回	授業の総括

授業方法

受講生による発表(プレゼンテーション)と議論を中心に行う授業です。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各受講生はプレゼンテーションを準備するにあたって、担当教員と個別に面談します。授業で扱う資料については事前にLMSで配布しますので、各自資料をよく読んで理解を進めておいてください(60分程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	コメントペーパーを含む
その他(備考欄を参照)	30 %	プレゼンテーション

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートに関しては、内容理解、論理構成、表現の正確さ、独自性、引用・出典明示を基準にして採点します。各受講生に文書または口頭(面談)で評価内容を伝えます。

参考文献コメント

授業中および個別面談時に指示します。

履修上の注意

第1回目の授業には必ず参加してください。
第1学期の現代事情コースゼミナール(4)と合わせて通年で履修すること。

講義コード	U350111104	科目ナンバリング	035A331
講義名	現代地域事情コース ゼミナール(4)		
副題	日本におけるドイツ(語圏)イメージ		
英文科目名	Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	高田 博行		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 水曜日 2時限 中央-508		

授業概要

第1学期にドイツ文化受容の歴史と現在日本におけるドイツ文化の受け入れの具体例を調査したあと、第2学期には、日本におけるドイツ(語圏)のイメージについて調査・検討し、文化受容・文化理解のあり方について考えます。その際、雑誌やTV番組における取り上げられ方を分析したり、過去の新聞記事の検索をしたりすることで多角的な検討を心がけます。扱うトピックは各受講生に自由に考えてもらいますが、下の「授業内容」欄にいくつか例示を挙げてあります。

到達目標

日本におけるドイツ(語圏)イメージを検討することによって、日本文化との相対において「ドイツ文化」を把握するとともに、ステレオタイプなイメージ形成に関して批判的に考察する視点を得ること。また、所定の時間内にわかりやすく適確にプレゼンテーションする能力を高めること。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	教員によるレクチャー:国語・国字問題の解決の模範国としてのドイツ
第3回	(例示)ドイツ車が選ばれる理由(質実剛健?)
第4回	(例示)好まれる観光スポット(ロマンチック街道など)
第5回	(例示)ドイツ観光局が発信するドイツイメージ
第6回	(例示)食文化のイメージ(料理、菓子、Oktoberfest)
第7回	(例示)日本各地の「ドイツ村」のコンセプト
第8回	(例示)サッカー・ブンデスリーガがドイツの認知に果たした役割
第9回	日本のTV番組におけるドイツ(語圏)紹介(1)
第10回	日本のTV番組におけるドイツ(語圏)紹介(2)
第11回	日本の新聞におけるドイツ(語圏)への言及
第12回	日本の雑誌広告におけるドイツ(語圏)イメージ
第13回	授業の総括

授業方法

受講生による発表(プレゼンテーション)と議論を中心に行う授業です。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各受講生はプレゼンテーションを準備するにあたって、担当教員と個別にZOOM面談します。授業で扱う資料については事前にLMSで配布しますので、各自資料をよく読んで理解を進めておいてください(60分程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	コメントペーパーも含む
その他(備考欄を参照)	30 %	発表(プレゼンテーション)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートに関しては、内容理解、論理構成、表現の正確さ、独自性、引用・出典明示を基準にして採点します。各受講生に文書または口頭(面談)で評価内容を伝えます。

参考文献コメント

授業中および個別面談時に指示します。

履修上の注意

第1回目の授業には必ず参加してください。
第1学期の現代事情コースゼミナール(3)と合わせて通年で履修すること。

講義コード	U350111105	科目ナンバリング	035A331
講義名	現代地域事情コース ゼミナール(5)		
副題	想起の文化(1)		
英文科目名	Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	伊藤 白		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 水曜日 4時限 中央-508		

授業概要

近年のドイツでは、ホロコーストという未曾有の出来事を反省的に記憶する「想起の文化」という概念が浸透しています。これは、ホロコーストをテーマにした映画やホロコーストを想起させるモニュメント、政治家の発言、学術的議論までを含み、その在り方が日々議論されています。また、当時を知る人々の減少や、移民の増加という社会構造の変化の中、AI技術を用いた記憶の継承方法が開発されるとともに、国境を超えた想起の在り方が議論されています。この授業では、年代を追って想起の文化をめぐる議論を概観し、私たちが過去をどのように記憶し、伝えていくべきなのかを考えます。

到達目標

- ・ドイツの想起の文化についての基礎的な知識を得るとともに、過去の出来事の想起の在り方について自分の考えを持つことができるようになること。
- ・研究の方法および倫理を学ぶこと。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション:想起の文化とは
第2回	ホロコーストとは
第3回	アイヒマン裁判、アウシュヴィッツ裁判、68年運動
第4回	テレビ映画『ホロコースト』(1978)
第5回	歴史家論争1
第6回	歴史家論争2
第7回	記念碑論争
第8回	シュトルパーシュタイン
第9回	新しい技術を用いた想起
第10回	移民国ドイツにおける想起の文化
第11回	第二の歴史家論争
第12回	アライダ・アスマンを読む
第13回	総括

授業方法

グループワークを中心とした演習形式で行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回課題を出します(2時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	授業中の積極的な発言を評価します。
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートにはコメントを付けて返却します。

参考文献コメント

授業中に指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。
文学・文化コース セミナール(6)と併せて履修すること。

講義コード	U350111106	科目ナンバリング	035A331
講義名	現代地域事情コース ゼミナール(6)		
副題	想起の文化(2)		
英文科目名	Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	伊藤 白		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 水曜日 4時限 中央-508		

授業概要

1学期に得たドイツの「想起の文化」に関する知識を前提に、発表とディスカッションを行います。同時に、グループで一定のテーマのもと議論をし、学期末にグループ発表を行います。

到達目標

- ・ドイツの「想起の文化」についての基礎的知識を前提に、自ら問いを立て、それに論理的に答えることができるようになること。
- ・このテーマについて自分の意見を適切に表現できるようになること。
- ・論文作成等を行う上で知っておくべき方法と研究倫理を学ぶこと。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	1学期の復習
第3回	学生発表①シュトルパーシュタイン
第4回	学生発表②ベルリン・ホロコースト警鐘碑
第5回	学生発表③ゴールド・ハーゲン論争
第6回	学生発表④国防軍展
第7回	学生発表⑤メディア・映画
第8回	学生発表⑥政治家の発言
第9回	学生発表⑦歴史家論争
第10回	学生発表⑧歴史教育
第11回	学生発表⑨想起の文化の地理的拡大
第12回	グループ発表
第13回	総括

授業計画コメント

学生の関心により内容が変更になる可能性があります。

授業方法

発表を中心とした演習形式で行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

発表者には、事前に発表テーマに関する資料を指定してもらいます。それを発表しない受講者に要約してきてもらいます。(1時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	授業中の積極的な発言を評価します。
その他(備考欄を参照)	20 %	口頭発表

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表の評価を返却します。それをベースに期末レポートを執筆してもらいます。

教科書コメント

授業中に指示します。

参考文献コメント

授業中に指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。
文学・文化コース ゼミナール(5)と併せて履修すること。

講義コード	U350200101	科目ナンバリング	035A511
講義名	言語・情報 講義(1)		
副題	言語コミュニケーション論		
英文科目名	Lecture on Linguistics and Information Studies		
担当者名	白井 宏美		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 火曜日 3時限 中央-507		

授業概要

言語コミュニケーションに関して、談話分析、会話分析、語用論、社会言語学などからアプローチする研究を提示します。その際、日独比較(日本語とドイツ語、日本文化とドイツ文化)の観点が入っているのが特徴です。観察・分析対象は、対面会話、チャット、戯曲、映画、マンガ、漫才などから人とロボットのコミュニケーションに至るまで広範囲に及びます。

到達目標

談話分析、語用論の研究領域における基本概念を習得し、言語・非言語行動について分析、考察する能力を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入:言語コミュニケーションとは
第2回	対面コミュニケーション(1)「あいづち」の日独比較
第3回	対面コミュニケーション(2)「雑談」の日独比較
第4回	分析練習「ことば遊び」(グループワーク)
第5回	分析結果の発表とディスカッション
第6回	チャット・コミュニケーション(1)チャットルームにおける「会話」の交わり方ー日独比較研究ー
第7回	チャット・コミュニケーション(2)日独のチャットにおける挨拶場面の特徴
第8回	分析練習「若者ことば」(グループワーク)
第9回	分析結果の発表とディスカッション
第10回	文学作品におけるコミュニケーション(1)かけひきとしての「スタイルシフト」
第11回	文学作品におけるコミュニケーション(2)「選好」されない返答
第12回	分析練習「話しことばと書きことば」(グループワーク)
第13回	分析結果の発表とディスカッション

授業方法

講義ではありますが、演習的要素も入っています。聞いているだけでなく、意見を述べたり議論や発表したりする積極的参加が求められます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

学んだ概念や分析手法をしっかり復習してください。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	分析結果の発表(プレゼン)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートや分析結果の発表などについて、授業中にフィードバックします。

教科書

日本語を分析するレッスン,野田尚史・野田春美,大修館書店,初,2017,978-4-469-21362-1

その他

ドイツ語の知識が全くなくても受講できます。

講義コード	U350200102	科目ナンバリング	035A511
講義名	言語・情報 講義(2)		
副題	言語コミュニケーション論		
英文科目名	Lecture on Linguistics and Information Studies		
担当者名	白井 宏美		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 火曜日 3時限 中央-507		

授業概要

言語コミュニケーションに関して、談話分析、会話分析、語用論、社会言語学などからアプローチする研究を提示します。その際、日独比較(日本語とドイツ語、日本文化とドイツ文化)の観点が入っているのが特徴です。観察・分析対象は、対面会話、チャット、戯曲、映画、マンガ、漫才などから人とロボットのコミュニケーションに至るまで広範囲に及びます。

到達目標

談話分析、語用論の研究領域における基本概念を習得し、言語・非言語行動について分析する能力・知識を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	映画におけるコミュニケーション(1) 会話の構造
第2回	映画におけるコミュニケーション(2) 登場人物の性格づけ
第3回	分析練習「マンガのことば」(グループワーク)
第4回	分析結果の発表とディスカッション
第5回	マルチモーダル・コミュニケーション(1) 「わからない」の可視化
第6回	マルチモーダル・コミュニケーション(2) 視線はずし
第7回	分析練習「会話の失敗」(グループワーク)
第8回	分析結果の発表とディスカッション
第9回	人とロボットのコミュニケーション(1) 人とロボットの漫才
第10回	分析練習「漫才のことば」
第11回	分析結果の発表とディスカッション
第12回	人とロボットのコミュニケーション(2) 家族とロボットの関係性構築
第13回	分析練習「外国の人の日本語」

授業方法

講義ではありますが、演習的要素も入っています。聞いているだけではなく、意見を述べたり議論や発表したりする積極的参加が求められます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

学んだ概念や分析手法をしっかり復習してください。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	分析結果の発表(プレゼン)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートや分析結果の発表などについて、授業中にフィードバックします。

教科書

日本語を分析するレッスン,野田尚史・野田春美,大修館書店,初,2017,978-4-469-21362-1

その他

ドイツ語の知識が全くなくても受講できます。

講義コード	U350200103	科目ナンバリング	035A511
講義名	言語・情報 講義(3)		
副題	ヒトラー演説 1919～1933年		
英文科目名	Lecture on Linguistics and Information Studies		
担当者名	高田 博行		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 水曜日 5時限 中央-401		

授業概要

本講義では、四半世紀にわたるヒトラー演説がナチズムにおいて果たした役割を政治的・歴史的な文脈と関係づけながら言語学の視点から解明することを試みます。それは、ヒトラー自身も気づかなかつたかもしれないヒトラー演説の変容を、時間軸に沿って追ってみることで、ヒトラー演説をレトリックという面から分析するとともに、使用された語彙の変遷を統計学的手法で分析するなどして、ヒトラー演説の実像に迫ります。第1学期は、ナチ党が政権を掌握するまでに至る「ナチ運動期」(1933年1月まで)を扱います。

到達目標

ナチドイツの独裁者の語りを分析する体験を通じて、現在のそして今後の為政者の語りを冷静に批判的に検討してみる視点を養うこと、為政者が語る計算されたことばに騙されない賢明さを養うことを、本講義の目標とします。2024年時点の世界の情勢を踏まえて、究極的には戦争とは何か、平和とは何かについていっしょに考えてみたいと思います。

授業内容

実施回	内容
第1回	《導入》授業のコンセプト、レトリックの力
第2回	《導入》レトリックの基本概念、日常生活に潜むメタファー、歌詞のレトリック分析
第3回	《導入》キング牧師、オバマ元大統領の演説におけるレトリック
第4回	《導入》政治家のことば:スローガンと婉曲語法
第5回	★ピアホールに響く演説(1919～1923年)
第6回	★「ミュンヘン一揆」の精算演説(1924年)
第7回	★『わが闘争』における演説の理論と完成(1924～25年)、★禁止された演説(1925～1927年)
第8回	★拡声器で広がる声、阻まれるラジオ電波(1928～1931年)
第9回	★空を飛ぶヒトラー、集票する演説(1931～1932年)
第10回	★政権掌握:ラジオと銀幕に乗る演説(1933年)
第11回	《クローズアップ》ジェスチャーと音調
第12回	《クローズアップ》ヒトラーの写真家ホフマン—総統の顔の演出者
第13回	《クローズアップ》「150万語データ」から見えるヒトラー演説の変遷

授業方法

講義

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

教科書および配布資料に目を通して、授業内容の理解を助ける(60分程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	55 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	15 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	コメントペーパー

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回提出してもらったコメントペーパーに書かれた質問などについては、次の冒頭で取り上げて解説を加えます。

教科書

ヒトラー演説—熱狂の真実,高田博行,中央公論新社,2014

参考文献コメント

授業中に適宜指示します。

その他

ドイツ語圏文化学科の授業ですが、他学科・他学部の学生も受講することができます。ドイツ語の知識がない学生も、また世界史を受験科目で選択していなくても理解できるよう、十分に補足説明するなど配慮して授業を進めます。

講義コード	U350200104	科目ナンバリング	035A511
講義名	言語・情報 講義(4)		
副題	ヒトラー演説 1933～1945年		
英文科目名	Lecture on Linguistics and Information Studies		
担当者名	高田 博行		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 水曜日 5時限 中央-401		

授業概要

本講義では、四半世紀にわたるヒトラー演説がナチズムにおいて果たした役割を政治的・歴史的な文脈と関係づけながら言語学の視点から解明することを試みます。それは、ヒトラー自身も気づかなかつたかもしれないヒトラー演説の変容を、時間軸に沿って追ってみることで、ヒトラー演説をレトリックという面から分析するとともに、使用された語彙の変遷を統計学的手法で分析するなどしてヒトラー演説の実像に迫ります。第2学期は、ナチ党が政権を掌握したあとのナチ政権期を扱います。

到達目標

ナチドイツの独裁者の語りを分析する体験を通じて、現在のそして今後の為政者の語りを冷静に批判的に検討してみる視点を養うこと、為政者が語る計算されたことばに騙されない賢明さを養うことを、本講義の目標とします。2024年時点の世界の情勢を踏まえて、究極的には戦争とは何か、平和とは何かについていっしょに考えてみたいと思います。

授業内容

実施回	内容
第1回	★ 総統の演説舞台(1933～34年)
第2回	《クローズアップ》イベントとしてのナチ党大会と巨大建築物
第3回	《クローズアップ》映画『意志の勝利』のなかのヒトラー演説
第4回	《クローズアップ》ヒトラー[演説]体験者たちの証言
第5回	★ 領土拡大の演説(1935～36年)
第6回	★ 戦時態勢に向かう演説(1936～1939年)
第7回	《クローズアップ》プロパガンダとしてのベルリンオリンピック(1936年)、オーウェルの小説『1984年』:ダブル・スピーク
第8回	★ 共感を失った演説(1940～41年)
第9回	《クローズアップ》チャップリンの『独裁者』(1940) ー最後の6分間の演説シーン
第10回	機能停止した演説(1942～45年)
第11回	《クローズアップ》映画『帰ってきたヒトラー』(2015年)のメッセージ
第12回	《クローズアップ》現在のドイツの政治的言説におけるナチ語彙の復活、反移民難民デモ組織 PEGIDAの集会(2018年8月個人撮影)
第13回	総括:「嘘つきは戦争の始まり」

授業方法

講義

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

教科書およびあらかじめ配布する資料に目を通しておいて、授業内容の理解を助けること(1時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	55 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	15 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	コメントペーパー

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回提出してもらったコメントペーパーに書かれた質問などについては、次回の冒頭で取り上げて解説を加えます。

教科書

ヒトラー演説－熱狂の真実,高田博行,中央公論新社,2014

参考文献コメント

授業中に適宜指示します。

履修上の注意

ドイツ語圏文化学科の授業ですが、他学科・他学部の学生も受講することができます。ドイツ語の知識がない学生も、また世界史を受験科目で選択していなくても理解できるよう、十分に補足説明するなど配慮して授業を進めます。

講義コード	U350201101	科目ナンバリング	035A521
講義名	文学・文化 講義(2)		
副題	ワーグナーと《ニーベルングの指環》4部作		
英文科目名	Lecture on Literature and Cultural Studies		
担当者名	山崎 太郎		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 月曜日 5時限 中央-303		

授業概要

ドイツ・オペラを代表する作曲家ワーグナーは自ら台本を書いたばかりか、社会論・芸術論などの著作も数多く残し、さらには革命に参加したり、自作専用の劇場を建てて音楽祭を創始したりと行動の人でもありました。本講義ではトーマス・マンをして「19世紀の体現者」と言わしめた彼の代表作、楽劇《ニーベルングの指環》4部作を音源や映像も駆使しながら紹介。北欧・ゲルマンの神話を題材に、科学文明や貨幣経済による人間性の疎外という近代社会の様相を寓意的に描いたこのドラマを、心理学、歴史学、哲学、文化人類学からの考察も交えつつ、文学と音楽の両面から読み解いていきます。

到達目標

1. 音楽を含めて、ワーグナーの楽劇に慣れ親しむ。
2. 作品を通して、19世紀ヨーロッパの文化と社会が孕むさまざまな問題を考える。
3. ワーグナーのドイツ語台本に触れながら、音と言葉の問題を考える。
4. さまざまな演出を比較鑑賞することで、作品に現代社会の諸問題がどう投影されているかを考え、オペラというジャンルが持つ可能性について視野を広げる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス(ワーグナーの生涯と19世紀、音楽へのアプローチ)
第2回	《ラインの黄金》(1) 台本・音楽・ドラマ
第3回	《ラインの黄金》(2) 台本・音楽・ドラマ
第4回	《ヴァルキューレ》(1) 台本・音楽・ドラマ
第5回	《ヴァルキューレ》(2) 台本・音楽・ドラマ
第6回	《ヴァルキューレ》(3) 台本・音楽・ドラマ
第7回	《ジークフリート》(1) 台本・音楽・ドラマ
第8回	《ジークフリート》(2) 台本・音楽・ドラマ
第9回	《ジークフリート》(3) 台本・音楽・ドラマ
第10回	《神々の黄昏》(1) 台本・音楽・ドラマ
第11回	《神々の黄昏》(2) 台本・音楽・ドラマ
第12回	《神々の黄昏》(3) 台本・音楽・ドラマ
第13回	《神々の黄昏》(4) 台本・音楽・ドラマ

授業方法

台本については日本語の訳・解説を加えます。原文のドイツ語を紹介することもあるので、ドイツ語の基礎知識があると、よりよく理解できると思いますが、語学力は必須ではありません。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業中は時間のかぎりもあり、舞台映像は一部しか見せられないので、授業で紹介された(youtubeほかの)映像を自分で鑑賞する時間を確保することが求められる。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

学生からの振り返りシートの内容をもとに、授業で回答したり、資料、説明を工夫する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

平常点では出席のほか、毎回の授業の振り返りシートの内容も重視します。

教科書

『《ニーベルングの指環》教養講座』,山崎太郎,アルテスパブリッシング,2017,978-4-86559-153-8

その他

必ずしも音楽・オペラについての予備知識はかならずしも必要ではありませんが、新たな体験への開かれた姿勢と興味、そしてドイツの文化と社会に広い関心と知識欲を持つ受講生を歓迎します。

講義コード	U350201102	科目ナンバリング	035A521
講義名	文学・文化 講義(3)		
副題	オーストリアの歴史と文化		
英文科目名	Lecture on Literature and Cultural Studies		
担当者名	関根 裕子		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 水曜日 4時限 西1-301		

授業概要

「いかにしてウィーンは〈音楽の都〉となったのか!？」音楽の都と呼ばれるウィーンを主としたオーストリアは20世紀初頭までハプスブルク家によって600年以上も統治され、10以上の民族を支配下多民族国家を形成していました。本講義では、標題に掲げた疑問を出発点として、歴史・社会と結びついた豊かな芸術・文化を紹介していきます。

到達目標

ウィーンを中心としたオーストリアの歴史を学びながら、それぞれの時代と社会と結びついた芸術文化の諸相についての知識を深める。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション オーストリア、ウィーンについて、今後の講義の進め方
第2回	マクシミリアンI世の婚姻政策とハプスブルク帝国の拡大 ウィーン少年合唱団の歴史
第3回	カールI世 スペインハプスブルク家、宗教改革と反宗教改革のバロック音楽
第4回	レオポルトI世の時代のオペラ、ペストと音楽、アウグスティンの生き方
第5回	オスマン帝国の脅威と影響 カフェ文化、カール六世、啓蒙主義 『後宮からの逃走』
第6回	マリア・テレジアの時代、マリー・アントワネットの悲劇、フランス革命の影響
第7回	ヨーゼフII世のモーツァルト オペラ、フリーメイソンの関係『魔笛』
第8回	ベートーヴェンとフランス革命 ナポレオン戦争の影響
第9回	ウィーン会議とウィンナワルツ、シューベルト ビーダーマイヤーの時代
第10回	ヨハン・シュトラウス親子と1848革命
第11回	フランツ・ヨーゼフ皇帝の治世
第12回	ミュージカル『エリーザベト』(1)
第13回	ミュージカル『エリーザベト』(2)

授業方法

講義

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指定された教科書を読む予習、前回配布された資料での復習を120分程度行うこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

講義を理解し、正確な知識を持ち、個々の事象について、論理的に説明できるかどうか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の授業でのリアクションペーパーについて、解説する。理解が足りないと思われる部分には、補足説明する。

教科書

図説 ハプスブルク帝国: ふくろうの本, 加藤雅彦, 河出書房新社, 2018

参考文献

ウィーンの世界史: ふくろうの本, 増谷秀樹, 河出書房新社, 2018, 9784309762458

図説オーストリアの世界史, 増谷秀樹・古田善文, 河出書房新社, 2011, 9784309761756

世紀末ウィーン, カール・E・ショースキー/安井琢磨訳, 岩波書店, 1983, 40000001160X

オーストリア文学とハプスブルク神話, クラウディオ・マグリス著鈴木隆訳, 水声社, 1990, 4891762373

履修上の注意

ドイツ語が未修でも履修可能です。オーストリアや文化に対する関心の高い学生を歓迎します。

講義コード	U350201103	科目ナンバリング	035A521
講義名	文学・文化 講義(4)		
副題	オーストリア 音楽の都ウィーンの歴史と文化		
英文科目名	Lecture on Literature and Cultural Studies		
担当者名	関根 裕子		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 水曜日 4時限 西1-301		

授業概要

第1学期では19世紀後半までのハプスブルク帝国の歴史をたどりながら、各時代、社会を反映した芸術(文学、音楽、建築)などを紹介してきました。第2学期では、700年間続いたハプスブルク帝国が崩壊に向かう19世紀末から20世紀初頭に華開いたいわゆる「ウィーン世紀末」や第一次世界大戦後の継承国オーストリアが辿った20世紀の歴史、文化アイデンティティを考察します。キーワードは「ハプスブルク神話」です。授業では、たくさんの視聴覚資料を紹介します。

到達目標

多民族国家ハプスブルク帝国の末期の社会、文化状況、および崩壊後から現代までの政治、社会、文化状況を学ぶことによって、対照的な様相の日本と比較考察できるようになる。

授業内容

実施回 内容

- | 実施回 | 内容 |
|------|---|
| 第1回 | ハプスブルク神話とは? フランツ・ヨーゼフ皇帝の治世、ツヴァイク『ラデツキー行進曲』 |
| 第2回 | 世紀末美術の諸相:分離派とジャポニスム グスタフ・クリムトにおける愛と死 |
| 第3回 | 世紀末美術の諸相(2) ヨーゼフ・ホフマンとヴィーン工房 |
| 第4回 | オペラの中の「ハプスブルク神話」ホフマンスタール/R. シュトラウス『ばらの騎士』 |
| 第5回 | 明治大正の日本とホフマンスタール 『エレクトラ』日本公演をめぐる(森鷗外との交流) |
| 第6回 | 反ユダヤ主義に「翻弄される芸術家たち(1)フロイト、グスタフ・マーラー、シェーンベルク |
| 第7回 | オペレッタの黄金時代『こうもり』の風刺 |
| 第8回 | オペレッタの白銀時代『メリーウイドウ』『シャルダーシュの歌姫』に反映された社会 |
| 第9回 | 両大戦間のオーストリア『サウンドオブミュージック』の虚実、ザルツブルク音楽祭 |
| 第10回 | ヒトラーとウィーン |
| 第11回 | 第二次世界大戦後のオーストリア(1)カラヤン |
| 第12回 | 第二次世界大戦後のオーストリア(2)フンデルト・ヴァッサー |
| 第13回 | 現在のオーストリアの文化 |

授業計画コメント

毎回、講義内容について質問、意見、感想または個別の課題を書いて提出していただき、平常点に反映させます。

授業方法

講義

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に教科書の該当部分を読むか、関連書やネットを利用して、予習することが望ましい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

毎回の課題の内容で、授業への積極的な参画を評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題の内容(質問、意見、感想)をもとに、講義や配布資料に反映する。

教科書

図説 ハプスブルク帝国,加藤雅彦,河出書房新社,1995,4309724957

参考文献

ハプスブルク家,江村洋,講談社,1990

図説ウィーンの歴史:ふくろうの本,増谷秀樹,河出書房新社,2016,9784309762456

ハプスブルク家:図解雑学,菊池良生,ナツメ社,2008,9784816344749

世紀末ウィーン,カール・ショースキー,岩波書店,1983

ウィーン精神,W.M.ジョンストン,みすず書房,1986

参考文献コメント

その他、洋書、個別テーマに関する参考文献については授業時に指示します。

その他

オーストリアや音楽に高い関心を持っている学生を歓迎します。ただしドイツ語や音楽の特別な知識は必要としません。毎回のリアクションペーパーの内容を重視します。

講義コード	U350202101	科目ナンバリング	035A531
講義名	現代地域事情 講義(2)		
副題	スイスと「アイデンティティ」		
英文科目名	Lecture on Contemporary Area Studies		
担当者名	松鶴 功記		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 金曜日 4時限 西1-301		

授業概要

スイスにとって言語・文化の多様性が重要な基盤であることを、連邦国家成立の道のりをたどりながら解説する。その上で20世紀、ふたつの大戦においてスイスが国際的に取った武装中立の立場と、国内での文化政策「精神的国土防衛」の成り立ちについて解説し、それらが戦後スイス社会に及ぼした影響を考察していく。

到達目標

スイス連邦国家の成立事情、20世紀スイス社会の特徴を理解し、第二次世界大戦でのドイツとの関係、その際のスイスの複雑な立場、戦後の歴史認識等の問題について考察を深める。

授業内容

実施回	内容
第1回	スイスの基礎知識 □ ガイダンス:スイスの基礎知識
第2回	スイス連邦成立1:永久同盟から13世紀同盟時代
第3回	連邦成立2:傭兵制と中立～宗教戦争
第4回	スイス連邦成立3:ヘルヴェチア共和国～連邦成立
第5回	直接民主制:連邦議会とカントン(地方自治)
第6回	多言語国家スイス
第7回	言語間の相互理解
第8回	ふたつの対戦と文化政策「精神的国土防衛」
第9回	1939年スイス博覧会とスイスのナショナル・アイデンティティ
第10回	「自由の砦」?:劇場チューリヒ・シャウシュピールハウスと難民
第11回	戦後のスイス:1968年学生運動/女性参政権
第12回	スイスの「過去の克服」:ベルジエ報告書
第13回	外国人問題とスイスの課題

授業方法

講義

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各テーマに関して配布する資料を参照し、授業内容を補足・確認すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

- ・平常点:毎回提出してもらいアクションペーパーによって授業の理解度・参加度を判断する。
- ・レポート:授業内容から各自でテーマを選び執筆する。たんなる参考文献のまとめではなく、授業内容を反映し考察が加えられていることを評価する。
- ・両者の評価点の総計で成績を決定する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

リアクションペーパーの内容について、次回授業で補足説明する・または授業に反映させる。また必要に応じて追加の資料を配付する。

参考文献コメント

授業内で適宜参考文献を紹介する。

講義コード	U350202102	科目ナンバリング	035A531
講義名	現代地域事情 講義(3)		
副題	視覚資料とモノから学ぶドイツ現代史		
英文科目名	Lecture on Contemporary Area Studies		
担当者名	柳原 伸洋		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 木曜日 2時限 西1-314		

授業概要

20世紀半ば以降のドイツ史を、視覚資料(映像・映画)とモノ(製品など)を通じて知り、考えていく講義です。「映画学」の講義ではなく、基本的にはドイツ現代史を考えるための視座を提供する講義となります。視覚資料に出てくるモノ、そして身の回りに存在しているモノから、ドイツを身近に考えるきっかけとしてもらうことが狙いです。本講義では、映画作品そのもの全体を観るのではなく、「トレーラー」と呼ばれる短い宣伝動画を多用します。また、映画はフィクションであり、映画の内容そのものを歴史として捉えるのではなく、あくまでドイツ現代の理解のための「入り口」として理解してください。

到達目標

現代ドイツ地域を知るための基礎的な知識の習得と多角的な視座を手に入れること、そして何よりも「もっと知ってみたい」という好奇心が各個人のなかに生み出されること。これは講義者の手腕に依る部分も大きいですが、それだけではなく、参加者がドイツに関する知見を積み重ねていくことで生み出されていくものです。

授業内容

実施回	内容
第1回	【ガイダンス】 ・視覚資料とモノからの研究導入 ・レポートについて
第2回	【ナチ時代とモノ】 ・ナチ時代の科学と兵器、コーラとファンタなど ・ホロコーストをめぐる映画やアメリカのプロパガンダ映画
第3回	【ナチ時代から戦後ドイツのモノ】 ・復興の神話と映画『ドイツ零年』など ・英米仏ソ占領下ドイツの文化(トリツォーネの文化と共産化) ・被追放民の流入と統合: アディダスやロマンティック街道などの整備
第4回	【東西ドイツのモノ(1950年代頃)】 ・東独の蜂起と映画『僕たちは希望という名の列車に乗った』 ・東ドイツの大衆車トラバント ・西ドイツの復興の象徴としてのバブルカー ・1954年の「ベルンの奇蹟」
第5回	【東西ドイツのモノ(1960年代頃)】 ・社会主義と資本主義の体制をモノの観点から考える ・ベルリンの壁の構築 ・ザントマンというキャラクターと社会主義の「未来」としての少年少女
第6回	【ナチ訴追と過去の克服】 ・学生運動と映画『バーダーマインホフ』 ・ミュンヘン五輪とテロリズム、映画『ミュンヘン』 ・米ドラマ『ホロコースト』
第7回	・レポートそしてアイデアマップについての説明 ・これまでの振り返りと、戦後ドイツ史に関するまとめ
第8回	【東西ドイツのファッション】 ・社会主義ファッションとは何か? ・女性解放運動とブラジャー反対運動 ・東西ドイツのファッション雑誌
第9回	【東西ドイツの1980年代】 ・東西ドイツの「別々の道」 ・東ドイツ・ホーネッカー体制と余暇政策 ・東ドイツ: 理想的な福祉国家の挫折と不満の高まり ・西ドイツにおける日本車の「脅威」と恩恵
第10回	【ベルリンの壁の崩壊とドイツ統一へ】 ・統一前後をテーマとした映画: 『善き人のためのソナタ』、『東ベルリンから来た女』、『グッバイ、レーニン!』
第11回	これまでの振り返りとアイデアマップの講評など
第12回	【統一後のドイツ】 ・東ドイツへの郷愁(オスタルギー) ・移民などを扱った映画作品
第13回	まとめ: 製品・文化と映画から、実際に参加者がドイツの何を理解したかについて

授業方法

- ・講義形式で行いますが、適宜、質疑応答をします。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・講義時間内で数々の文献や映画を紹介しますので、それらをレポート作成のためにも読んだり、観たりしておいてください。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	レポート提出よりも前に「アイデアマップ」を提出することが求められる
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポートは4000字以上とする(脚注・参考文献をのぞく)。また、レポート作成前に事前に「アイデアマップ」を作成し提出していること。評価基準は、「①ドイツ現代史を背景として、自分でテーマを設定できているか。②参考文献をもとに講義者を納得させる、あるいは驚かせてくれるような論理的なレポートが作成できているか」となる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- ・アイデアマップについては講義期間後半には提出してもらおう。これについては、講義内やLMSを通じてコメントをする。
- ・アイデアマップとは何かについては講義時間内でレクチャーする。

教科書

教養のドイツ現代史, 田野大輔・柳原伸洋編, ミネルヴァ書房, 2016, 4623072703

教科書コメント

『教養のドイツ現代史』は、映画やマンガなどを入り口にドイツ現代史研究の最前線に触れてもらおうと思って作った書籍です。本講義の着想の一つになっています。ご関心があれば手に取ってみてください。

参考文献

- 『笑え！ドイツ民主共和国』, 伸井太一, 教育評論社, 2022, 4866240652
- 『ニセドイツ(1) ≡ 東ドイツ製工業品』, 伸井太一, 社会評論社, 2009, 4784511121
- 『ニセドイツ(2) ≡ 東ドイツ製生活用品』, 伸井太一, 社会評論社, 2009, 478451113X
- 『ニセドイツ(3) ヴェスタルギー的西ドイツ』, 伸井太一, 社会評論社, 2012, 4784511148

参考文献コメント

参考文献は講義者がペンネームで執筆した一般向けの書籍です。本講義の「モノ」の部分の参考になります。こちらもレポートのヒントなどに。

履修上の注意

- ・履修上の注意としては、映像資料に「死」や「死体」に関するものが出てくることを了承したうえで履修してください。なお、これらは研究・学問上の必要性から使用するもので、露悪的に見せるわけではありません。
- ・講義形式ですが、適宜、質疑応答を行います。参加者の主体的な参加を望んでいます。また、講義内で丁寧に説明しますが、講義には「講義を聴く態勢」で参加してください。そうでないと、質疑応答がスムーズにいかなくなったりします。水泳教室には「泳ぎに」、ピアノ教室には「ピアノを弾きに」通っているように、大学講義には「講義を聴きに、そして思考しに」来てください。

講義コード	U350202103	科目ナンバリング	035A531
講義名	現代地域事情 講義(4)		
副題	現代ドイツ政治を学ぶ		
英文科目名	Lecture on Contemporary Area Studies		
担当者名	板橋 拓己		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 火曜日 4時限 中央-303		

授業概要

本講義では、ドイツ連邦共和国の政治を歴史的な視座から学ぶ。とりわけ、冷戦とその終焉がもたらした国際政治のマクロな構造変動や、国内の社会・経済の動向、そしてヨーロッパ統合の進展に留意しつつ、現代ドイツの内政と外交を分析する。

到達目標

専門分野の知識を深め、新しい視座を形成するため、次の2点を到達目標とする。

- 1)ドイツ政治の歴史と特徴を理解する。
- 2)ドイツの事例をもとに、比較の視座から現代日本政治を考えられるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	現代ドイツ政治を学ぶ意義
第2回	占領から分断へ
第3回	西側結合の選択と社会国家の建設:アデナウアー政権
第4回	変動と転換の時代:エアハルト政権とキージンガー政権
第5回	東西緊張緩和への貢献と「もっとデモクラシーを」:ブランド政権
第6回	危機管理の時代:シュミット政権
第7回	ボン共和国の成熟:コール政権(1)
第8回	ベルリンの壁崩壊から東西ドイツ統一へ
第9回	「ボン共和国」から「ベルリン共和国」へ:コール政権(2)
第10回	「赤緑」の挑戦:シュレーダー政権
第11回	危機対応と改革の継続:メルケル政権
第12回	「時代の転換」?:ショルツ政権
第13回	まとめ

授業計画コメント

ドイツ内外の情勢や進行状況に応じて、内容は変更しうる。

授業方法

講義形式の授業。テーマ毎に配布するレジュメと資料に沿って講義する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各回のレジュメとノートを読み返す。また、次回分の教科書該当箇所を読んでくる(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	80 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

詳細は講義のなかで指示する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学生からのコメントをもとに、講義への反映や資料配布等を行う。

教科書

現代ドイツ政治外交史——占領期からメルケル政権まで,板橋拓己・妹尾哲志(編),ミネルヴァ書房,2023,9784623094868

教科書コメント

講義は本教科書に基づく。

参考文献

現代ドイツの外交と政治,森井裕一,信山社,2008,9784797232813

ドイツ人が語るドイツ現代史——アデナウアーからメルケル、シヨルツまで,ドミニク・ゲッパート,ミネルヴァ書房,2023,9784623095261

アデナウアー——現代ドイツを創った政治家,板橋拓己,中央公論新社(中公新書),2014,9784121022660

ドイツ統一,アンドレアス・レダー,岩波書店(岩波新書),2020,9784004318477

分断の克服1989-1990——統一をめぐる西ドイツ外交の挑戦,板橋拓己,中央公論新社(中公選書),2022,9784121101297

講義コード	U350210101	科目ナンバリング	035A611
講義名	ジェンダーと言語		
英文科目名	Gender and Languages		
担当者名	白井 宏美		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 火曜日 4時限 中央-507		

授業概要

ジェンダーと言語について、社会言語学、会話分析、メディア分析、ポライトネス理論、批判談話分析などからアプローチする研究を扱います。その際、日独比較の観点が入っているのが特徴です。観察・分析対象は、若者ことば、笑い表現、コマーシャル、歌謡曲、マンガ、ドラマ、バラエティー番組など広範囲に及びます。

到達目標

ジェンダーと言語に関する研究領域の基本概念を理解し、学術的に考察する能力を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入:ジェンダーと言語の関係とは
第2回	日本語における女ことばと男ことば
第3回	ドイツ語に特徴的なジェンダー
第4回	若者ことばにおけるジェンダーの日独比較
第5回	笑い表現におけるジェンダーの日独比較
第6回	性差別をつくるCMのキャッチフレーズ
第7回	歌謡曲の歌詞に表される性差別表現
第8回	マンガにおける会話ストラテジー
第9回	ドラマにおける女性文末詞
第10回	バラエティー番組における「オネエことば」
第11回	役割語の観点から分析するジェンダー
第12回	ポライトネスとジェンダー
第13回	現実問題を可視化させることができる言語

授業方法

講義(演習を含む)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

特に、学んだ概念や分析手法をしっかり復習してください。
その他については、授業中に指示します。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト	40 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中または Moodle を通じて対応します。

講義コード	U350211101	科目ナンバリング	035A621
講義名	ジェンダーと表象文化		
副題	女性が描く女性たち		
英文科目名	Gender and Cultural Studies		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 木曜日 4時限 南3-401		

授業概要

「女らしさ」や「男らしさ」は時代と文化とに深く結びついてきたという了解のもと、この講義では、これまで女性たちがどんな女性たちを描いてきたかに注目します。主に取り上げるのは文学ですが、講義の後半には視覚芸術や映画も扱います。女性たちの描く女性たちを手掛かりに、社会で支配的な「女／男らしさ」規範と、それに対する戦略について考えていきます。

到達目標

ジェンダー規範(「女らしさ」「男らしさ」)が歴史的に作り上げられてきたものであることについて、立体的な理解を得る。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	ラファイエット夫人(1678)『クレヴの奥方』【フランス】
第3回	ジェイン・オースティン(1818)『説得』【イギリス】
第4回	ヨハンナ・シュピリ(1880/81)『ハイジ』【スイス】
第5回	イルゼ・アイヒンガー(1948/60)『より大きな希望』【オーストリア】
第6回	スヴェトラナ・アレクシエーヴィッチ(1985)『戦争は女の顔をしていない』【ベラルーシ】
第7回	ルート・クリューガー(1992)『生きつづける』【オーストリア/アメリカ】
第8回	村田沙耶香(2014)『殺人出産』【日本】
第9回	チョ・ナムジュ(2016)『82年生まれ、キム・ジョン』【韓国】
第10回	現代美術における様々な実践
第11回	同性愛をどう描く?——パティ・ジェンキンス監督映画(2003)『モンスター』【アメリカ】
第12回	レイブをどう描く?——エメラルド・フェネル監督映画(2020)『プロミシング・ヤング・ウーマン』【アメリカ】
第13回	番外編:男性が描く男性たち(ラムシュタイン)【ドイツ】

授業計画コメント

ドイツ語圏文化学科の専門科目として開講する関係上、ドイツ語圏の作品を多めに取り上げます。

授業方法

授業は対面で行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業で扱う作品を部分的に事前に読んできてもらいます(30分程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	小レポート

成績評価コメント

授業終了時に毎回理解度を確認する小レポートを提出してもらいます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に随時小レポートへのコメントを行います。

履修上の注意

・副専攻プログラム「ジェンダー・スタディーズ」指定科目です。

・2年生が履修することを想定していますが、3年生以上でも履修は可能です。

講義コード	U350212101	科目ナンバリング	035A631
講義名	ジェンダーと現代社会		
副題	男女平等立法・LGBT法の現在(世界の中の日本)		
英文科目名	Gender and Modern Society		
担当者名	泉 眞樹子		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 木曜日 5時限 南1-304		

授業概要

毎年、発表されるジェンダー・ギャップ指数において、他国の進展をよそに、日本は順位を落とし続け、多くの国の後塵を拝しています(2023年は146か国のうちの125位)。これは、男性を稼ぎ手、女性を家庭の守り手と考える性別役割分業意識が日本では根強く、女性の経済的・社会的な活動を抑制する傾向が長く続いてきたためです。特にその傾向は、政治・経済の面で顕著に現れており、これが少子化社会の一因とも指摘されています。一方で、このような風潮と戦い、抗う女性のムーブメントも途絶えることはなく、国際社会の趨勢にも沿い、男女平等のための政策と法整備が一步一步進められてきました。この授業では、男女平等の理念の展開や日本の男女平等立法の歴史を、諸外国(特にドイツ)と比較しながら学び、併せてインターネットで公開されている国会・行政省庁の資料・統計等を利用しつつ、それらの調べ方を紹介します。

到達目標

- ・ジェンダー平等について考えるための知識と視座の獲得
- ・男女平等に関する国際潮流と日本の男女平等立法・LGBTQ法の知識
- ・日本の議会資料・行政資料を調べるスキル

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(ジェンダー・ギャップ指数、男女平等の歴史概観)
第2回	男女平等(イエから個人の尊重へ、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ)
第3回	女性労働と家族的責任(1965年ILO第123号勧告、1972年勤労婦人福祉法)
第4回	1979年国連「女子差別撤廃条約」と1984年国籍法改正、1985年男女雇用機会均等法
第5回	男女雇用機会均等法改正(1997年義務規定とセクハラ規定、2006年男性差別と間接差別の禁止)
第6回	税・社会保障における男女平等(被扶養配偶者の扱い)
第7回	育児と介護(休業制度とサービス供給、保育制度、ケアワーカー)
第8回	社会を作る女性、女性の政治参加(男女共同参画、政治におけるクオータ制)
第9回	教育における男女格差(高等教育進学率、STEM進学、教員数、リカレント教育・企業内研修)
第10回	暴力に曝される女性(ストーカー行為、ドメスティック・バイオレンス、性犯罪)
第11回	性的マイノリティ(LGBTQ)と立法
第12回	ダイバーシティとインクルージョン
第13回	課題報告とグループ・ディスカッション

授業方法

講義

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各テーマに関する参考資料や重要なキーワードを調べる。テーマに関する自分の意見・感想を言語化する。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	課題提出

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題について、授業で説明します。

参考文献

新書版 性差(ジェンダー)の日本史:国際ナショナル新書,国立歴史民俗博物館監修、「性差の日本史」展示プロジェクト編,集英社国際ナショナル,2021,9784797680836

フェミニズムってなんですか?:文春新書,清水晶子,文藝春秋,2022,9784166613618

参考文献コメント

参考文献はレポート課題の候補です。他の文献については、授業で説明します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず参加すること。
インターネット情報を検索できる機器を持参してください。

講義コード	U350300101	科目ナンバリング	035B311
講義名	言語・情報コース 専門演習(1)		
副題	現代ドイツ語の姿を知る		
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies		
担当者名	鯨岡 さつき		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 木曜日 1時限 西2-406		

授業概要

今現在のドイツ語がどのような姿をしているのかを知ることは、ドイツ語圏の文化を深く理解するのにとても役に立ちます。この授業では、現代のドイツ語の姿を次の4つのテーマに分けて学びます。1)ドイツ語は現在、世界の言語の中でどのような地位にあるのか(「ドイツ語の地位」)、2)ドイツ語圏は現在どのような方言分布になっていて、どの方言に人気があるのか(「ドイツ語の方言」)、3)現代ドイツ語には英語をはじめ、どのような外来語が入っているのか(「ドイツ語における外来語」)、4)移民国家としてのドイツにおいて、移民の話すドイツ語はどのような観点で注目を集めているのか(「移民のドイツ語」)。

到達目標

- ・現代のドイツ語に関する基礎知識をつけることによって、ドイツ語とドイツ語圏文化についての理解を深める。
- ・ドイツ語および日本語の学術的テキストを読む力を養成する。
- ・要点のまとまった分かりやすい発表をする力を養成する。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入:第1学期の授業についての説明、受講生による発表テーマの希望調査
第2回	ドイツ語の地位(1):テキスト講読
第3回	ドイツ語の地位(2):テキスト講読(続き)
第4回	ドイツ語の地位(3):受講生による発表とディスカッション
第5回	ドイツ語の方言(1):テキスト講読
第6回	ドイツ語の方言(2):テキスト講読(続き)
第7回	ドイツ語の方言(3):受講生による発表とディスカッション
第8回	ドイツ語における外来語(1):テキスト講読
第9回	ドイツ語における外来語(2):テキスト講読(続き)
第10回	ドイツ語における外来語(3):受講生による発表とディスカッション
第11回	移民のドイツ語(1):テキスト講読
第12回	移民のドイツ語(2):テキスト講読(続き)
第13回	第1学期のまとめ

授業計画コメント

- ・コメントペーパーなどによる受講生の希望に応じて、各テーマについて補足事項などを学習する可能性があります。
- ・講読ではおもにドイツ語で書かれたテキストを読みます。

授業方法

対面授業(演習)。各テーマに関して、まずテキスト講読を通じてドイツ語とドイツ語圏文化についての理解を深めます。そのあと、各受講生は希望するトピックについて口頭発表し、受講生全員でディスカッションします。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・毎回授業のコメントペーパー記入とテキスト講読の予習(約1時間～2時間)を行っていただきます。コメントペーパーと予習テキストはLMS(Moodle)経由で提出していただきます。
- ・発表準備については担当教員が授業前後およびメールで相談に応じます。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	授業前に提出する予習テキスト
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	口頭発表(20%)、授業・ディスカッションへの参加度(20%)
その他(備考欄を参照)	30 %	授業後に提出するコメントペーパー

成績評価コメント

授業前に提出する予習テキスト(30%)、口頭発表(20%)、授業・ディスカッションへの参加度(20%)、授業後に提出するコメントペーパー(30%)の4つによる平常点で評価します。

継続的かつ意欲的な授業参加が成績に反映されます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業後に提出するコメントペーパーに対するフィードバックは授業内で行います。

また必要に応じてLMS(Moodle)経由で参考資料等も提示します。

教科書

Deutsche Sprache. 100 Seiten:Reclam 100 Seiten,Götttert, Karl-Heinz,Reclam Verlag,2017,9783150204443

教科書コメント

教科書は一部抜粋して講読します。

使用する部分のテキストはコピーで配布します。

参考文献

ドイツ語圏の言語政策 ヨーロッパの多言語主義と英語普及のはざままで,高橋秀彰,関西大学出版部,2010,9784873544946

ドイツ方言学 ことばの日常に迫る,河崎靖,現代書館,2008,9784768469804

現代ドイツ語の傾向 その統計学的・社会学的研究,ブラウン、ペーター(橘正美・高橋行徳訳),明星大学出版部,1982

歴史言語学とドイツ語史,荻野蔵平・齋藤治之,同学社,2015,9784810203172

参考文献コメント

その他参考文献に関しては、授業で適宜紹介します。

履修上の注意

・履修者数制限あり。第1回目の授業には必ず出席してください。

・2024年度第2学期の言語・情報コース 専門演習(2)とあわせて履修することをおすすめします。

その他

ディスカッションなどのグループワークには積極的に参加してください。

講義コード	U350300102	科目ナンバリング	035B311
講義名	言語・情報コース 専門演習(2)		
副題	ドイツ語の歴史を知る		
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies		
担当者名	鯨岡 さつき		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 木曜日 1時限 西2-406		

授業概要

ドイツ語がたどってきた歴史を知ることが、ドイツ語圏文化をさらに深く理解するのに役立ちます。この授業では、現在標準的となっているドイツ語の形成に大きく寄与した人物たちにフォーカスを当てながら、近世・近代におけるドイツ語の歴史を次の4つのテーマに分けて学びます。1)ドイツ語の歴史はいつ始まり、どのように時代区分がなされるのか、2)ルターの聖書翻訳は、ドイツ語の歴史においてどのような役割を演じたのか、3)18世紀にドイツ語は、ゴットシェートとアーデルングの文法書によってどのように「正しさ」が指定されたのか、4)19世紀にグリム兄弟が編集した『ドイツ語辞典』は、どのような影響力を同時代そして後世に持ったのか。

到達目標

- ・近世・近代のドイツ語に関する基礎知識をつけることによって、ドイツ語とドイツ語圏文化についての理解を深める。
- ・ドイツ語および日本語の学術的テキストを読む力を養成する。
- ・要点のまとまった分かりやすい発表をする力を養成する。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入:第2学期の授業についての説明、受講生による発表テーマの希望調査
第2回	ドイツ語史の全体像と時代区分(1):テキスト講読
第3回	ドイツ語史の全体像と時代区分(2):テキスト講読(続き)
第4回	ルターの聖書翻訳の意義(1):テキスト講読
第5回	ルターの聖書翻訳の意義(2):テキスト講読(続き)
第6回	ルターの聖書翻訳の意義(3):受講生による発表とディスカッション
第7回	アーデルングとゴットシェートの文法書の役割(1):テキスト講読
第8回	アーデルングとゴットシェートの文法書の役割(2):テキスト講読(続き)
第9回	アーデルングとゴットシェートの文法書の役割(3):受講生による発表とディスカッション
第10回	グリム兄弟の『ドイツ語辞典』の影響(1):テキスト講読
第11回	グリム兄弟の『ドイツ語辞典』の影響(2):テキスト講読(続き)
第12回	グリム兄弟の『ドイツ語辞典』の影響(3):受講生による発表とディスカッション
第13回	第2学期のまとめ

授業計画コメント

- ・コメントペーパーなどによる受講生の希望に応じて、補足事項などを学習する可能性があります。
- ・講読ではおもにドイツ語で書かれたテキストを読みます。

授業方法

対面授業(演習)。各テーマに関して、まずテキスト講読を通じてドイツ語とドイツ語圏文化についての理解を深めます。そのあと、各受講生は希望するトピックについて口頭発表し、受講生全員でディスカッションします。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・毎回授業のコメントペーパー記入とテキスト講読の予習(約1時間～2時間)を行っていただきます。コメントペーパーと予習テキストはLMS(Moodle)経由で提出していただきます。
- ・発表準備については担当教員が授業前後およびメールで相談に応じます。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	授業前に提出する予習テキスト
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	口頭発表(20%)、授業・ディスカッションへの参加度(20%)
その他(備考欄を参照)	30 %	授業後に提出するコメントペーパー

成績評価コメント

授業前に提出する予習テキスト(30%)、口頭発表(20%)、授業・ディスカッションへの参加度(20%)、授業後に提出するコメントペーパー(30%)の4つによる平常点で評価します。

継続的かつ意欲的な授業参加が成績に反映されます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業後に提出するコメントペーパーに対するフィードバックは授業内で行います。

また必要に応じてLMS(Moodle)経由で参考資料等も提示します。

教科書

Deutsche Sprache. 100 Seiten:Reclam 100 Seiten,Götttert, Karl-Heinz,Reclam Verlag,2017,9783150204443

教科書コメント

教科書は一部抜粋して講読します。

使用する部分のテキストはコピーで配布します。

参考文献

総論 ドイツ語の歴史,シュミット、ヴィルヘルム(西本美彦他訳),朝日出版社,2004,425500269X

図説 ドイツ語の歴史,シルト、ヨアヒム(橘好碩訳),大修館書店,1999,446921227X

ドイツ語史—社会・文化・メディアを背景として,須澤通・井出万秀,郁文堂,2009,9784261072907

ドイツ語の歴史論:講座ドイツ言語学 第2巻,高田博行・新田春夫編,ひつじ書房,2013,9784894765726

ドイツの標準語 その生い立ちと辞典の個性,根本道也,同学社,2008,9784810204551

参考文献コメント

その他参考文献に関しては、授業で適宜紹介します。

履修上の注意

・履修者数制限あり。第1回目の授業には必ず出席してください。

・2024年度第1学期の言語・情報コース 専門演習(1)を履修済みであることが望ましい。

その他

ディスカッションなどのグループワークには積極的に参加してください。

講義コード	U350300103	科目ナンバリング	035B311
講義名	言語・情報コース 専門演習(3)		
副題	日本文学をドイツ語訳で読む		
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies		
担当者名	成田 節		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 月曜日 2時限 中央-508		

授業概要

日本語の小説(井上靖「氷壁」第1章)とそのドイツ語訳(Die Eiswand)を素材として、日本語とドイツ語の表現方法の違いを主に文法と語法の面から考察します。授業では(1)ドイツ語に訳された日本文学の作品の精読、(2)正確に理解したドイツ語と元の日本語の対照による表現方法(特に文法と語法)の違いの考察、(3)日独両語の表現方法の主な違いについての解説、を行います。1学期は主に(1)を行います。文法と語法を重視した読解の授業と考えてください。2学期は精読を進めながら、あるいは既読部分を読み返しながらか(2)と(3)を中心に進めます。

到達目標

ドイツ語の文法・語法・表現方法についての理解を深め、ドイツ語の読解力を高める。
ドイツ語との対照を通じて日本語の文法・語法・表現方法についての認識を深める。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の進め方, 教材, 参考図書などの説明。
第2回	ドイツ語テキスト読解(1)
第3回	ドイツ語テキスト読解(2)
第4回	ドイツ語テキスト読解(3)
第5回	文法・語法の要点の整理(1)
第6回	ドイツ語テキスト読解(4)
第7回	ドイツ語テキスト読解(5)
第8回	ドイツ語テキスト読解(6)
第9回	文法・語法の要点の整理(2)
第10回	ドイツ語テキスト読解(7)
第11回	ドイツ語テキスト読解(8)
第12回	ドイツ語テキスト読解(9)
第13回	文法・語法の要点の整理(3)

授業方法

講義と演習を組み合わせた授業を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指定した範囲を予習すること, 授業後に既読部分を繰り返し音読すること, 授業後にコメントシートを提出することが必要。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	60 %	筆記テストを行う。
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	毎回授業後にコメントを提出すること。
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

ドイツ語テキストの意味内容(いわゆる和訳)だけでなく、その元になる文構造・語法・表現構造を正しく理解しているかをチェックする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Moodleを利用してフィードバックを行う。

教科書コメント

ドイツ語読解のテキスト(井上靖「氷壁」のドイツ語訳)はファイルを準備し, Moodleで配布する。

参考文献

氷壁:新潮文庫,井上靖

講義コード	U350300104	科目ナンバリング	035B311
講義名	言語・情報コース 専門演習(4)		
副題	日本文学をドイツ語訳で読む		
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies		
担当者名	成田 節		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 月曜日 2時限 中央-508		

授業概要

日本語の小説(井上靖「氷壁」第1章)とそのドイツ語訳(Die Eiswand)を素材として、日本語とドイツ語の表現方法の違いを主に文法と語法の面から考察します。授業では(1)ドイツ語に訳された日本文学の作品の精読、(2)正確に理解したドイツ語と元の日本語の対照による表現方法(特に文法と語法)の違いの考察、(3)日独両語の表現方法の主な違いについての解説、を行います。1学期は主に(1)を行います。文法と語法を重視した読解の授業と考えてください。2学期は精読を進めながら、あるいは既読部分を読み返しながらか(2)と(3)を中心に進めます。

到達目標

ドイツ語の文法・語法・表現方法についての理解を深め、ドイツ語の読解力を高める。
ドイツ語との対照を通じて日本語の文法・語法・表現方法についての認識を深める。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の進め方, 教材, 参考図書などの説明。
第2回	ドイツ語テキスト精読(1)
第3回	ドイツ語テキスト精読(2)
第4回	ドイツ語と日本語の文法・語法の対照(1)
第5回	ドイツ語テキスト精読(3)
第6回	ドイツ語テキスト精読(4)
第7回	ドイツ語と日本語の文法・語法の対照(2)
第8回	ドイツ語テキスト精読(5)
第9回	ドイツ語テキスト精読(6)
第10回	ドイツ語と日本語の文法・語法の対照(3)
第11回	ドイツ語テキスト精読(7)
第12回	ドイツ語テキスト精読(8)
第13回	ドイツ語と日本語の文法・語法の対照(4)

授業方法

講義と演習を組み合わせた授業を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指定した範囲を予習すること, 授業後に既読部分を繰り返し音読すること, 授業後にコメントシートを提出することが必要。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	60 %	筆記テストを行う。
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	毎回授業後にコメントを提出すること。
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

ドイツ語テキストの意味内容(いわゆる和訳)だけでなく、その元になる文構造・語法・表現構造を正しく理解しているかをチェックする。また、日本語とドイツ語の文構造・語法・表現構造の相違点を理解しているかをチェックする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Moodleを利用してフィードバックを行う。

教科書コメント

ドイツ語読解のテキスト(井上靖「氷壁」のドイツ語訳)および、文法・語法の資料はファイルを準備し、Moodleで配布する。

参考文献

氷壁:新潮文庫,井上靖

講義コード	U3503001Z1	科目ナンバリング	035B311
講義名	◇言語・情報コース 専門演習		
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies		
担当者名	MEYER, Thomas Horst		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 金曜日 2時限 西1-211		

授業概要

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrwerk Aspekte neu C1 (Klett Verlag), das eine Einarbeitung in themenbezogenen Wortschatz und Grammatik auf dem Niveau C1 bietet. Die Themen umfassen im Wesentlichen gesellschaftliche Felder wie Medien, Bildung, Beruf, Wirtschaft und Lifestyle in aktuellen Ausprägungen und Problemkonstellationen.

到達目標

Ausweitung des Wortschatzes auf C1-Niveau, Verbesserung des Lese- und Hörverständnisses sowie Übung des sprachlichen Ausdrucks anhand von aktuellen Themen.
Deutschkenntnisse auf dem Niveau von C1 werden vorausgesetzt.

授業内容

実施回	内容
第1回	Vorstellung des Kurses / Einführung
第2回	Zeitgefühl I
第3回	Zeitgefühl II
第4回	Engagement in Vereinen
第5回	Handynutzung I
第6回	Handynutzung II
第7回	Probleme in Wohngemeinschaften
第8回	Vor- und Nachteile moderner Medien
第9回	Schlagfertigkeit
第10回	Sprachen lernen
第11回	Dialekte I
第12回	Dialekte II
第13回	Zusammenfassung

授業方法

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrbuch Aspekte neu Mittelstufe Deutsch C1. Je nach Größe des Kurses sollen die Teilnehmer in Einzel- oder Partnerarbeit Texte erarbeiten und Aufgaben lösen, die später im Plenum oder in Gruppen besprochen werden. An die Texte schließen sich kurze Grammatikerläuterungen und dazugehörige Übungen an. Das erworbene Wissen kann im Anschluss in weiteren schriftlichen Übungen, Hörverstehen-Übungen oder Diskussionsaufgaben erprobt werden. Je nach Problem- und Interessenlage der Teilnehmer kann der Fokus auf schriftliche, mündliche oder Hörverstehen-Aufgaben gelegt werden.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Neben der üblichen Vor- und Nachbereitung des Unterrichts können vereinzelt Hausaufgaben von geringem Umfang gestellt werden (Fertigstellung von Übungen, Materialauswahl für den folgenden Unterricht u.ä.)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	mündliche Prüfung
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

本授業は大学院・学部共通の授業ですが、学部生の成績評価は大学院生とは違う基準で行います。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

mündliches Feedback, persönliche Sprechstunde (falls erwünscht)

教科書

Aspekte neu C1: Mittelstufe Deutsch, Lehr- und Arbeitsbuch, Ute Koithan et al, Klett Verlag, 2016, 978-3126050371

教科書コメント

Teilband 1 (Lektion 1-5) ist ausreichend.

Das Arbeitsbuch braucht nicht angeschafft zu werden.

履修上の注意

教科書を郁文堂のサイト(<https://www.ikubundo.com/news/2023-02-10/>)より購入できます。履修を決定した時点で(遅くとも第1回目の授業後)速やかに注文してください。

講義コード	U3503001Z2	科目ナンバリング	035B311
講義名	◇言語・情報コース 専門演習		
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies		
担当者名	MEYER, Thomas Horst		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 金曜日 2時限 西1-211		

授業概要

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrwerk Aspekte neu C1 (Klett Verlag), das eine Einarbeitung in themenbezogenen Wortschatz und Grammatik auf dem Niveau C1 bietet. Die Themen umfassen im Wesentlichen gesellschaftliche Felder wie Medien, Bildung, Beruf, Wirtschaft und Lifestyle in aktuellen Ausprägungen und Problemkonstellationen.

到達目標

Ausweitung des Wortschatzes auf C1-Niveau, Verbesserung des Lese- und Hörverständnisses sowie Übung des sprachlichen Ausdrucks anhand von aktuellen Themen.
Deutschkenntnisse auf dem Niveau von C1 werden vorausgesetzt.

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung/Stellenanzeigen
第2回	Ein "bunter" Lebenslauf
第3回	Studium oder Ausbildung I
第4回	Studium oder Ausbildung II
第5回	Multitasking
第6回	Soft Skills
第7回	Der Kohlenpott: Die Entwicklung des Ruhrgebiets
第8回	Gewissensfragen
第9回	Globalisierung I
第10回	Globalisierung II
第11回	Crowdfunding I
第12回	Crowdfunding II
第13回	Zusammenfassung

授業方法

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrbuch Aspekte neu Mittelstufe Deutsch C1. Je nach Größe des Kurses sollen die Teilnehmer in Einzel- oder Partnerarbeit Texte erarbeiten und Aufgaben lösen, die später im Plenum oder in Gruppen besprochen werden. An die Texte schließen sich kurze Grammatikerläuterungen und dazugehörige Übungen an. Das erworbene Wissen kann im Anschluss in weiteren schriftlichen Übungen, Hörverstehen-Übungen oder Diskussionsaufgaben erprobt werden. Je nach Problem- und Interessenlage der Teilnehmer kann der Fokus auf schriftliche, mündliche oder Hörverstehen-Aufgaben gelegt werden.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Neben der üblichen Vor- und Nachbereitung des Unterrichts können vereinzelt Hausaufgaben von geringem Umfang gestellt werden (Fertigstellung von Übungen, Materialauswahl für den folgenden Unterricht u.ä.)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	mündliche Prüfung
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

本授業は大学院・学部共通の授業ですが、学部生の成績評価は大学院生とは違う基準で行います。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

mündliches Feedback, persönliche Sprechstunde (falls erwünscht)

教科書

Aspekte neu C1: Mittelstufe Deutsch, Lehr- und Arbeitsbuch, Ute Koithan et al, Klett Verlag, 2016, 978-3126050371

教科書コメント

Teilband 1 (Lektion 1-5) ist ausreichend.

Das Arbeitsbuch braucht nicht angeschafft zu werden.

履修上の注意

教科書を郁文堂のサイト(<https://www.ikubundo.com/news/2023-02-10/>)より購入できます。履修を決定した時点で(遅くとも第1回目の授業後)速やかに注文してください。

講義コード	U3503001Z3	科目ナンバリング	035B311
講義名	◇言語・情報コース 専門演習		
副題	中世ドイツ語学・文学入門		
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies		
担当者名	平井 敏雄		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 木曜日 4時限 西1-201		

授業概要

現代ドイツ文化の源流が形作られた中世という時代、ドイツ語圏では現代のドイツ語とは様々な点で異なる言語が話されていました。また、中世最盛期の12～13世紀ごろには、宮廷の騎士階級による詩の文学が大いに栄え、ドイツ文学史上最初の黄金時代と呼ばれています。本授業では、中世盛期に用いられた「中高ドイツ語」の概要を理解し、ドイツ語の歴史および周辺諸言語との関係についての基本的な知識を学ぶと共に、中世文学に触れ、中世の文化・社会・生活全般に関する理解を深めていきます。その際に、現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容をもったドイツ語テキストを読み解く能力の向上を目指します。

到達目標

- ・中高ドイツ語を中心に、ドイツ語の歴史の概略をつかみ、現代ドイツ語に見られるさまざまな事象の起源を理解することで、現代語への理解をいっそう深める。また、周辺諸言語との関係についての知識を得る。
- ・現代ヨーロッパの源流である、中世の文化・社会・生活に関する知識・理解を深める。
- ・現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容のテキストに親しみ、ドイツ語の読解力を高める。
- ・中高ドイツ語の文法を学習し、辞書を頼りに原典購読に挑戦する。ゴットフリート・フォン・シュトラスブルクの叙事詩『トリスタン』の一部を読むことを予定しています。

授業内容

実施回	内容
第1回	序・中世とは
第2回	ドイツ語の歴史
第3回	続き
第4回	中高ドイツ語文法
第5回	続き
第6回	中世の社会・生活
第7回	続き
第8回	中世ドイツ文学
第9回	続き
第10回	英雄叙事詩
第11回	宮廷叙事詩
第12回	恋愛抒情詩
第13回	理解度の確認

授業計画コメント

上記内容は授業で扱うピックを挙げたもので、この順番で学習するとは限りません。

授業方法

中世の言語・文化に関する現代ドイツ語の文献の講読、中高ドイツ語・ドイツ語の歴史の概要の学習、中高ドイツ語文法の学習および原典購読などを予定していますが、具体的には、受講者の人数・能力・関心に応じて決定します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ドイツ語による参考資料の指定箇所には、毎回必ずあらかじめ目を通してきて下さい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験の成績・授業中の課題への取り組みなどによって総合的に評価します。
本授業は大学院・学部共通の授業ですが、学部生の成績評価は大学院生とは違う基準で行います。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に説明します。

教科書コメント

教材はプリントを使用します。参考文献等は授業中に適宜指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U3503001Z4	科目ナンバリング	035B311
講義名	◇言語・情報コース 専門演習		
副題	中世ドイツ語学・文学入門		
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies		
担当者名	平井 敏雄		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 木曜日 4時限 西1-201		

授業概要

第1学期に引き続き、中世盛期に用いられた「中高ドイツ語」の概要を理解し、ドイツ語の歴史および周辺諸言語との関係についての基本的な知識を学ぶと共に、中世文学に触れ、中世の文化・社会・生活全般に関する理解を深めていきます。その際に、現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容をもったドイツ語テキストを読み解く能力の向上を目指します。なお、授業の内容上は第1学期の続きとなりますが、第2学期のみの受講も可能です。

到達目標

- ・中高ドイツ語を中心に、ドイツ語の歴史の概略をつかみ、現代ドイツ語に見られるさまざまな事象の起源を理解することで、現代語への理解をいっそう深める。また、周辺諸言語との関係についての知識を得る。
- ・現代ヨーロッパの源流である、中世の文化・社会・生活に関する知識・理解を深める。
- ・現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容のテキストに親しみ、ドイツ語の読解力を高める。
- ・辞書と文法書を頼りに、中高ドイツ語の原典購読に挑戦する。ゴットフリート・フォン・シュトラスブルクの叙事詩『トリスタン』の一部を読むことを予定しています。

授業内容

実施回	内容
第1回	中世ドイツの文化
第2回	続き
第3回	ドイツ語と周辺諸言語の関係・歴史
第4回	続き
第5回	歴史言語学的観点から見た現代ドイツ語
第6回	続き
第7回	中世ドイツ文学の詩人たち
第8回	小発表1
第9回	小発表2
第10回	ゴットフリート『トリスタン』講読
第11回	続き
第12回	続き
第13回	理解度の確認

授業計画コメント

上記内容は授業で扱うトピックを挙げたもので、この順番で学習するとは限りません。

授業方法

中世の言語・文化に関する現代ドイツ語の文献の講読、中高ドイツ語・ドイツ語の歴史の概要の学習、中高ドイツ語原典購読、小発表およびディスカッションなどを予定していますが、具体的には、受講者の人数・能力・関心に応じて決定します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ドイツ語による参考資料の指定箇所には、毎回必ずあらかじめ目を通してきて下さい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験の成績・授業中の課題への取り組みなどによって総合的に評価します。
本授業は大学院・学部共通の授業ですが、学部生の成績評価は大学院生とは違う基準で行います。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に説明します。

教科書コメント

教材はプリントを使用します。参考文献等は授業中に適宜指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U350301101	科目ナンバリング	035B321
講義名	文学・文化コース 専門演習(1)		
副題	Robert Walserの初期散文小品を読む		
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies		
担当者名	若林 恵		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 月曜日 3時限 西1-214		

授業概要

ドイツ語圏スイスの作家Robert Walser(1878-1956)は、数多くの短い散文小品Prosastückchenをベルリンやベルン、プラハなどの新聞・雑誌の文芸欄に寄稿しました。この授業では、Walserの人生や当時のスイスやベルリンについて概要を知るとともに、Feuilletonist(文芸欄執筆者)Walser による、「散歩」にも喩えられ運動し続ける言葉を味わい、読み解いていきます。

到達目標

- *ローベルト・ヴァルザーの人生と文学について基本知識を得る。
- *20世紀初頭ヨーロッパにおける大衆社会の形成・メディアや芸術の変革など、時代背景を理解したうえで、文学テキストを時代背景と関連させて読むスキルを身につける。
- *文学テキストを読み解く高度なドイツ語力を修得する。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	Fritz Kochers Aufsätze (1)
第3回	Fritz Kochers Aufsätze (2)
第4回	Fritz Kochers Aufsätze (3)
第5回	Aufsätze (1)
第6回	Aufsätze (2)
第7回	Aufsätze (3)
第8回	Geschichten (1)
第9回	Geschichten (2)
第10回	Geschichten (3)
第11回	Kleine Dichtungen (1)
第12回	Kleine Dichtungen (2)
第13回	まとめ

授業方法

演習

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ドイツ語テキストの予習(90分程度)、復習とコメント提出(40分程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)	50 %	毎回のコメント

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

必要に応じて授業中にコメント、あるいはLMSによりフィードバックします。

教科書コメント

プリント配布

参考文献

タンナー兄弟姉妹: ローベルト・ヴァルザー作品集 1, ローベルト・ヴァルザー(新本史齊その他訳), 鳥影社, 2010, 978-4-86265-251-5

助手: ローベルト・ヴァルザー作品集2, ローベルト・ヴァルザー(若林恵訳), 鳥影社, 2011, 978-4-86265-305-5

長編小説と散文集: ローベルト・ヴァルザー作品集3, ローベルト・ヴァルザー(若林恵訳), 鳥影社, 2013, 978-4-86265-406-9

日々はひとつの響き: ヴァルザー＝クレイ詩画集, 柿沼万里江編 若林恵・松鶴功記訳, 平凡社, 2018, 978-4-582-65209-3

絵画の前で, ローベルト・ヴァルザー(若林恵訳), 鳥影社, 2021, 978-4-86265-854-8

履修上の注意

初回授業に必ず参加してください。

講義コード	U350301102	科目ナンバリング	035B321
講義名	文学・文化コース 専門演習(2)		
副題	Walser兄弟の絵と言葉		
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies		
担当者名	若林 恵		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 月曜日 3時限 西1-214		

授業概要

ドイツ語圏スイスの作家Robert Walser(1878-1956)は、古今の画家や絵画に関するテキストを多く書きましたが、中には舞台美術家・画家であった兄Karl の作品に関するものもあります。この授業では、知る人の少ないKarl Walserの作品にも触れながらRobert の絵画関連テキストを読み、言語と絵画という異なる芸術メディア間の関連、さらに両芸術の境界を超えようとする言葉の試みについて考えます。

到達目標

- *ローベルト・ヴァルザーとカール・ヴァルザーについて概要を知る。
- *20世紀初頭ベルリンの芸術環境について理解する。
- *言語芸術と絵画芸術など芸術メディアの方法と表現について理解を深める。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	Robert Walserと Karl Walser
第3回	テキストのための挿絵(1)Fritz Kochers Aufsätze
第4回	テキストのための挿絵(2)Die Gedichte
第5回	テキストのための挿絵(3)Geschichten
第6回	絵画の言語化(1)Leben eines Malers 1
第7回	絵画の言語化(2)Leben eines Malers 2
第8回	絵画の言語化(3)Leben eines Malers 3
第9回	絵画の言語化(4)Leben eines Malers 4
第10回	絵画の言語化(5)Damenbildnis
第11回	絵画の言語化(6)Der Tanzsaal
第12回	絵画の言語化(7)Die Einsiederei
第13回	まとめ

授業方法

演習

準備学習(予習・復習)

ドイツ語テキストの予習(90分程度)、復習とコメント提出(40分程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)	50 %	毎回のコメント

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

必要に応じて授業中にコメント、あるいはLMSによりフィードバックします。

教科書コメント

プリント配布

参考文献

絵画の前で--物語と詩--,ローベルト・ヴァルザー(若林恵訳),鳥影社,2021,978-4-86265-854-8

日々はひとつの響き:ヴァルザー=クレイ詩画集,柿沼万里江編 若林恵・松鶴功記訳,平凡社,2018,978-4-582-65209-3

タンナー兄弟姉妹:ローベルト・ヴァルザー作品集1,ローベルト・ヴァルザー(新本史斉他訳),鳥影社,2010,978-4-86265-251-5

助手:ローベルト・ヴァルザー作品集2,ローベルト・ヴァルザー(若林恵訳),鳥影社,2011,978-4-86265-305-5

長編小説と散文:ローベルト・ヴァルザー作品集3,ローベルト・ヴァルザー(若林恵訳),鳥影社,2013,978-4-86265-406-9

履修上の注意

初回授業に必ず参加してください。第1学期から続けて履修することを推奨します。

講義コード	U350301103	科目ナンバリング	035B321
講義名	文学・文化コース 専門演習(3)		
副題	芸術と教育		
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies		
担当者名	杉山 真佑美		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 金曜日 2時限 西5-301		

授業概要

18世紀啓蒙教育思想がクラシック音楽に影響を与えているといっても、あまりイメージが湧かないかもしれません。しかし、ロベルト・シューマンの妻で職業音楽家のクララ・シューマン(1819-1896)を指導したフリードリヒ・ヴィーク(1785-1873)は、18世紀啓蒙教育を代表するルソー、バゼドウ、ペスタロッチの影響を受けたといわれています。またその教育思想はヴィークに限らず、19世紀市民階級の間で普及したピアノ教育にも顕著に表れています。啓蒙期の教育思想が音楽教育に与えた影響を「こども」・「自然」・「身体」といったキーワードをもとに紐解き、当時の教育思想と芸術との関係を考察します。

到達目標

- ・当時の時代背景と教育思想を自分の言葉で説明できるようにすること。
- ・ドイツにおける啓蒙教育思想と芸術との関連性を考察することで、現代におけるこどもの教育についても考える力を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(18世紀教育改革への関心)
第2回	ルソーの教育論(1)ドイツ啓蒙教育との関係
第3回	ルソーの教育論(2)『エミール』
第4回	バゼドウの教育論(1)汎愛派による改革の試み
第5回	バゼドウの教育論(2)『提言』
第6回	ペスタロッチの教育論
第7回	19世紀における音楽教育(1) 19世紀市民階級と音楽
第8回	19世紀における音楽教育(2) 楽器と身体
第9回	19世紀における音楽教育(3) 女性と音楽
第10回	19世紀における音楽教育(4) ヴィーク『ピアノと歌』
第11回	啓蒙教育の光と闇(1) ルーチュキ『闇教育論』
第12回	啓蒙教育の光と闇(2) ホルクハイマー/アドルノ『啓蒙の弁証法』
第13回	総括

授業方法

- ・対面による演習形式の授業です。
- ・各テーマに関する共通テキストを読み、関連文献も参考にしながらグループ内で自分の考察を発表した上で議論し、最後に全体でディスカッションを行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回、共通テキストを配布します。与えられた課題にそってテキストを読み、重要事項をまとめ、グループで発表できるように準備しておくこと。(90分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	口頭発表

成績評価コメント

- ・授業の準備を課題によって十分に行っていること。
- ・グループワークに積極的に参加していること。

- ・十分に準備をした上で、発表を行っていること。
- ・授業全体の趣旨を理解した上で、レポート作成上のルールに従ってレポートを書いていること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- ・各回の課題は、授業時のグループワークの際に確認します。
- ・学期末レポートはコメントを付して返却します。

教科書コメント

授業で扱うテキストは、著作権を遵守した上で配布します。

参考文献コメント

参考文献は授業中に適宜指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に出席すること。

その他

授業に欠席する場合には、事前にメールで連絡をすること。

講義コード	U350301104	科目ナンバリング	035B321
講義名	文学・文化コース 専門演習(4)		
副題	芸術と教育		
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies		
担当者名	杉山 真佑美		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 金曜日 2時限 西5-301		

授業概要

ドイツでは大きく分けて2度の教育改革期があります。1度目は18世紀啓蒙期、2度目は19世紀末から20世紀初頭の世紀転換期です。第1学期で扱った18世紀啓蒙期の教育思想と芸術との関連性を踏まえた上で、第2学期では19世紀末から20世紀初頭の世紀転換期にみられた芸術教育運動を中心に、芸術と教育との関係を考察します。第1学期に続き、「自然」・「身体」というキーワードにも着目します。

到達目標

- ・世紀転換期における教育思想と芸術との関連性について考察することで、現代におけるこどもの教育についても考察を深める。
- ・各自の関心にそったテーマを考え、文献を検索し、資料を収集・分析し、発表できるようになること。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(ヘルバルト派から新教育へ)
第2回	芸術教育運動と文化批判(1) ニーチェ
第3回	芸術教育運動と文化批判(2) ラングベーン
第4回	芸術教育による改革の試み(1) 造形芸術
第5回	芸術教育による改革の試み(2) 音楽と体操
第6回	ダルクローズの教育論(1) 田園都市ヘレラウ
第7回	ダルクローズの教育論(2) 祝祭劇場
第8回	ダルクローズの教育論(3) リトミック
第9回	身体表現としての舞踏(1) ダンカンのモダンダンス
第10回	身体表現としての舞踏(2) ラバンの表現舞踏
第11回	ドイツ青年運動と芸術
第12回	芸術教育の可能性
第13回	総括

授業方法

- ・対面による演習形式の授業です。
- ・各テーマに関する共通テキストを読み、関連文献も参考にしながらグループ内で自分の考察を発表した上で議論し、最後に全体でディスカッションを行います。
- ・各自の関心にそったテーマで発表を行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回、共通テキストを配布します。与えられた課題にそってテキストを読み、重要事項をまとめ、グループで発表できるように準備しておくこと。(90分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	口頭発表

成績評価コメント

- ・授業の準備を課題によって十分に行っていること。
- ・グループワークに積極的に参加していること。

- ・十分に準備をした上で、発表を行っていること。
- ・授業全体の趣旨を理解した上で、レポート作成上のルールに従ってレポートを書いていること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- ・各回の課題については、授業内でのグループワークの際に確認します。
- ・学期末レポートはコメントを付して返却します。

教科書コメント

授業で扱うテキストは、著作権を遵守した上で配布します。

参考文献コメント

参考文献は授業中に適宜指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に出席すること。

その他

授業に欠席する場合には、事前にメールで連絡をすること。

講義コード	U350301105	科目ナンバリング	035B321
講義名	文学・文化コース 専門演習(5)		
副題	戦後ドイツ語圏文学と詩学(東西ドイツ篇)		
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies		
担当者名	金 志成		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 火曜日 3時限 中央-508		

授業概要

「詩学」とは「詩作についての教え」と定義されるように、文学テクストを書くための規範ないしルールブックのようなものです。その歴史は長く、古代ギリシアにまで遡り、18世紀まで「詩学」は書くための規範的な体系として存在しましたが、近代の幕開けとともに解体が始まり、第二次世界大戦以降はいわば(ポスト詩学)の時代に突入することになりました。しかし(ポスト詩学)の時代においては、「詩学」がついとその役割を終えたというわけではなく、むしろその規範性の喪失によって、絶えず問われ続けなければならない問題として現れることとなります。とりわけ戦後ドイツ文学においては「アウシュヴィッツ」や東西分裂国家といった政治的・歴史的な文脈が作家たちの創作を条件づけることになりました。また「詩学」の問題を考えることは、「近代」、「作者」、「テクスト」、「メディアとしての言語」、「パフォーマンス」、「言説制度」といった、文学研究におけるきわめて重要な諸問題を考えることへと繋がります。第1学期では、とりわけギュンター・グラスとウーヴェ・ヨーンゾンに焦点を当てます。

到達目標

- ・戦後ドイツ文学について文学史的な知識を身につける。
- ・ドイツ語文献の訳読能力を身につける。
- ・文学テクストの分析・考察、および説得的な議論の方法を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	詩学の歴史(1)古代ギリシアからロマン主義まで
第3回	詩学の歴史(2)20世紀転換期から戦後・現代まで
第4回	ギュンター・グラス「アウシュヴィッツの後に書くこと」
第5回	Günter Grass: Meine grüne Wiese (1)
第6回	Günter Grass: Meine grüne Wiese (2)
第7回	Günter Grass: Meine grüne Wiese (3)
第8回	Günter Grass: Meine grüne Wiese (4)
第9回	Günter Grass: Meine grüne Wiese (5)
第10回	ウーヴェ・ヨーンゾン「ベルリンのSバーン」
第11回	ウーヴェ・ヨーンゾン『ヤコブについての推測』
第12回	まとめ
第13回	到達度の確認

授業方法

最初の3回は講義形式、残りはテクストの訳読・議論を中心とした演習形式で行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ドイツ語テクストの訳読を中心に行うため、毎週の予習が必要となります。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポート:テクスト分析の説得性・独創性

平常点: 訳読・議論での授業への貢献

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

必要に応じて授業中に、あるいはLMSを通じて行います。

参考文献

対話性の境界: ウーヴェ・ヨンゾンの詩学, 金志成, 法政大学出版局, 2020, 978-4-588-49516-8

履修上の注意

ドイツ語既習の学生を対象とします。また、必ず辞書を持参してください。

講義コード	U350301106	科目ナンバリング	035B321
講義名	文学・文化コース 専門演習(6)		
副題	戦後ドイツ語圏文学と詩学(オーストリア篇)		
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies		
担当者名	金 志成		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 火曜日 3時限 中央-508		

授業概要

「詩学」とは「詩作についての教え」と定義されるように、文学テクストを書くための規範ないしルールブックのようなものです。その歴史は長く、古代ギリシアにまで遡り、18世紀まで「詩学」は書くための規範的な体系として存在しましたが、近代の幕開けとともに解体が始まり、第二次世界大戦以降はいわば(ポスト詩学)の時代に突入することになりました。しかし(ポスト詩学)の時代においては、「詩学」がついにその役割を終えたというわけではなく、むしろその規範性の喪失によって、絶えず問われ続けなければならない問題として現れることとなります。とりわけ戦後ドイツ文学においては「アウシュヴィッツ」や東西分裂国家といった政治的・歴史的な文脈が作家たちの創作を条件づけることになりました。また「詩学」の問題を考えることは、「近代」、「作者」、「テクスト」、「メディアとしての言語」、「パフォーマンス」、「言説制度」といった、文学研究におけるきわめて重要な諸問題を考えることへと繋がります。第2学期では、トーマス・ベルンハルトに焦点を当てます。

到達目標

- ・戦後ドイツ文学について文学史的な知識を身につける。
- ・ドイツ語文献の訳読能力を身につける。
- ・文学テクストの分析・考察、および説得的な議論の方法を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	作家紹介(1) インゲボルク・バツハマン
第3回	作家紹介(2) ペーター・ハントケ
第4回	作家紹介(3) トーマス・ベルンハルト
第5回	原典講読(1) Thomas Bernhard: Der Italiener
第6回	原典講読(2) Thomas Bernhard: Der Italiener
第7回	原典講読(3) Thomas Bernhard: Der Italiener
第8回	原典講読(4) Thomas Bernhard: Der Italiener
第9回	原典講読(5) Thomas Bernhard: Ist es eine Komödie? Ist es eine Tragödie?
第10回	原典講読(6) Thomas Bernhard: Ist es eine Komödie? Ist es eine Tragödie?
第11回	原典講読(7) Thomas Bernhard: Ist es eine Komödie? Ist es eine Tragödie?
第12回	まとめ
第13回	到達度の確認

授業方法

最初の4回は講義形式、残りはテクストの訳読・議論を中心とした演習形式で行います。

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

ドイツ語テクストの訳読を中心に行うため、毎週の予習が必要となります。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポート: テキスト分析の説得性・独創性

平常点: 訳読・議論での授業への貢献

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

必要に応じて授業中に、あるいはLMSを通じて行います。

履修上の注意

ドイツ語既習の学生を対象とします。また、必ず辞書を持参してください。

講義コード	U3503011Z1	科目ナンバリング	035B321
講義名	◇文学・文化コース 専門演習		
副題	記憶および想起に関する短編小説を読む		
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies		
担当者名	田丸 理砂		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 火曜日 1時限 西1-213		

授業概要

記憶および想起がどのように文学であらわされているのかを、作品を読みながら考えていきます。

到達目標

文学表現における記憶および想起の描き方の知識を深めるとともに、ジェンダーの視点から文学作品を捉える手法を身につけ、その方法を具体的に作品分析に応用することができるようになることを目標とします。なお大学院生はより高度な学修と成果が求められます。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	文献講読(1)
第3回	文献講読(2)
第4回	文献講読(3)
第5回	文献講読(4)
第6回	文献講読(5)
第7回	文献講読(6)
第8回	文献講読(7)
第9回	文献講読(8)
第10回	文献講読(9)
第11回	文献講読(10)
第12回	文献講読(11)
第13回	文献講読(12)／まとめ

授業計画コメント

精読を行います。必ず準備して授業に臨んでください。

授業方法

対面による演習方式で行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

あらかじめ指定した範囲のテキストの予習(課題も含む)。およそ2時間の予習を求めます。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業への出席態度及び課題提出、特に積極性を重視します。学部学生と大学院学生とは異なる基準により評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回指定するテキストの範囲については、授業内でコメントを行います。

教科書コメント

テキストは授業中に指示をします。

参考文献コメント

授業中に指示をします。

講義コード	U3503011Z2	科目ナンバリング	035B321
講義名	◇文学・文化コース 専門演習		
副題	映画と文学		
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies		
担当者名	田丸 理砂		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 火曜日 1時限 西1-213		

授業概要

20世紀前半、映画は人々に人気の娯楽文化でした。この授業では映画に関する評論やエッセイ、および映画が文学表現に与えた可能性について考えていきます。

到達目標

新しいメディアが文学に与えた可能性を学ぶことで、その方法を映画以外のメディアと文学との関係性の考察に応用できるようになることを目標とします。なお大学院生はより高度な学修と成果が求められます。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	文献講読(1)
第3回	文献講読(2)
第4回	文献講読(3)
第5回	文献講読(4)
第6回	文献講読(5)
第7回	文献講読(5)
第8回	文献講読(7)
第9回	文献講読(8)
第10回	文献講読(9)
第11回	文献講読(10)
第12回	文献講読(11)
第13回	文献講読(12)／まとめ

授業計画コメント

毎回授業で扱うテキストの範囲について、簡単な課題を出し、授業では精読を行います。

授業方法

対面による演習方式で行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

あらかじめ指定した範囲のテキストの予習(要約も含む)。およそ2時間の予習を求めます。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業への出席態度および課題提出、特に積極性を重視します。学部学生と大学院学生とは異なる基準により評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回指定するテキストの範囲については、授業内でコメントを行います。

教科書コメント

テキストは授業中に指示をします。

参考文献コメント

授業中に指示をします。

履修上の注意

欠席する場合は、事前に連絡をしてください。また欠席した場合には、翌週に課題を提出してください。

講義コード	U3503011Z3	科目ナンバリング	035B321
講義名	◇文学・文化コース 専門演習		
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies		
担当者名	GOESSNER, Gesine		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 金曜日 3時限 北1-403		

授業概要

Den Schwerpunkt des ersten Semesters bildet das Drama "Emilia Galotti"(1761) von Gotthold Ephraim Lessing (1729-1781), in dem die Liebe der Emilia Galotti im Mittelpunkt steht. Diese Liebe entfaltet sich in politischen und gesellschaftliche Verhältnisse, bei denen der Herrschaftsstil der Aristokratie auf die neue aufgeklärten Moral des Bürgertums trifft. Im Seminar soll zunächst durch die sorgfältige Lektüre ein möglichst genaues Textverständnis hergestellt werden. Darauf aufbauend werden interpretatorische Fragen gestellt.

到達目標

Die Studierende lernen mittels "Emilia Galotti" einen Zugang zu Lessings Werk und der Epoche der Aufklärung kennen. Sie lernen genau zu lesen und erweitern dadurch ihre Deutschkenntnisse. Bei der Interpretation werden verschiedenen Zugänge gewählt, so dass die Studierenden einen Einblick in verschiedenen Interpretationsmethoden erhalten. Weiterhin erhalten sie Kenntnisse über die historische und soziale Situation in Deutschland/Europa im 18. Jahrhundert.

授業内容

実施回 内容

- | | |
|------|---|
| 第1回 | Einführung in das Seminar. |
| 第2回 | Literarische Epoche: Aufklärung. Literarische Gattung: Dramatik
Lesehinweise, Erarbeitung eines Szenenspiegels (schriftliche Szenenanalyse) als Arbeitsgrundlage |
| 第3回 | gemeinsame Textlektüre, Szenenanalyse Aufzug 1 |
| 第4回 | gemeinsame Textlektüre, Szenenanalyse Aufzug 2 |
| 第5回 | Lessing, sein Werk und seine Zeit. Szenenanalyse Aufzug 3 |
| 第6回 | Arten des Dramas: Aristotelisches Drama und Lessings Dramentheorie. Szenenanalyse Aufzug 4 |
| 第7回 | Szenenanalyse Aufzug 5.
Zusammenfassung: Mündliche Darstellung des Textverständnisses. |
| 第8回 | Dialoganalyse |
| 第9回 | Figurenanalyse: Vier Seiten einer Nachricht. |
| 第10回 | Figurencharakterisierung einzelner Personen (Rota, Marinelli) |
| 第11回 | Interpretation durch theatralische Umsetzung (Szene 1/8) |
| 第12回 | Abschlussdiskussion: Lessing heute? |
| 第13回 | Nachbereitung |

授業方法

Gruppenarbeit. Denkanregungen durch die Seminarleiterin und die Teilnehmenden

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Eigene Lektüre. Vorbereitung für die ersten 4 Seminare ca. 1 Stunde, ab 5 Seminar weniger.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	20 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	80 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Wichtig ist die Lektüre des Textes und die aktive Teilnahme am Unterricht. Weiterhin gibt es einen kleinen schriftlichen Test zum Textverständnis.

学部学生と大学院学生とは異なる基準により評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Die Semianleiterin kann jederzeit vor oder nach dem Unterricht angesprochen werden. Weiterhin gibt es die Möglichkeit zu zusätzlichen Konsultationen nach Vereinbarung über Email.

教科書

EinFach Deutsch Textausgaben: Gotthold Ephraim Lessing: Emilia Galotti: Ein Trauerspiel in fünf Aufzügen.,Martin Heider,Westermann,1998,978-3140222808

参考文献コメント

Referenzmaterial wird zu Verfügung gestellt.

講義コード	U3503011Z4	科目ナンバリング	035B321
講義名	◇文学・文化コース 専門演習		
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies		
担当者名	GOESSNER, Gesine		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 金曜日 3時限 北1-403		

授業概要

Im Mittelpunkt des zweiten Semesters steht Lessings Lustspiel "Minna von Barnhelm"(1762). Auch in diesem Werk wird die Beziehung zweier Menschen von politischen und gesellschaftlichen Verhältnissen determiniert. Anders als bei seinem Stück "Emilia Galotti" wählt hier Lessing aber die Form des Lustspiels. Im Seminar soll zunächst durch sorgfältige Lektüre ein genaues Textverständnis erreicht werden. Darauf bauen dann Fragen zur Interpretation auf.

到達目標

Mittels "Minna von Barnhelm" sollen die Studierenden einen zweiten Zugang zu Lessing und seiner Welt der Aufklärung finden. Sie lernen genau zu lesen und erweitern dadurch Ihre Deutschkenntnisse. Bei der Interpretation werden verschiedene Möglichkeiten vorgestellt und angewandt. Weiterhin werden Kenntnisse über die soziale Situation in Deutschland/Europa des 18. Jahrhunderts vermittelt.

授業内容

実施回	内容
第1回	Wiederholung der wichtigsten Erkenntnisse des ersten Semsters
第2回	Textlektüre und Szenenanalyse
第3回	Textlektüre und Szenenanalyse
第4回	Zusammenfassung Szenenanalyse Figurenkonstellation
第5回	Figurencharakterisierung
第6回	Dialoganalyse
第7回	Interpretationsmöglichkeiten und deren Anwendung
第8回	Interpretationsmöglichkeiten und deren Anwendung
第9回	Interpretationsmöglichkeiten und deren Anwendung
第10回	Lustspiel oder Trauerspiel. Das Drama zur Zeit Lessings
第11回	Eigene Versuche?
第12回	Abschlussdiskussion
第13回	Nachbereitung

授業方法

Gruppenarbeit, Diskussionen und Denkanstöße

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Lektürearbeit in Vorbereitung des Seminars. Der Text des Dramas muss innerhalb von einem Monat gelesen werden. Eine japanische Übersetzung kann als Verständnishilfe Herangezogen werden.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	20 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	80 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Wichtig ist die Lektüre des Textes und die aktive Teilnahme am Seminar. Es gibt einen kleinen Test zum Textverständnis. 学部学生と大学院学生とは異なる基準により評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Die Seminarleiterin kann jederzeit vor oder nach dem Seminar angesprochen werden. Darüber hinaus besteht die Möglichkeit zu zusätzlichen Konsultationen. Diese können u.a. über Email vereinbart werden.

教科書

Minna von Barnhelm oder das Soldatenglück, G.E. Lessing, Reclam, 2016, 978-3150193129

参考文献コメント

Referenzmaterialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

講義コード	U350302101	科目ナンバリング	035B331
講義名	現代地域事情コース 専門演習(1)		
副題	日独比較男女平等立法(1)		
英文科目名	Advanced Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	泉 眞樹子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 木曜日 4時限 南1-304		

授業概要

第二次世界大戦後、日本とドイツ連邦共和国(当時の西ドイツ)は、新たに制定された憲法に男女平等を明記したものの、男性や父親を優位に置き、女性の経済的・社会的な活動を抑制する傾向が、両国とも長く続きました。しかし、このような風潮と戦い、抗う女性運動や国際社会の動きに沿って、男女平等のための政策と法整備が、一步一步進められてきました。この授業では、70年余のドイツ連邦共和国の男女平等立法の歴史とその立法過程、平等理念やその実現に向けた歴史を学び、併せて、連邦議会や連邦省の議会資料・行政資料・統計等、インターネット公開資料の具体的な調べ方を習得します。

到達目標

- ・平等について考えるための知識と視座の獲得
- ・ドイツ法の立法過程に関する知識、議会資料・行政資料を調べるスキルの獲得

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	ドイツ連邦議会制度と連邦法の立法過程
第3回	1949年基本法(憲法)と1957年男女同権法制定
第4回	墮胎罪(刑法典第218条)と妊娠中絶自由化運動
第5回	1979年国連「女子差別撤廃条約」と1980年職場における男女平等待遇法
第6回	1990年東西ドイツ統一条約と1994年基本法改正
第7回	民法典家族法の変遷(結婚と姓の選択、親権)
第8回	1994年第2次同権法と2001年連邦平等法
第9回	東西ドイツ統一とメルケル政権成立後の家族政策
第10回	2006年EU平等待遇指針実施法(EU法とドイツ法の関係)
第11回	民間企業における男女平等(ダイバーシティと同一労働同一賃金法制)
第12回	女性クオータ法(2015年、2021年)と政治におけるクオータ制
第13回	課題報告とグループ・ディスカッション

授業計画コメント

専門演習(1)、(2)を合わせて受講すること

授業方法

演習

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

法律の議会資料(法案提出～制定まで)を確認し、書式に沿って概要をまとめる。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	課題提出

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題について、授業で説明します。

教科書

ドイツ法入門:外国法入門双書,村上淳一,守矢健一,ハンス・ペーター・マルチュケ,有斐閣,改訂9,2018,9784641048225

ドイツ憲法集,高田敏・初宿正典,信山社出版,8,2020,9784797223705

参考文献

ドイツの憲法判例 IV: ,ドイツ憲法判例研究会,信山社出版,2018 ,9784797233506

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず参加すること。現代地域事情コース 専門演習(1)、(2)を合わせて受講すること。インターネット情報を検索できる機器を持参してください。

講義コード	U350302102	科目ナンバリング	035B331
講義名	現代地域事情コース 専門演習(2)		
副題	日独比較男女平等立法(2)		
英文科目名	Advanced Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	泉 眞樹子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 木曜日 4時限 南1-304		

授業概要

ドイツと日本の両国は、家を守り、子どもを育てることを女性の本務とする母性信仰が強く、女性の社会活動・経済活動が抑制されてきました。両国とも、それが少子化の一因であるとも指摘されてきましたが、ある側面では日本が先を行き、ある側面ではドイツが急激に改革を進めています。ジェンダー・ギャップに関連して、日本の男女平等に関する法律とその制定過程を理解するとともに、同様のドイツの法律や制度と比較し、日本とドイツの相違点と変化を、両国の議会資料・行政資料に即して学びます。

到達目標

- ・男女平等についての日独比較(歴史、統計)
- ・日本の議会資料・行政資料を調べるスキルの獲得

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	イエから個人の尊重へ(日本国憲法と民法改正・戸籍法改正、優生保護法制定)
第3回	女性労働と家族責任(1965年ILO第123号勧告と1972年勤労婦人福祉法)
第4回	1979年国連「女子差別撤廃条約」と1984年国籍法改正、1985年男女雇用機会均等法
第5回	男女雇用機会均等法改正(1997年義務規定とセクハラ規定、2006年男性差別と間接差別禁止)
第6回	税・社会保障における男女平等(被扶養配偶者の扱い)
第7回	育児休業と介護休業、保育制度と介護人材
第8回	男女共同参画と政治におけるクォータ制
第9回	教育における男女格差(高等教育進学率、STEM/MINT進学、教員数、継続教育)
第10回	暴力に曝される女性(ストーカー行為、ドメスティック・バイオレンス、性犯罪)
第11回	性的マイノリティと立法
第12回	ダイバーシティとインクルージョン
第13回	課題報告とグループ・ディスカッション

授業方法

演習

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

法律の制定時資料(法案提出～制定まで)を確認して概要をまとめ、同様又は類似するドイツ連邦法を示す。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	課題提出

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題について、授業で説明します。

参考文献

新書版 性差(ジェンダー)の日本史: インターナショナル新書, 国立歴史民俗博物館監修、「性差の日本史」展示プロジェクト編, 集英社インターナショナル, 2021, 9784797680836
 フェミニズムってなんですか?: 文春新書, 清水晶子, 文藝春秋, 2022, 9784166613618

参考文献コメント

参考文献はレポート課題の候補です。他の文献については、授業で説明します。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず参加すること。現代地域事情コース 専門演習(1)、(2)を合わせて受講すること。インターネット情報を検索できる機器を持参してください。

講義コード	U350302103	科目ナンバリング	035B331
講義名	現代地域事情コース 専門演習(4)		
副題	基礎的なドイツ語文献を用いたドイツ現代史研究への橋渡し		
英文科目名	Advanced Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	柳原 伸洋		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 木曜日 2時限 西1-314		

授業概要

本演習では、「ドイツ連邦政治教育センター(Bundeszentrale für politische Bildung)」などのドイツ語サイトに掲載されているドイツ現代史の基礎的な記事を講読する。ドイツ現代史(ヴァイマル期、ナチ期、東西ドイツなど)について、参加者が自分の関心からテーマを決め、日本語文献を押さえつつドイツ語文献と照応させる。それによって、ドイツ現代史研究の基礎と最前線との両方を押さえることを目指す。およそ、日本語文献からの報告、その後にドイツ語読解という順で進めていく。

到達目標

- ・ドイツ語説明文・論文の基礎的な読解能力の習得と、ドイツ現代史についての基礎的な研究視座の獲得。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス:演習の進め方とドイツ現代史研究の領域説明
第2回	ドイツ現代史研究のための資料状況の確認と担当分野・担当記事の決定
第3回	20世紀ドイツ史の研究分野と日本語研究の確認・報告(1):ヴァイマル期ドイツなど
第4回	20世紀ドイツ史の研究分野と日本語研究の確認・報告(2):ナチ期ドイツなど
第5回	20世紀ドイツ史の研究分野と日本語研究の確認・報告(3):第二次世界大戦期やホロコーストなど
第6回	20世紀ドイツ史の研究分野と日本語研究の確認・報告(4):東西ドイツ成立期からベルリンの壁の時期まで
第7回	20世紀ドイツ史の研究分野と日本語研究の確認・報告(5):東西ドイツの国連加盟からベルリンの壁崩壊頃まで
第8回	20世紀ドイツ史の研究分野とドイツ語記事の確認・報告(1):ヴァイマル期ドイツなど
第9回	20世紀ドイツ史の研究分野とドイツ語記事の確認・報告(2):ナチ期ドイツなど
第10回	20世紀ドイツ史の研究分野とドイツ語記事の確認・報告(3):第二次世界大戦期やホロコーストなど
第11回	20世紀ドイツ史の研究分野とドイツ語記事の確認・報告(4):東西ドイツ成立期からベルリンの壁の時期まで
第12回	20世紀ドイツ史の研究分野とドイツ語記事の確認・報告(5):東西ドイツの国連加盟からベルリンの壁崩壊頃まで
第13回	全体的な総括と演習参加者の得た知見の確認

授業計画コメント

- ・参加者の関心によって、何を中心的なテーマとするかは変化する。

授業方法

- ・演習形式で参加者同士の対話を重視する。
- ・複数人が同一テーマに関心がある場合には、共同で作業・報告をしてもらう。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・日本語参考文献の基礎的な渉猟(図書館の蔵書状況および論文検索)
- ・ドイツ語記事の検索と、ドイツ語翻訳(全文ではなく一部)
(Bundeszentrale für politische Bildungのサイト: <https://www.bpb.de/themen/geschichte/>)を確認しておく。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10%	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- ・報告者への研究上のアドバイスやコメント
- ・ドイツ語読解の確認

教科書コメント

・原則、連邦政治教育センターのサイトを利用する。

参考文献

教養のドイツ現代史, 田野大輔・柳原伸洋, ミネルヴァ書房, 2016, 9784623072705

これならわかるドイツ語文法 入門から上級まで, 鷺巣 由美子, NHK出版, 2016, 414035139X

参考文献コメント

「1」はドイツ現代史研究の基礎テーマが網羅されている。

「2」はドイツ語読解上で必要な文法知識を過不足なく、かつ簡明に説明されている。

その他

連絡方法は、LMSおよびメールを用いる。

講義コード	U350302104	科目ナンバリング	035B331
講義名	現代地域事情コース 専門演習(5)		
副題	地域環境問題		
英文科目名	Advanced Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	岡村 りら		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 水曜日 1時限 北1-305		

授業概要

環境問題は多角的かつ複合的です。人間が生活している所には必ず「環境問題」が存在し、人々のライフスタイルの違いによって環境に及ぼされる影響は変わってきます。したがって「比較環境問題」＝「比較文化」ということも出来ます。海外では「環境」が重要課題の一つとなっており、若い世代の共通テーマともなっています。「環境」は私たちの生活と密接にかかわりあっています。そして経済、産業、外交など様々な分野へとつながっていきます。

前期は地域環境問題、特に廃棄物問題に焦点をあてます。

「ごみ」というテーマだけで、衣(ファストファッション)食(食品ロス)住(分別/リサイクル)、プラスチック海洋汚染の観光・漁業への影響、リサイクル技術のビジネスチャンス、リユースシステムの構築とコミュニティの形成など様々な分野へ繋がってきます。ゴミ問題を通じて日独の歴史、社会や文化を理解します。

学期前半はレクチャーとディスカッションを中心に行い、学期の後半は、その知識を前提に、受講生はプレゼンテーション(日本語/ドイツ語どちらでも可)を行います。

到達目標

「環境」は、私たちの生活に密着したテーマです。「環境」を通じて日独比較考察をすることは、両国の社会・文化比較につながります。ドイツと日本の類似点・相違点を明らかにし、ドイツへの理解を深めると同時に、ドイツを知ることで日本についての理解も深めます。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス:授業の目標、進め方について説明
第2回	環境問題・環境政策の概要
第3回	各主体の役割(緑の党を中心に)
第4回	廃棄物・リサイクル(概説)
第5回	廃棄物・リサイクル(プラスチックごみ、DSD)
第6回	廃棄物・リサイクル(デポジット)
第7回	放射性廃棄物(原子力発電を廃棄物問題の側から考える)
第8回	高レベル放射性廃棄物の最終処分場問題
第9回	食と環境(食品ロス)
第10回	食と環境(有機農業とエコマーク)
第11回	理解度テスト/グループ/個人発表
第12回	グループ/個人発表
第13回	グループ/個人発表

授業計画コメント

履修者の人数により、発表の形態(グループ/個人)や回数に変更が生じる場合があります。

授業方法

1～10回までは、授業の前半は教員によるレクチャー、授業の後半はレクチャーの内容に関してディスカッションを行います。学期の後半は履修者が前期授業の内容に関するテーマを選び発表をします。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

次回授業の予備知識を得るために、教員の指示に従って情報収集等行ってください。

授業で学んだ知識を深めるために、各自授業後に資料収集、文献の読み込み等、学期後半の発表に備えて調査を行ってください。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		

中間テスト

レポート		
小テスト	40 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	

成績評価コメント

発表、小テスト、平常点で総合的に判断します。履修者の人数により評価方法に多少変更が生じる場合があります。変更がある場合には授業内で必ずお知らせします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎授業の最後に提出するコメントペーパーのフィードバックは次回授業で行います。
学期後半の発表に関しては、発表後にコメントをします。

教科書コメント

適宜、授業内で指示します。

参考文献コメント

適宜、授業内で指示します。

履修上の注意

履修者数制限の可能性がります。履修者数により授業形態の変更も考えられますので、第一回目の授業に必ず出席してください。

その他

前期、後期を合わせて受講することを推奨します。
連絡先: lilaokamura@senshu-u.jp

講義コード	U350302105	科目ナンバリング	035B331
講義名	現代地域事情コース 専門演習(6)		
副題	地球環境問題		
英文科目名	Advanced Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	岡村 りら		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 水曜日 1時限 北1-305		

授業概要

環境問題は多角的かつ複合的です。人間が生活している所には必ず「環境問題」が存在し、人々のライフスタイルの違いによって環境に及ぼされる影響は変わってきます。したがって「比較環境問題」＝「比較文化」ということも出来ます。海外では「環境」が重要課題の一つとなっており、若い世代の共通テーマともなっています。「環境」は私たちの生活と密接にかかわりあっています。そして経済、産業、外交など様々な分野へとつながっていきます。

後期は地球環境問題を扱います。気候変動問題を中心に置き、その中でも特に資源・エネルギー政策に焦点をあてます。資源とエネルギーは私たちの生活、そして産業活動には欠かせないものです。古代から文明の発展と衰退は資源やエネルギーと大きく関係してきました。生活と密接な関りをもつ資源やエネルギー問題の変遷をたどり、地域や国の歴史、文化を理解します。また現代のエネルギー政策は、環境のみならず外交・産業に係る重要なテーマであり、エネルギー問題を通じて国際関係を読み解きます。

学期前半はレクチャーとディスカッションを中心にを行い、学期の後半は、その知識を前提に、受講生はプレゼンテーション(日本語/ドイツ語どちらでも可)を行います。

到達目標

「環境」は、私たちの生活に密着したテーマです。「環境」を通じて日独比較考察をすることは、両国の社会・文化比較につながります。ドイツと日本の類似点・相違点を明らかにし、ドイツへの理解を深めると同時に、ドイツを知ることで日本についての理解も深めます。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス:授業の目標、進め方について説明 地球環境問題概説
第2回	グローバル化と環境問題
第3回	国際交渉(京都議定書、パリ協定)
第4回	気候変動とエネルギー政策(化石燃料、原子力)
第5回	気候変動とエネルギー政策(再生可能エネルギー)
第6回	再生可能エネルギーとビジネスチャンス
第7回	気候変動と交通政策
第8回	環境と観光(イベントと環境、エコツーリズム)
第9回	ボトムアップを助けるしくみ(環境教育)
第10回	ボトムアップを助けるしくみ(環境意識、消費者行動)
第11回	理解度テスト/グループ/個人発表
第12回	グループ/個人発表
第13回	グループ/個人発表

授業計画コメント

履修者の人数により、発表の形態(グループ/個人)や回数に変更が生じる場合があります。

授業方法

1～10回までは、授業の前半は教員によるレクチャー、授業の後半はレクチャーの内容に関してディスカッションを行います。学期の後半は履修者が前期授業の内容に関するテーマを選び発表をします。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

次回授業の予備知識を得るために、教員の指示に従って情報収集等行ってください。授業で学んだ知識を深めるために、各自授業後に資料収集、文献の読み込み等、学期後半の発表に備えて調査を行ってください。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		

レポート

小テスト	40 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	

成績評価コメント

発表、小テスト、平常点で総合的に判断します。履修者の人数により評価方法に多少変更が生じる場合があります。変更がある場合には授業内で必ずお知らせします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎授業の最後に提出するコメントペーパーのフィードバックは次回授業で行います。
学期後半の発表に関しては、発表後にコメントをします。

教科書コメント

適宜、授業内で指示します。

参考文献コメント

適宜、授業内で指示します。

履修上の注意

履修者数制限の可能性があります。履修者数により授業形態の変更も考えられますので、第一回目の授業に必ず出席してください。

その他

前期、後期を合わせて受講することを推奨します。
連絡先: lilaokamura@senshu-u.jp

講義コード	U350302106	科目ナンバリング	035B331
講義名	現代地域事情コース 専門演習(8)		
副題	現代ドイツにおける家族の多様性		
英文科目名	Advanced Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 木曜日 1時限 西2-203		

授業概要

家族といっても、現代のドイツには様々な形の家族が存在します。父親と母親と子供からなる家族を考えてみましょう。父親と母親は結婚しているかもしれませんが、していないかもしれません。子どもは二人の子どもという可能性もありますが、再婚による連れ子かもしれないし、養子かもしれません。一緒に住んでいる家族もあれば、例えば母親か父親が単身赴任していて、ときおり全員が顔を合わせる家族もあるでしょう。この授業では、統計データを豊富に用いながら、現代ドイツの家族を取り巻く状況について学びます。各回の議論を通じて、家族の役割やその意義を考えます。

到達目標

- ・家族には様々な形やありかたがあることを知る。
- ・そのような多様性と社会がどのようにつながっているかを理解する。
- ・社会における家族の役割や機能を理解する。
- ・統計資料を分析的かつ批判的に読むことを学び、他の人と議論する経験を積む。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	結婚をめぐる状況①
第3回	結婚をめぐる状況②
第4回	結婚以外の選択肢
第5回	少子化をめぐる状況
第6回	少子化の背景①
第7回	少子化の背景②
第8回	子ども・若者をめぐる状況
第9回	ひとり親家族をめぐる状況①
第10回	ひとり親家族をめぐる状況②
第11回	ワーク・ライフ・バランス①
第12回	ワーク・ライフ・バランス②
第13回	総括

授業計画コメント

一人1回、共通テキスト(日本語文献)を要約する形の発表(5～10分程度)をお願いする予定です。

授業方法

対面で授業を行います。グループワーク主体の授業です。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・共通テキスト(ドイツ語の統計資料)に事前に目を通す(30分)。
- ・共通テキスト(日本語文献)を事前に読む(30分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)	20 %	口頭発表

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートはコメントを付けて返却します。

教科書

「家族の幸せ」の経済学——データ分析でわかった結婚、出産、子育ての真実,山口慎太郎,光文社,2019

教科書コメント

・ドイツ語の統計資料は、適宜、授業時に配布します。

講義コード	U350303101	科目ナンバリング	035B501
講義名	通訳・翻訳者養成演習(基礎)(1)		
副題	Deutsch kommunikativ		
英文科目名	Training Seminar: for Interpreter and Translator (Basic Class)		
担当者名	BEIER-TAGUCHI Diana		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 火曜日 2時限 西1-306		

授業概要

Im Mittelpunkt des Kurses stehen die Themen "Zeit und Zeitgefühl", "Männer - Frauen - Paare" und "Schule". Es wird geübt, sich zu diesen Texten mündlich und schriftlich auszudrücken.

到達目標

Geübt wird der mündliche und schriftliche Ausdruck. Außerdem werden Texte gehört und gelesen. Nach Möglichkeit werden Vergleiche zwischen Japan und den deutschsprachigen Ländern gezogen. Weiterhin geht es darum zu lernen, wie man Lücken in einer Fremdsprache schließt.

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung Themenkreis "Zeit und Zeitgefühl"
第2回	Fortführung Themenkreis "Zeit und Zeitgefühl" (Zeit und Lebenszeit)
第3回	Fortführung Themenkreis "Zeit und Zeitgefühl" (Die Geschichte des Brandenburgertors)
第4回	Fortführung Themenkreis "Zeit und Zeitgefühl" (Reiseführer)
第5回	Fortführung Themenkreis "Zeit und Zeitgefühl" (Zeitungstext)
第6回	Fortführung Themenkreis "Zeit und Zeitgefühl" (Gedicht von Goethe)
第7回	Einführung Themenkreis "Männer - Frauen - Paare"
第8回	Fortführung Themenkreis "Männer - Frauen - Paare" (Rollenklischees)
第9回	Fortführung Themenkreis "Männer - Frauen - Paare" (Partnerschaft)
第10回	Fortführung Themenkreis "Männer - Frauen - Paare" (Das 4 -Ohren-Modell der Kommunikation)
第11回	Einführung Themenkreis "Schule und lernen"
第12回	Fortführung Themenkreis "Schule und lernen" (Schule und Schulsystem in Deutschland)
第13回	Klausur (Summing up)

授業方法

Seminar im Klassenzimmer

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Vokabeln müssen immer gelernt werden. Hausaufgaben.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	40 %	
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Aktive Teilnahme, Hausaufgaben

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Bei der Rückgabe wird kommentiert.

教科書

studio [21] B1,Hermann Funk / Christina Kuhn u. a.,Cornelsen,2015,978-3-06-520599-3

教科書コメント

教科書は、学年始めのガイダンスでの学科の指示に従って購入してください。

履修上の注意

通訳・翻訳者養成演習(基礎)3とセットで履修すること。

第1回目の授業に必ず出席すること。

受講条件を満たさない場合には、受講できません。ガイダンスの際に行う説明に従って、必ず指定期日までに申込みを行ってください。

講義コード	U350303102	科目ナンバリング	035B501
講義名	通訳・翻訳者養成演習(基礎)(2)		
副題	Deutsch kommunikativ		
英文科目名	Training Seminar: for Interpreter and Translator (Basic Class)		
担当者名	BEIER-TAGUCHI Diana		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 火曜日 2時限 西1-306		

授業概要

Im Mittelpunkt des Kurses stehen die Themen "Schule", "Verhaltensregeln" und "Migration". Es wird geübt, sich zu diesen Texten mündlich und schriftlich auszudrücken.

到達目標

Geübt wird der mündliche und schriftliche Ausdruck. Außerdem werden Texte gehört und gelesen. Nach Möglichkeit werden Vergleiche zwischen Japan und den deutschsprachigen Ländern gezogen. Weiterhin geht es darum zu lernen, wie man Lücken in einer Fremdsprache schließt.

授業内容

実施回	内容
第1回	Fortführung Themenkreis "Schule und lernen" (Berufe in der Schule)
第2回	Fortführung Themenkreis "Schule und lernen" (Bildungswege)
第3回	Fortführung Themenkreis "Schule und lernen" (Lernnote)
第4回	Einführung Themenkreis "Verhaltensregeln"
第5回	Fortführung Themenkreis "Verhaltensregeln" (Pleiten, Pech und Pannen 1)
第6回	Fortführung Themenkreis "Verhaltensregeln" (Pleiten, Pech und Pannen 2)
第7回	Fortführung Themenkreis "Verhaltensregeln" (Knigge interkulturell)
第8回	Fortführung Themenkreis "Verhaltensregeln" (Konflikte)
第9回	Einführung Themenkreis "Migration"
第10回	Fortführung Themenkreis "Migration" (Ein- und Auswanderungsland Deutschland)
第11回	Fortführung Themenkreis "Migration" (Migrationsgründe)
第12回	Fortführung Themenkreis "Migration" (Auswanderungsgeschichten)
第13回	Klausur (Summing up)

授業方法

Seminar im Klassenzimmer

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Vokabeln müssen immer gelernt werden. Hausaufgaben.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト	40 %	
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Aktive Teilnahme, Hausaufgaben

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Bei der Rückgabe wird kommentiert.

教科書

studio [21] B1, Hermann Funk / Christina Kuhn u. a., Cornelsen, 2015, 978-3-06-520599-3

教科書コメント

教科書は、学年始めのガイダンスでの学科の指示に従って購入してください。

履修上の注意

通訳・翻訳者養成演習(基礎)4とセットで履修すること。

第1回目の授業に必ず出席すること。

受講条件を満たさない場合には、受講できません。ガイダンスの際に行う説明に従って、必ず指定期日までに申込みを行ってください。

講義コード	U350303103	科目ナンバリング	035B501
講義名	通訳・翻訳者養成演習(基礎)(3)		
副題	Deutsch kommunikativ		
英文科目名	Training Seminar: for Interpreter and Translator (Basic Class)		
担当者名	IHLOW, Uwe		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 木曜日 2時限 西1-202		

授業概要

Im Mittelpunkt des Kurses stehen die Themen "Alltagsprobleme", "Arbeit im Wandel" und "Klima und Umwelt". Es wird geübt, sich zu diesen Texten mündlich und schriftlich auszudrücken.

到達目標

Geübt wird der mündliche und schriftliche Ausdruck. Außerdem werden Texte gehört und gelesen. Nach Möglichkeit werden Vergleiche zwischen Japan und den deutschsprachigen Ländern gezogen. Weiterhin geht es darum zu lernen, wie man Lücken in einer Fremdsprache schließt.

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung Themenkreis "Alltag"
第2回	Fortführung Themenkreis "Alltag" (auf der Bank / bei der Polizei)
第3回	Fortführung Themenkreis "Alltag" (Stress im Beruf: Ursachen)
第4回	Fortführung Themenkreis "Alltag" (Stress im Beruf: Strategien)
第5回	Fortführung Themenkreis "Alltag" (Lachen ist gesund)
第6回	Fortführung Themenkreis "Alltag" (Zeitschriftenartikel / Sprichwörter)
第7回	Einführung Themenkreis "Arbeit im Wandel"
第8回	Fortführung Themenkreis "Arbeit im Wandel" (Geschichte einer Region kennenlernen)
第9回	Fortführung Themenkreis "Arbeit im Wandel" (Ruhrgebiet)
第10回	Fortführung Themenkreis "Arbeit im Wandel" (Arbeitsunfälle)
第11回	Fortführung Themenkreis "Arbeit im Wandel" (Zeitschriftenartikel)
第12回	Klausur (Summing up)
第13回	Zusatzübung (Independent research)

授業方法

Seminar im Klassenzimmer

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Vokabeln müssen immer gelernt werden. Hausaufgaben.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	40 %	
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Aktive Teilnahme, Hausaufgaben

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Bei der Rückgabe wird kommentiert.

教科書

studio [21] B1,Hermann Funk / Christina Kuhn u. a.,Cornelsen,2015,978-3-06-520599-3

教科書コメント

教科書は、学年始めのガイダンスでの学科の指示に従って購入してください。

履修上の注意

通訳・翻訳者養成演習(基礎)1とセットで履修すること。

第1回目の授業に必ず出席すること。

受講条件を満たさない場合には、受講できません。ガイダンスの際に行う説明に従って、必ず指定期日までに申込みを行ってください。

講義コード	U350303104	科目ナンバリング	035B501
講義名	通訳・翻訳者養成演習(基礎)(4)		
副題	Deutsch kommunikativ		
英文科目名	Training Seminar: for Interpreter and Translator (Basic Class)		
担当者名	IHLOW, Uwe		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 木曜日 2時限 西1-202		

授業概要

Im Mittelpunkt des Kurses stehen die Themen "Klima", "Generation" und "Europa". Es wird geübt, sich zu diesen Texten mündlich und schriftlich auszudrücken.

到達目標

Geübt wird der mündliche und schriftliche Ausdruck. Außerdem werden Texte gehört und gelesen. Nach Möglichkeit werden Vergleiche zwischen Japan und den deutschsprachigen Ländern gezogen. Weiterhin geht es darum zu lernen, wie man Lücken in einer Fremdsprache schließt.

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung Themenkreis "Klima und Umwelt"
第2回	Fortführung Themenkreis "Klima und Umwelt" (Klimawandel)
第3回	Fortführung Themenkreis "Klima" (Umweltprobleme)
第4回	Fortführung Themenkreis "Klima" (UN-Klimareport)
第5回	Fortführung Themenkreis "Klima" (Zeitungs- und Onlineartikel)
第6回	Einführung Themenkreis "Generationen"
第7回	Fortführung Themenkreis "Generationen" (Kindheit, Jugend, Alter)
第8回	Fortführung Themenkreis "Generationen" (Kindheit, Jugend, Alter)
第9回	Einführung Themenkreis "Generationen" (Kinderträume)
第10回	Fortführung Themenkreis "Generationen" (Romanauszug: "Die blauen und die grauen Tage")
第11回	Einführung Themenkreis "Europa"
第12回	Fortführung Themenkreis "Europa" (Wir sind Europa!)
第13回	Klausur (Summing up)

授業方法

Seminar im Klassenzimmer

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Vokabeln müssen immer gelernt werden. Hausaufgaben.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト	40 %	
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Aktive Teilnahme, Hausaufgaben

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Bei der Rückgabe wird kommentiert.

教科書

studio [21] B1,Hermann Funk / Christina Kuhn u. a.,Cornelsen,2015,978-3-06-520599-3

教科書コメント

教科書は、学年始めのガイダンスでの学科の指示に従って購入してください。

履修上の注意

通訳・翻訳者養成演習(基礎)(2)とセットで履修すること。

第1回目の授業に必ず出席すること。

受講条件を満たさない場合には、受講できません。ガイダンスの際に行う説明に従って、必ず指定期日までに申込みを行ってください。

講義コード	U350304101	科目ナンバリング	035B502
講義名	通訳・翻訳者養成演習(実践)(1)		
英文科目名	Training Seminar: for Interpreter and Translator (Advanced Class)		
担当者名	MEYER, Thomas Horst		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 月曜日 3時限 中央-508		

授業概要

この授業はヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)の評価基準B1の試験に合格している学生、あるいはそれと同程度のドイツ語力のある学生を対象とします。通訳・翻訳者養成演習(実践)(3)の授業と連動して週2回の授業で共通のテキストを使用して進めていきますので、できるだけ通訳・翻訳者養成演習(実践)(3)の授業とセットで受講してください。通訳・翻訳者養成演習(実践)(1)では教科書の奇数課を、通訳・翻訳者養成演習(実践)(3)では偶数課を扱います。受講に関する注意事項については、2年生以上対象のガイダンスの際に説明を行いますので、必ずガイダンスに出席し、事前に申し込みを行ってください。

到達目標

ヨーロッパ言語共通参照枠(GER)の評価基準B2試験に合格できるドイツ語力の習得を目指します。B2レベルの試験で必要とされるドイツ語力(読解力、文法知識、文章表現力、ヒアリング力の4分野)を、各テーマごとに練習し、各課の最後には理解力のチェックを行います。

授業内容

実施回	内容
第1回	Lektion 1 : Freunde (Lesen)
第2回	Lektion 1 : Freunde (Grammatik)
第3回	Lektion 1 : Freunde (Hören)
第4回	Lektion 1 : Freunde (Schreiben)
第5回	Lektion 3 : Medien (Lesen)
第6回	Lektion 3 : Medien (Grammatik)
第7回	Lektion 3 : Medien (Hören)
第8回	Lektion 3 : Medien (Schreiben)
第9回	Lektion 5 : Körperbewusstsein (Lesen)
第10回	Lektion 5 : Körperbewusstsein (Grammatik)
第11回	Lektion 5 : Körperbewusstsein (Hören)
第12回	Lektion 5 : Körperbewusstsein (Schreiben)
第13回	Referate zu selbst gewählten Themen und Evaluation

授業方法

Seminar im Klassenzimmer

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

毎回の授業で課題を出しますので、それを次回の授業までに必ず準備しておいてください。(1～2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	aktive Teilnahme
その他(備考欄を参照)	50 %	Hausaufgaben

成績評価コメント

授業への積極的な参加、課題、および各課の最後の理解度チェック課題により評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題についてはチェックをし、コメントを付記して返却します。

教科書

教科書コメント

教科書は、学年始めのガイダンスでの学科の指示に従って購入してください。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

受講条件を満たさない場合には、受講できません。ガイダンスの際に行う説明に従って、必ず指定期日までに申込みを行ってください。

講義コード	U350304102	科目ナンバリング	035B502
講義名	通訳・翻訳者養成演習(実践)(2)		
英文科目名	Training Seminar: for Interpreter and Translator (Advanced Class)		
担当者名	MEYER, Thomas Horst		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 月曜日 3時限 中央-508		

授業概要

この授業はヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)の評価基準B1の試験に合格している学生、あるいはそれと同程度のドイツ語力のある学生を対象とします。通訳・翻訳者養成演習(実践)(4)の授業と連動して週2回の授業で共通のテキストを使用して進めていきますので、できるだけ通訳・翻訳者養成演習(実践)(4)の授業とセットで受講してください。通訳・翻訳者養成演習(実践)(2)では教科書の奇数課を、通訳・翻訳者養成演習(実践)(4)では偶数課を扱います。受講に関する注意事項については、2年生以上対象のガイダンスの際に説明を行いますので、必ずガイダンスに出席し、事前に申し込みを行ってください。

到達目標

ヨーロッパ言語共通参照枠(GER)の評価基準B2試験に合格できるドイツ語力の習得を目指します。B2レベルの試験で必要とされるドイツ語力(読解力、文法知識、文章表現力、ヒアリング力の4分野)を、各テーマごとに練習し、各課の最後には理解力のチェックを行います。

授業内容

実施回	内容
第1回	Lektion 7 : Beziehungen (Lesen)
第2回	Lektion 7 : Beziehungen (Grammatik)
第3回	Lektion 7 : Beziehungen (Hören)
第4回	Lektion 7 : Beziehungen (Schreiben)
第5回	Lektion 9 : An der Uni (Lesen)
第6回	Lektion 9 : An der Uni (Grammatik)
第7回	Lektion 9 : An der Uni (Hören)
第8回	Lektion 9 : An der Uni (Schreiben)
第9回	Lektion 11 : Gesundheit (Lesen)
第10回	Lektion 11 : Gesundheit (Grammatik)
第11回	Lektion 11 : Gesundheit (Hören)
第12回	Lektion 11 : Gesundheit (Schreiben)
第13回	Referate zu selbst gewählten Themen und Evaluation

授業方法

Seminar im Klassenzimmer

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

毎回の授業で課題を出しますので、それを次回の授業までに必ず準備しておいてください。(1～2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	aktive Teilnahme
その他(備考欄を参照)	50 %	Hausaufgaben

成績評価コメント

授業への積極的な参加、課題、および各課の最後の理解度チェック課題により評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題についてはチェックをし、コメントを付記して返却します。

教科書

教科書コメント

教科書は、学年始めのガイダンスでの学科の指示に従って購入してください。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

受講条件を満たさない場合には、受講できません。ガイダンスの際に行う説明に従って、必ず指定期日までに申込みを行ってください。

講義コード	U350304103	科目ナンバリング	035B502
講義名	通訳・翻訳者養成演習(実践)(3)		
英文科目名	Training Seminar: for Interpreter and Translator (Advanced Class)		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 火曜日 2時限 西2-505		

授業概要

この授業はヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)の評価基準B1の試験に合格している学生、あるいはそれと同程度のドイツ語力のある学生を対象とします。通訳・翻訳者養成演習(実践)(1)の授業と連動して週2回の授業で共通のテキストを使用して進めていきますので、できるだけ通訳・翻訳者養成演習(実践)(1)の授業とセットで受講してください。通訳・翻訳者養成演習(実践)(1)では教科書の奇数課を、通訳・翻訳者養成演習(実践)(3)では偶数課を扱います。受講に関する注意事項については、2年生以上対象のガイダンスの際に説明を行いますので、必ずガイダンスに出席し、事前に申し込みを行ってください。

到達目標

ヨーロッパ言語共通参照枠(GER)の評価基準B2試験に合格できるドイツ語力の習得を目指します。B2レベルの試験で必要とされるドイツ語力(読解力、文法知識、文章表現力、ヒアリング力の4分野)を、各テーマごとに練習し、各課の最後には理解力のチェックを行います。

授業内容

実施回	内容
第1回	Lektion 2 : In der Firma (Lesen)
第2回	Lektion 2 : In der Firma (Grammatik)
第3回	Lektion 2 : In der Firma (Hören)
第4回	Lektion 2 : In der Firma (Schreiben)
第5回	Lektion 4 : Nach der Schule (Lesen)
第6回	Lektion 4 : Nach der Schule (Grammatik)
第7回	Lektion 4 : Nach der Schule (Hören)
第8回	Lektion 4 : Nach der Schule (Schreiben)
第9回	Lektion 6 : Städte erleben (Lesen)
第10回	Lektion 6 : Städte erleben (Grammatik)
第11回	Lektion 6 : Städte erleben (Hören)
第12回	Lektion 6 : Städte erleben (Schreiben)
第13回	Referate zu selbst gewählten Themen und Evaluation

授業方法

Seminar im Klassenzimmer

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

毎回の授業で課題を出しますので、それを次回の授業までに必ず準備しておいてください。(1～2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	aktive Teilnahme
その他(備考欄を参照)	50 %	Hausaufgaben

成績評価コメント

授業への積極的な参加、課題、および各課の最後の理解度チェック課題により評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題についてはチェックをし、コメントを付記して返却します。

教科書

教科書コメント

教科書は、学年始めのガイダンスでの学科の指示に従って購入してください。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

受講条件を満たさない場合には、受講できません。ガイダンスの際に行う説明に従って、必ず指定期日までに申込みを行ってください。

講義コード	U350304104	科目ナンバリング	035B502
講義名	通訳・翻訳者養成演習(実践)(4)		
英文科目名	Training Seminar: for Interpreter and Translator (Advanced Class)		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 火曜日 2時限 西2-505		

授業概要

この授業はヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)の評価基準B1の試験に合格している学生、あるいはそれと同程度のドイツ語力のある学生を対象とします。通訳・翻訳者養成演習(実践)(2)の授業と連動して週2回の授業で共通のテキストを使用して進めていきますので、できるだけ通訳・翻訳者養成演習(実践)(2)の授業とセットで受講してください。通訳・翻訳者養成演習(実践)(2)では教科書の奇数課を、通訳・翻訳者養成演習(実践)(4)では偶数課を扱います。受講に関する注意事項については、2年生以上対象のガイダンスの際に説明を行いますので、必ずガイダンスに出席し、事前に申し込みを行ってください。

到達目標

ヨーロッパ言語共通参照枠(GER)の評価基準B2試験に合格できるドイツ語力の習得を目指します。B2レベルの試験で必要とされるドイツ語力(読解力、文法知識、文章表現力、ヒアリング力の4分野)を、各テーマごとに練習し、各課の最後には理解力のチェックを行います。

授業内容

実施回	内容
第1回	Lektion 8 : Ernährung (Lesen)
第2回	Lektion 8 : Ernährung (Grammatik)
第3回	Lektion 8 : Ernährung (Hören)
第4回	Lektion 8 : Ernährung (Schreiben)
第5回	Lektion 10 : Service (Lesen)
第6回	Lektion 10 : Service (Grammatik)
第7回	Lektion 10 : Service (Hören)
第8回	Lektion 10 : Service (Schreiben)
第9回	Lektion 12 : Sprache und Regionen (Lesen)
第10回	Lektion 12 : Sprache und Regionen (Grammatik)
第11回	Lektion 12 : Sprache und Regionen (Hören)
第12回	Lektion 12 : Sprache und Regionen (Schreiben)
第13回	Referate zu selbst gewählten Themen und Evaluation

授業方法

Seminar im Klassenzimmer

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

毎回の授業で課題を出しますので、それを次回の授業までに必ず準備しておいてください。(1～2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	aktive Teilnahme
その他(備考欄を参照)	50 %	Hausaufgaben

成績評価コメント

授業への積極的な参加、課題、および各課最後の理解度チェック課題により評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題についてはチェックをし、コメントを付記して返却します。

教科書

教科書コメント

教科書は、学年始めのガイダンスでの学科の指示に従って購入してください。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

受講条件を満たさない場合には、受講できません。ガイダンスの際に行う説明に従って、必ず指定期日までに申込みを行ってください。

講義コード	U350305101	科目ナンバリング	035A301
講義名	コミュニケーション演習(上級)(1)		
英文科目名	German Communication (Advanced Class)		
担当者名	櫻井 麻美		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 金曜日 5時限 西1-109		

授業概要

この授業では、初級文法を復習しつつ、状況ごとに適切な語彙・表現を用いて自ら発信する訓練をします。その際、正しい文構造だけでなく、ドイツ語の適切な語感が身につくような練習をしていきます。

到達目標

- ・語彙を増やし、ただドイツ語が通じるというだけでなく、シチュエーションごとに適切な表現を用いて自然なドイツ語で発信ができるようになる。
- ・正しい文構造に基づいた表現ができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス(授業の進め方、一般的な注意)、Kennlernen(授業の準備)
第2回	Lektion 1 Urlaubsplanung(休暇の計画)
第3回	Lektion 1 Im Reisebüro und im Hotel(旅行会社で・ホテルで)
第4回	Lektion 1 問い合わせメール、読解:休暇について
第5回	Lektion 1の小テスト Lektion 2 Was hast du in der Stadt gemacht?(街で何をしましたか?)
第6回	Lektion 2 Wegbeschreibung und Verkehrsmittel(道案内と交通手段)
第7回	Lektion 2 家に人を招待するメール、読解:ベルリンについて
第8回	Lektion 2の小テスト Lektion 3 Begründen(自分の意見をとその根拠を伝える)
第9回	Lektion 3 Vergleichen(2つのことを比較してその根拠を述べる)
第10回	Lektion 3 ブログにコメントを書く、読解:ドイツの大学について
第11回	Lektion 3の小テスト Lektion 4 Über die Freizeit sprechen(余暇活動について話す)
第12回	Lektion 4 Wie fühlst du dich?(体調について伝える)
第13回	Lektion 4 読解:統計資料、ドイツ人とスポーツについて Lektion 4の小テスト

授業方法

この授業は対面で行う演習です。課題の説明は最小限にとどめて、グループやペアでの練習を多く行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・予習:次回の授業で扱う箇所の発音練習を付属の音源を聴きながら行い、単語の意味を調べる。(30～60分程度)
- ・復習:授業で新たに学習した語彙、フレーズを整理し、語彙を増やすことを目標に音読・暗記をする。また、扱った文法項目について、練習問題に繰り返し取り組み、自分の表現に取り入れられるようにする。(60～90分程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	60 %	各課ごとに行う小テストを評価
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	積極的な授業参加、課題提出、出席などを評価
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

各課ごとに行う小テストでは、自分で表現・発信する際に、学習したことを応用させ、用いることができているかという点を中心に評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題は、添削後返却し、授業内でフィードバックします。

教科書

スタート!2 –コミュニケーション活動で学ぶドイツ語,藤原、本河、野村、Waychert,三修社,4,2022,978-4-384-13096-6

教科書コメント

第2学期の「コミュニケーション演習(上級)(2)」では、同じ教科書の後半部分を扱います。

参考文献コメント

参考文献は授業の中で随時紹介します。

履修上の注意

第2学期に開講される「コミュニケーション演習(上級)(2)」と合わせて履修することが望ましい。
人数制限は設けないが、第1回の授業に必ず参加すること(参加しなかった場合は参加を断ることがある)。

その他

自分のドイツ語力を積極的に伸ばしたい学生を歓迎します。授業での練習・課題をきちんとこなすだけでなく、その一歩先まで自分で調べて・学ぶ姿勢を求めます。

講義コード	U350305102	科目ナンバリング	035A301
講義名	コミュニケーション演習(上級)(2)		
英文科目名	German Communication (Advanced Class)		
担当者名	櫻井 麻美		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 金曜日 5時限 西1-109		

授業概要

この授業では、初級文法を復習しつつ、状況ごとに適切な語彙・表現を用いて自ら発信する訓練をします。その際、正しい文構造だけでなく、ドイツ語の適切な語感が身につくような練習をしていきます。

到達目標

- ・語彙を増やし、ただドイツ語が通じるというだけでなく、シチュエーションごとに適切な表現を用いて自然なドイツ語で発信ができるようになる。
- ・正しい文構造に基づいた表現ができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	第1学期の復習、Über die Ferien berichten
第2回	Lektion 5 Traumberuf(なりたい職業)
第3回	Lektion 5 Über eigenes Studentenleben(学生生活について)
第4回	Lektion 5 アポイントメントを取る、読解:ドイツの教育制度について
第5回	Lektion 5の小テスト Lektion 6 Anzeige lesen und sich anmelden(広告を読んで申し込む)
第6回	Lektion 6 Probleme im Alltag besprechen(日常生活で起こる問題について話す)
第7回	Lektion 6 希望・苦情を伝えるメール、読解:ドイツの学生アルバイト事情について
第8回	Lektion 6の小テスト Lektion 7 Über die Feste lesen und sprechen(祝い事について読む・話す)
第9回	Lektion 7 Was gefällt dir?(服装や色など自分の好みを伝える)
第10回	Lektion 7 招待状の返事を書く、読解:ドイツのクリスマスについて
第11回	Lektion 8 Probepfprüfung Lesen(検定試験に挑戦/読解)
第12回	Lektion 8 Probepfprüfung Hören(検定試験に挑戦/聴解)
第13回	Lektion 8 Probepfprüfung Schreiben(検定試験に挑戦/作文)

授業方法

この授業は対面で行う演習です。課題の説明は最小限にとどめて、グループやペアでの練習を多く行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・予習:次回の授業で扱う箇所の発音練習を付属の音源を聴きながら行い、単語の意味を調べる。(30～60分程度)
- ・復習:授業で新たに学習した語彙、フレーズを整理し、語彙を増やすことを目標に音読・暗記をする。また、扱った文法項目について、練習問題に繰り返し取り組み、自分の表現に取り入れられるようにする。(60～90分程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	60 %	各課ごとに行う小テストを評価
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	積極的な授業参加、課題提出、出席などを評価
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

各課ごとに行う小テストでは、自分で表現・発信する際に、学習したことを応用させ、用いることができているかという点を中心に評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題は、添削後返却し、授業内でフィードバックします。

教科書

スタート!2ーコミュニケーション活動で学ぶドイツ語,藤原、本河、野村、Waychert,三修社,4,2022,978-4-384-13096-6

教科書コメント

第1学期の「コミュニケーション演習(上級)(1)」で使用した教科書の後半部分を扱います。

参考文献コメント

参考文献は授業の中で随時紹介します。

履修上の注意

第1学期に開講される「コミュニケーション演習(上級)(1)」と合わせて履修することが望ましい。
人数制限は設けないが、第1回の授業に必ず参加すること(参加しなかった場合は参加を断ることがある)。

その他

自分のドイツ語力を積極的に伸ばしたい学生を歓迎します。授業での練習・課題をきちんとこなすだけでなく、その一歩先まで自分で調べて・学ぶ姿勢を求めます。

講義コード	U350305103	科目ナンバリング	035A301
講義名	コミュニケーション演習(上級)(3)		
英文科目名	German Communication (Advanced Class)		
担当者名	MEYER, Thomas Horst		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 月曜日 4時限 中央-508		

授業概要

Der Kurs richtet sich an Studierende mit fortgeschrittenen Kenntnissen der deutschen Sprache und bietet ihnen die Möglichkeit, ihre Sprechfähigkeiten zu konsolidieren und zu erweitern. Der Unterricht wird auf Deutsch abgehalten, kurze Interventionen auf Japanisch sind jedoch möglich.

到達目標

Die Teilnehmer sollen in Partner- und Gruppenarbeit Funktion und Einsatz von Redemitteln erlernen und ihre variablen Anwendungsmöglichkeiten ausprobieren können. Die Studenten erhalten jeweils ausreichend Zeit, das Erlernete praktisch anzuwenden und je nach Leistungsstärke und Eigeninteresse in Partner- und Gruppenarbeit zu variieren. Ziel ist es, die allgemeine Sprech- und Kommunikationsfähigkeit der Teilnehmer zu verbessern.

Die Beherrschung des Grundwortschatzes wird vorausgesetzt!

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung/Bildbeschreibung I
第2回	Bildbeschreibung II
第3回	Wegbeschreibung und Orientierung
第4回	Personenbeschreibung I
第5回	Personenbeschreibung II + Hypothesen
第6回	Sachbeschreibung (Formen, Farben, Materialien)
第7回	Abstrakte Bilder (Vergleiche, Konjunktiv)
第8回	Schaubilder - Diagramme - Statistiken I
第9回	Schaubilder - Diagramme - Statistiken II
第10回	TestDAF Mündliche Prüfung I
第11回	TestDAF Mündliche Prüfung II
第12回	Diskussion und Fragen I
第13回	Diskussion und Fragen II

授業方法

Die Arbeitsmaterialien und Aufgaben werden vom Kursleiter bereitgestellt und erläutert. Häufig gibt es eine kleinere Vorübungen oder schriftliche Aufgaben, die in Einzel- oder Partnerarbeit erledigt werden, bevor die Teilnehmer dann in Partner- oder Gruppenarbeit den Einsatz bestimmter Redemittel jeweils bezogen auf konkrete Aufgabenstellungen (etwa Bildbeschreibung oder Erläuterung einer Statistik) einüben können. Das Einüben der Redemittel wird gelegentlich mit wechselnden Sprechpartnern wiederholt.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Neben der üblichen Vor- und Nachbereitung des Unterrichts werden die Teilnehmer gelegentlich dazu angehalten, eigenständig Übungsmaterial für die nächste Sitzung zu beschaffen.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	mündliche Prüfung
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

mündliches Feedback, persönliche Sprechstunde (falls erwünscht)

講義コード	U350305104	科目ナンバリング	035A301
講義名	コミュニケーション演習(上級)(4)		
英文科目名	German Communication (Advanced Class)		
担当者名	MEYER, Thomas Horst		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 月曜日 4時限 中央-508		

授業概要

Der Kurs richtet sich an Studierende mit fortgeschrittenen Kenntnissen der deutschen Sprache und bietet ihnen die Möglichkeit, ihre Sprechfähigkeiten zu konsolidieren und zu erweitern. Während im Sommersemester eher bestimmte Strukturen und Aufgabentypen im Vordergrund stehen, die Bestandteil von üblichen Deutschprüfungen sind (TestDAF, 独検 etc.), liegt der Fokus im Wintersemester auf diversen Themenfeldern, die teilweise von der Teilnehmern selbst bestimmt werden können. Der Unterricht wird auf Deutsch abgehalten, kurze Interventionen auf Japanisch sind jedoch möglich.

到達目標

Die Teilnehmer sollen in Partner- und Gruppenarbeit Funktion und Einsatz von Redemitteln erlernen und ihre variablen Anwendungsmöglichkeiten ausprobieren können. Die Studenten erhalten jeweils ausreichend Zeit, das Erlernete praktisch anzuwenden und je nach Leistungsstärke und Eigeninteresse in Partner- und Gruppenarbeit zu variieren. Ziel ist es, die allgemeine Sprech- und Kommunikationsfähigkeit der Teilnehmer zu verbessern. Die Beherrschung des Grundwortschatzes wird vorausgesetzt!

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung / Semesterferien
第2回	Familie
第3回	(Lieblings-)Gegenstände
第4回	Hobbys / Talente
第5回	Musik
第6回	Träume ↔ Trauma
第7回	Medien
第8回	Erziehung
第9回	Gesundheit
第10回	Geld / Wirtschaft
第11回	Themen und Materialien der Kursteilnehmer I
第12回	Themen und Materialien der Kursteilnehmer II
第13回	Themen und Materialien der Kursteilnehmer III

授業方法

Die Arbeitsmaterialien und Aufgaben werden in den Stunden 1-10 vom Kursleiter bereitgestellt und erläutert. Die Teilnehmer sind jedoch an der Vorbereitung beteiligt, indem sie eigenständig oder in Partnerarbeit Fragen, Redemittel und themenbezogenes Vokabular erarbeiten, die sie später im Unterricht einsetzen. Die Gesprächsstübungen teilen sich im Wesentlichen in Partnerinterviews und Gruppendiskussionen auf. Dies überlässt den Teilnehmern ein hohes Maß an Selbststeuerung (auch in Bezug auf Korrektur und Feedback des Kursleiters). Die Teilnehmer wählen selbst die Themen der Stunde 11-14 und bereiten entsprechende Arbeitsmaterialien vor.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Neben der üblichen Vor- und Nachbereitung des Unterrichts werden die Teilnehmer gelegentlich dazu angehalten, eigenständig Übungsmaterial für die nächste Sitzung zu beschaffen.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	mündliche Prüfung
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	

平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)

%

その他(備考欄を参照)		
-------------	--	--

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

mündliches Feedback, persönliche Sprechstunde (falls erwünscht)

講義コード	U350305105	科目ナンバリング	035A301
講義名	コミュニケーション演習(上級)(5)		
副題	Alltag in DACH Ländern		
英文科目名	German Communication (Advanced Class)		
担当者名	IHLOW, Uwe		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 木曜日 3時限 西1-202		

授業概要

In diesem Kurs ist das Leben der Menschen in deutschsprachigen Ländern das Thema. Mit Texten von unterschiedlichen Textsorten (lesen, hören, sehen) werden verschiedene Aspekte des Lebens vorgestellt. Das können persönliche, alltägliche Themen wie Familie oder Feste sein, aber auch gesellschaftliche Themen wie Migration oder die Wiedervereinigung.

到達目標

Nachdem die Studierenden mit Hilfe von Texten (lesen, hören, sehen) Informationen zu einem Thema verstanden haben, tauschen sie eigene Ideen, Gedanken, Meinungen usw. miteinander aus. Dies kann mündlich (sprechen) oder schriftlich (schreiben) geschehen.

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung Einführung
第2回	Das Leben in der Gesellschaft 1
第3回	Das Leben in der Gesellschaft 2
第4回	Das Leben in der Gesellschaft 3
第5回	Meine Reise in/nach Deutschland 1
第6回	Meine Reise in/nach Deutschland 2
第7回	Meine Reise in/nach Deutschland 3
第8回	Weg hier! Migration 1
第9回	Weg hier! Migration 2
第10回	Weg hier! Migration 3
第11回	Jedes Jahr ist Weihnachten 1
第12回	Jedes Jahr ist Weihnachten 2
第13回	Jedes Jahr ist Weihnachten 3 und Semesterabschluss

授業計画コメント

Diese Themen und deren Reihenfolge sind Vorschläge. Sie können auch, z.B. durch Vorschläge der Studierenden, geändert werden.

授業方法

Die Studierenden bearbeiten die Aufgaben vor allem in Paar- und Gruppenarbeit im Präsenzünterricht. Das Schreiben eigener Texte – meistens als Hausaufgabe – ist ein wichtiger Teil des Kurses.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

- Vorbereitung der Lesetexte
- Schreiben eigener Texte

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	Hausaufgaben
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Kontaktadresse: uweihlow@web.de

参考文献コメント

Texte werden als Kopien verteilt oder auf "Moodle" heruntergeladen.

講義コード	U350305106	科目ナンバリング	035A301
講義名	コミュニケーション演習(上級)(6)		
副題	Alltag in DACH Ländern		
英文科目名	German Communication (Advanced Class)		
担当者名	IHLOW, Uwe		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 木曜日 3時限 西1-202		

授業概要

In diesem Kurs ist das Leben der Menschen in deutschsprachigen Ländern das Thema. Mit Texten von unterschiedlichen Textsorten (lesen, hören, sehen) werden verschiedene Aspekte des Lebens vorgestellt. Das können persönliche, alltägliche Themen wie Familie oder Feste sein, aber auch gesellschaftliche Themen wie Migration oder die Wiedervereinigung.

到達目標

Nachdem die Studierenden mit Hilfe von Texten (lesen, hören, sehen) Informationen zu einem Thema verstanden haben, tauschen sie eigene Ideen, Gedanken, Meinungen usw. miteinander aus. Dies kann mündlich (sprechen) oder schriftlich (schreiben) geschehen.

授業内容

実施回	内容
-----	----

第1回	"Ein bisschen Geschichte": die Berliner Mauer und Wiedervereinigung 1
第2回	"Ein bisschen Geschichte": die Berliner Mauer und Wiedervereinigung 2
第3回	"Ein bisschen Geschichte": die Berliner Mauer und Wiedervereinigung 3
第4回	Geschichte einer Stadt 1
第5回	Geschichte einer Stadt 2
第6回	Geschichte einer Stadt 3
第7回	Was ist Inklusion? 1
第8回	Was ist Inklusion? 2
第9回	Was ist Inklusion? 3
第10回	Meine Zukunft- Unsere Zukunft 1
第11回	Meine Zukunft- Unsere Zukunft 2
第12回	Meine Zukunft- Unsere Zukunft 3
第13回	Semesterabschluss

授業計画コメント

Diese Themen und deren Reihenfolge sind Vorschläge. Sie können auch, z.B. durch Vorschläge der Studierenden, geändert werden.

授業方法

Die Studierenden bearbeiten die Aufgaben vor allem in Paar- und Gruppenarbeit im Präsenzünterricht. Das Schreiben eigener Texte - meistens als Hausaufgabe - ist ein wichtiger Teil des Kurses.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

- Vorbereitung der Lesetexte
- Schreiben eigener Texte

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Kontaktadresse: uweihlow@web.de

参考文献コメント

Texte werden als Kopien verteilt oder auf "Moodle" heruntergeladen.

講義コード	U350306101	科目ナンバリング	035B302
講義名	アカデミック・ライティング演習(1)		
英文科目名	Seminar of Academic Writing		
担当者名	GOESSNER, Gesine		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 金曜日 2時限 北1-403		

授業概要

Diese Kurs gibt Studierenden, die eine Abschlussarbeit schreiben, eine Einführung in das wissenschaftliche aber auch das dafür wichtige kreative Schreiben. Es werden Grundlagen des wissenschaftlichen Arbeitens, der Seminarpräsentation, der Rhetorik sowie Diskussions- und Argumentationstechniken erarbeitet. Es besteht die Möglichkeit, begonnene Abschlussarbeiten vorzustellen und darüber im Kurs zu sprechen.

到達目標

Der Kurs vermittelt Grundlagen des wissenschaftlichen Schreibens. Dabei werden kreative Schreibprozesse berücksichtigt. Grundlegende Schreib- und Arbeitstechniken werden vermittelt. Die Reflektion über die eigene wissenschaftliche Arbeit soll angeregt werden.

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung in das Thema
第2回	Wissenschaftliches Schreiben
第3回	Wissenschaftliches und kreatives Schreiben
第4回	Clusterbildung
第5回	Interperationscluster
第6回	Bibliografie und Recherche
第7回	Wissenschaftliches Arbeiten
第8回	Titelgebung
第9回	Argumentation
第10回	Grundlagen der Rhetorik
第11回	Test
第12回	Abschlussdiskussion
第13回	Nachbereitung

授業方法

Gruppenarbeit, Gruppendiskussion, Anregungen durch Seminarleiterin und andere Teilnehmer

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

einige Texte sind zu lesen, Nachbereitung und Vorbereitung der Seminare sollten erfolgen

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Alle Teilnehmenden sollen eine kurze Präsentation halten und regelmäßig und aktiv am Seminar teilnehmen. Am Ende des Semesters gibt es einen schriftlichen Test. Die Bewertung setzt sich zusammen aus Referat (30%), Beteiligung an der Diskussion ((30%) und dem Abschlusstest (40%).

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Die Ergebnisse der Arbeiten werden im Unterricht oder im persönlichen Gespräch außerhalb des Unterrichts besprochen.

教科書コメント

Alle Arbeitsmaterialien werden vor der Seminarleiterin zur Verfügung gestellt.

参考文献コメント

Alle Arbeitsmaterialien werden von der Seminarleiterin zur Verfügung gestellt.

履修上の注意

Bitte kommen Sie zum ersten Unterricht und entscheiden Sie dann, ob Sie teilnehmen möchten.

その他

Die Unterrichtssprache ist Deutsch.

講義コード	U350306102	科目ナンバリング	035B302
講義名	アカデミック・ライティング演習(2)		
英文科目名	Seminar of Academic Writing		
担当者名	GOESSNER, Gesine		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 金曜日 2時限 北1-403		

授業概要

Der Kurs gibt allen Studierenden, die eine Abschlussarbeit schreiben, eine Einführung ins wissenschaftliche und das dafür auch wichtige kreative Schreiben. Grundlegende Schreib- und Arbeitstechniken werden vermittelt. Die Reflektion über die eigene wissenschaftliche Arbeit soll angeregt werden.

到達目標

Der Kurs vermittelt Grundlagen des wissenschaftlichen Schreibens. Dabei werden kreative Schreibprozesse berücksichtigt. Grundlegende Schreib- und Arbeitstechniken werden vermittelt. Die Reflektion über die eigene wissenschaftliche Arbeit soll angeregt werden.

授業内容

実施回	内容
第1回	Wiederholung der Ergebnisse des ersten Semesters
第2回	Grundlagen der Präsentation im Seminar
第3回	Grundlagen der Präsentation im Seminar
第4回	Vorträge der SeminarteilnehmerInnen mit anschließender Diskussion
第5回	Vorträge der SeminarteilnehmerInnen mit anschließender Diskussion
第6回	Vorträge der SeminarteilnehmerInnen mit anschließender Diskussion
第7回	Vorträge der SeminarteilnehmerInnen mit anschließender Diskussion
第8回	Vorträge der SeminarteilnehmerInnen mit anschließender Diskussion
第9回	Vorträge der SeminarteilnehmerInnen mit anschließender Diskussion
第10回	Vorträge der SeminarteilnehmerInnen mit anschließender Diskussion
第11回	Vorträge der SeminarteilnehmerInnen mit anschließender Diskussion
第12回	Abschlussdiskussion
第13回	Nachbereitung des Seminars

授業方法

Gruppendiskussion, Gruppenarbeit, Anregungen durch Seminarleiterin und TeilnehmerInnen, Mediennutzung

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Eigene Lektürearbeit. Vorbereitung der einzelnen Seminare im Umfang von ca. 1 Stunde ist oft nötig. Die Vorbeiterungszeit erhöht sich bei eigenen Referaten.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Alle TeilnehmerInnen sollten die eigene Abschlussarbeit in einer Präsentation vorstellen (ca. 30 min). Daran schließt sich eine Diskussion (ca. 15 min) an. Die regelmäßige und aktive Seminarteilnahme ist wichtig. Die Bewertung setzt sich aus einer Präsentation/Referat (50%) und der Teilnahme am Seminar (50%) zusammen.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Die Seminarleiterin spricht mit allen Teilnehmenden einzeln vor und nach des Vortrags über die Präsentationen/Referate. Darüberhinaus kann immer, vor oder nach dem Seminar, über Inhalt und Durchführung gesprochen werden. Es können auch

zusätzliche Sprechstunden vereinbart werden. Dazu nutzen Sie bitte die Email-Adresse der Seminarleiterin.

教科書コメント

Alle Texte und Materialien werden als Kopie zur Verfügung gestellt.

参考文献コメント

Alle Texte und Materialien werden als Kopie zur Verfügung gestellt.

その他

Die Unterrichtssprache ist Deutsch.

講義コード	U350307101	科目ナンバリング	035B503
講義名	ドイツ語圏インターンシップ・プログラム		
英文科目名	Intenrship Program in German speaking Countries		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	集中(通年) その他 集中講義		

授業概要

ドイツ語圏の都市で、インターンシップを行う。

到達目標

- ・ドイツ語圏の社会において、実際にドイツ語を使って意思疎通ができるようになる。
- ・仕事においてドイツ語を使えるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	現地でのインターンシップ実習
第3回	現地でのインターンシップ実習
第4回	現地でのインターンシップ実習
第5回	現地でのインターンシップ実習
第6回	現地でのインターンシップ実習
第7回	現地でのインターンシップ実習
第8回	現地でのインターンシップ実習
第9回	現地でのインターンシップ実習
第10回	現地でのインターンシップ実習
第11回	現地でのインターンシップ実習
第12回	現地でのインターンシップ実習
第13回	中間報告
第14回	現地でのインターンシップ実習
第15回	現地でのインターンシップ実習
第16回	現地でのインターンシップ実習
第17回	現地でのインターンシップ実習
第18回	現地でのインターンシップ実習
第19回	現地でのインターンシップ実習
第20回	現地でのインターンシップ実習
第21回	現地でのインターンシップ実習
第22回	現地でのインターンシップ実習
第23回	現地でのインターンシップ実習
第24回	現地でのインターンシップ実習
第25回	現地でのインターンシップ実習
第26回	総括

授業方法

現地で実践的に行われる。

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

実際に行う仕事の内容についてよく考えて、あらかじめドイツ語表現を調べておく(1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		

中間テスト

レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

実際にインターンシップを行うにあたり生じた疑問に関して、その都度フィードバックを行う。

履修上の注意

- ・受講希望者は、学科の指定するガイダンスに必ず出席し、受講登録をする前に必ず相談をすること。
- ・インターンシップを行うためには、最低でも Zertifikat Deutsch (ヨーロッパ言語共通参照枠 B1)の試験に合格しているか、あるいはそれ以上のドイツ語力が必要とされる。
- ・したがって、受講登録してもドイツ語能力が不足する場合にはインターンシップが許可されない場合がある。

講義コード	U350308101	科目ナンバリング	035B504
講義名	海外ドイツ語・文化研修		
英文科目名	Language and Culture Program in German speaking Countries		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	集中(通年) その他 集中講義		

授業概要

ライプツィヒ大学またはバイロイト大学が提供する1ヶ月のドイツ語研修に参加する。

到達目標

- ・ドイツ語の高いコミュニケーション能力を獲得する。
- ・ドイツ語圏の社会において、実際にドイツ語を使って意思疎通ができるようになる。
- ・ドイツ語圏の大学で授業を受けられる程度のドイツ語能力を獲得する。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	現地での語学・文化研修
第3回	現地での語学・文化研修
第4回	現地での語学・文化研修
第5回	現地での語学・文化研修
第6回	現地での語学・文化研修
第7回	現地での語学・文化研修
第8回	現地での語学・文化研修
第9回	現地での語学・文化研修
第10回	現地での語学・文化研修
第11回	現地での語学・文化研修
第12回	現地での語学・文化研修
第13回	中間報告
第14回	現地での語学・文化研修
第15回	現地での語学・文化研修
第16回	現地での語学・文化研修
第17回	現地での語学・文化研修
第18回	現地での語学・文化研修
第19回	現地での語学・文化研修
第20回	現地での語学・文化研修
第21回	現地での語学・文化研修
第22回	現地での語学・文化研修
第23回	現地での語学・文化研修
第24回	現地での語学・文化研修
第25回	現地での語学・文化研修
第26回	総括

授業計画コメント

現地の授業では、ドイツ語の授業の他に、プロジェクトワークや遠足など多彩なプログラムが用意されている。

授業方法

現地で実践的に行われる。

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

現地での授業についていくためには、毎日、3時間程度の予習・復習が必要である。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		

学期末試験(第1学期)

学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業評価は現地の語学学校でCEFRに基づいた試験および平常点によって算出された評点に基づき、授業内容やクラスのレベル等を考慮して総合的に判断する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

実際に語学・文化研修に参加するにあたり生じた疑問に関して、その都度フィードバックを行う。

履修上の注意

- ・受講希望者は、学科の指定するガイダンスに必ず出席し、受講登録をする前に必ず相談をすること。
- ・ライプツィヒ大学のコースに参加するためには、A2レベル、バイロイト大学のコースに参加するためにはB1レベルかあるいはそれ以上のドイツ語力が必要とされる。

その他

- ・現地の語学コースの参加料と宿泊料金(学生寮またはホームステイ)を併せて2000ユーロほどかかる。
- ・航空機は自分で手配する。
- ・ユーロと日本円のレートによるが、生活費を含めてトータルで60万円ほどの自己負担が必要。